

右調和一日三回每一食匙
人工カル、ス泉鹽

三〇・〇

餾水

右一日三回二分服

二〇〇・〇

虎列拉病

Cholera.

コレラ

原因 千八百八十三年ローベルト、コッホ氏發見ノ所謂「コンマバチルレン」ノ體內侵入即チ傳染ナリ飲食ノ不攝生、不良ノ飲水、寒胃等凡テ腸加答兒ヲ誘起スル者はカ媒介トナル

診候 單純性虎列拉下痢 Die einfache Cholera diarrhoe.

吐腹雷鳴、下痢數回(一日六回乃至八回)全身倦怠、食氣缺乏、皮膚厥冷、尿量減少、嘔吐、煩渴、腓腸攣痛、脈搏細微、經過數日乃至一週ニシテ治シ或ハ輕症若クハ重症ナル虎列拉ニ轉ス

類似虎列拉(輕症虎列拉) Die Cholerae. ニアリテハ水瀉數回遂ニ米泔汁様ノ下痢トナリ又同様ノ液ヲ吐シ泌尿減少或ハ絶止、手足厥冷、蒼白、高度ノ脫力ヲ呈シ脈搏減少、頻數、腓腸疼痛ヲ發ス經過善良ニシテ廿四時間内十數回ノ下痢後速カニ治ニ赴クモノアリ或ハ眞性虎列拉ニ轉ス

眞性虎列拉 Die eigentliche Cholera diarrhoe. (假死性虎列拉 Cholera asphyctics) ハ或ハ虎列拉下痢或ハ類似虎列拉ヨリ轉ジ或ハ突然本症ヲ發ス全身衰弱、體温下降、脈搏頻數且細少、泌尿減少或絶止、無痛性米泔汁様液ノ吐瀉(一日二十乃至三十回下痢)眼窩陷凹、鼻渠屹立、皮膚厥冷、チアノーゼヲ呈シ之ヲ撮メバ皺襞ヲ留メ、諸筋痙攣(特ニ腓腸)呼吸困難ヲ呈シ數時間乃至一日間ニシテ死シ或ハ諸症輕快シテ一二週間ニシテ治ス、時トノ虎列拉性類似窒扶斯 Cholera typhoid. ヲ發ス○下痢ヲ發セスシテ經過スルモノアリ之ヲ乾性虎列拉 Cholera sicca. ト名ク

豫後 單純性及輕症ニ於テハ概チ良ナルモ眞性ニ轉スルノ虞アリ、眞性ハ不良

療法 本病流行ノ兆アルトキハ各自一層其攝生ニ注意シ飲料水ヲ煮沸シ食物モ必ラス煮沸シタルモノ、ミヲ用并蠅ハ傳播ノ媒介ヲナスヲ以テ之レヲ防ギ就中之レヲ食物ニ觸レシメサル様注意スベシ○消化器ノ障害アル片ハ直チニ醫療ヲ乞フベシ○本病ノ療法トシテ先ツ甘汞下劑ヲ投ジ爾後阿片、興奮藥ヲ投ジ腹部温罨法、導中湯婆ヲ用キ眞性ニ在リテハ食鹽水ノ皮下若クハ靜脈内注入法ヲ賞用ス其他「モルヒチ」ノ皮下注射樟腦ノ皮下注射ハ對症の療法ノ主要ナルモノナリトス○患者ノ吐

ハ不良

虎列拉病

一七七

瀉物及ヒ之レニ汚染シタルモノハ悉ク生石灰乳ヲ以テ丁寧ニ消毒ス可
シ尙ホ附録消毒法ノ條ヲ參考スヘシ○本病ハ届出ヲ要ス
本病流行時ニ豫防薬トシテ左方
稀鹽酸 各二〇・〇
アルコホル

右毎日數回數滴宛煮沸シタル水
ニ混シ用ユ

本病ニ罹リタルトキハ左方

甘汞 〇・五

乳糖 〇・五

右爲一包與三包每三時一包宛

甘汞 〇・二

乳糖 〇・三

右爲一包與五包每二十分一包

芳香阿片丁

薄荷油

精製樟腦

薄荷油

各一〇・〇

右二十乃至三十滴每一時乃至數
時水或ハ酒ニテ用ユ(ベルツ氏)

阿片丁

エーテル製蘇草丁

右每三時十乃至二十滴(虎列拉
輕症虎列拉、下痢アイヒホルス
ト氏)

ドーフル散

甘汞

白糖

右爲一包與十包每三時一包(眞
性虎列拉アイヒホルスト氏)

ザロール

次硝若(撒酸若鉛)

右一包トシ十包ヲ與フ每二時一

各二〇・〇

各一〇・〇

各一〇・〇

各一〇・〇

各一〇・〇

各一〇・〇

各一〇・〇

各一〇・〇

各一〇・〇

各一〇・〇

各一〇・〇

各一〇・〇

各一〇・〇

各一〇・〇

各一〇・〇

各一〇・〇

各一〇・〇

各一〇・〇

各一〇・〇

各一〇・〇

各一〇・〇

各一〇・〇

各一〇・〇

各一〇・〇

各一〇・〇

各一〇・〇

各一〇・〇

各一〇・〇

各一〇・〇

各一〇・〇

各一〇・〇

各一〇・〇

各一〇・〇

各一〇・〇

各一〇・〇

各一〇・〇

各一〇・〇

各一〇・〇

各一〇・〇

包

阿片 〇・二

次硝酸若鉛 〇・五

白糖 五・〇

右研和散十包ニ分子毎時一包

カンベツヒ木煎

(二〇・〇)二〇〇・〇

コロンホ越 五・〇

橙皮會 二〇・〇

右每一時一食匙

サレツプ根煎 二〇〇・〇

サフラン阿片丁 二十滴

右每半時一食匙内服或ハ瀉腸

コロンホ末 一・〇

水製阿片越 〇・二

白糖 五・〇

右研和散十包ニ分子朝夕一包

水製阿片越 〇・一

虎列拉病

餾水

右調和皮下注射料

阿片丁 五・〇

水製蘆薈越 四・〇

右十乃至十五滴ヲ一蓋ノ葡萄酒
ニ混シ用ユ(虎列拉滴劑)

食鹽 六・〇

炭酸ナトリウム 一・〇

餾水 一〇〇〇・〇

右調和三十八度ニ温メ皮下蜂窩
織内ニ注入ス可シ(胸側若クハ
腹部)

タンニン酸 一〇・〇

阿片丁 二・〇

カミルレ浸 二〇〇〇・〇

右調和腸注入料

二百倍鹽酸水 一〇〇〇・〇

右四十度ニ温メ二〇〇・〇ヲ一

各一〇・〇

各一〇・〇

各一〇・〇

各一〇・〇

各一〇・〇

各一〇・〇

各一〇・〇

各一〇・〇

各一〇・〇

各一〇・〇

各一〇・〇

各一〇・〇

各一〇・〇

各一〇・〇

各一〇・〇

各一〇・〇

各一〇・〇

同ノ瀉腸料トス(小兒ハ一〇〇・〇)

劇甚ナル嘔吐ヲ兼ヌルモノニハ左方

鹽莫 〇・二
 縮水 一〇・〇
 右四分ノ一筒乃至半筒

鹽莫 〇・〇五
 芳香阿片丁 二十滴
 杏仁水 一〇・〇
 右調和每半時十滴

麥角越 三十滴
 硫黃 〇・〇四
 硫酸アトロピ子 〇・〇〇二
 縮水 二・〇
 右調和皮下注射料二回分

「チヤノーゼ」等ノ症ヲ呈スルモノニ
 阿片 〇・二
 樟腦 〇・三

白糖 三・〇
 右研和散十包ニ分チ每時一包

虛脫ニ陥ラントスルモノニハ左方

桂皮水 各一五・〇
 桂皮精 二個
 卵黃 三〇・〇
 コンニヤツク酒 右每時一茶匙

樟腦 〇・三
 白糖 二・〇
 右研和散十包ニ分チ每時一包

樟腦 一〇・〇
 エーテル 一〇・〇
 麝香 右一筒宛皮下注射料 〇・三
 薄荷油 十滴
 エーテル 一〇・〇
 右調和每時五乃至十五滴

杜松實油 一〇・〇
 醋酸エーテル 一〇・〇
 右調和每時十乃至十五滴

エーテル 二・〇
 橙皮會 二〇・〇
 縮水 一〇・〇

右調和每時一食匙

腓腸筋ノ痙攣ニハ左方

芥子精 九五・〇
 杜松子油 五・〇
 右塗擦料

小兒吐瀉 Cholera infantum. コレラ、インファンツム 即チ嬰兒 虎列拉

原因 感冒或ハ飲食ノ不攝生ナリ夏時炎熱ノ候ニ多シ

診候 吐瀉、疝痛、腹鳴、腓腸筋痙攣、皮膚厥冷、搐搦、脱力、嘶嘎等

豫後 概チ不良

療法 先ツ安臥靜息ヲ命ジ飲食ヲ慎マシメ上腹ニブリースニツツ氏ノ卷法及澱粉亞麻仁或ハ「サレップ」根煎ノ瀉腸ヲ行ヒ内腹ニハ止瀉劑ヲ(腸加答兒ノ條下ヲ看ヨ)與ヘ哺乳兒ニハ乳母ノ變換犢肉羹汁ニ牛乳ヲ和シ每時三四茶匙ヲ與ヘ又強劇ノ嘔吐ニハ胃ノ洗滌或ハ蛋白水ノ内用厥冷期ニハ芥子浴「ラム」酒、「コンニヤツク」、酒「カフェイン」、「樟腦」、「アム

モニア^ル苗香精ノ内服等以上ノ法ヲ處スルモ病勢更ニ衰ヘズシテ身體ノ水分甚タシク消失爲メニ危險症狀ニ陥ラントスルハ食鹽水(〇・六%)五〇〇・〇一〇〇〇以上(二十四時間)ノ皮下注入及デムメ氏胃腸洗滌法二二・五%ノ硼酸水ヲ用ヒテマイキルト氏ノ賞用セル多量ノ水ノ注入等ヲ試ム可シ

- 甘汞 〇〇〇五乃至〇〇一
- 白糖 〇・五
- 右爲一包與十包毎二時一包
- レソルチン 〇・三乃至〇・五
- 苦丁 一〇〇
- 單舍 二〇〇
- 餛水 八〇〇
- 右黑色瓶ニ入レテ與フ毎二時一茶匙
- 安息香酸ナトリウム 二〇〇
- 餛水 一〇〇〇
- 右胃洗滌料 一〇〇〇
- クレオソルト 六滴
- 餛水 一〇〇〇
- 右混和灌腸料
- 過クローン鐵液 十滴
- 餛水 四〇〇
- 右二回ニ灌腸ス
- 麥角越 各五〇
- 安息香阿片丁 一〇〇
- 薄荷水 二〇〇
- 橙皮舍 二〇〇
- 右調和毎二時一茶匙
- 結晶硝酸銀 〇・一

小兒吐瀉

- サレツブ煎 五〇〇
- 右調和二回灌腸料
- サリチール酸 一〇ヲ適宜ノ酒精ニ溶解セシメテ後餛水五〇〇ヲ加フ
- ベシ
- 右二回ノ灌腸料
- クレオソルト 一乃至三滴
- 阿片丁 一乃至二滴
- 桂皮水 各五〇
- 單舍 一〇〇
- 餛水 一〇〇
- 右調和毎時一茶匙
- カミルレ浸 (一〇〇)一〇〇
- レソルチン 一〇
- 薄荷水 各五〇
- 單舍 各五〇
- 右調和毎時一食匙
- 盧脫ニハ左方ヲ處シテ効アリ

- 食鹽 四〇
- 炭酸ナトロン 三〇
- 餛水 一〇〇〇
- 右調和煮沸シテ後濾過シ微温トナシテ胃ノ洗滌トナス
- エーテル 二〇
- ゴム合劑 一〇〇〇
- 桂皮水 各五〇
- 單舍 各五〇
- 右調和毎時一茶匙
- アムモニア苗香精 各一〇〇
- エーテル精 各一〇〇
- 右毎半時三乃至七滴
- 安息香酸ナトリウム 〇・五
- 再餛酒精 二〇
- 單舍 一五〇
- 餛水 一〇〇
- 右調和毎時二乃至二小兒匙

樟腦
オレノフ合劑 一〇〇・〇

右調和每半時一小兒匙

疼痛性陰莖勃起

Chorda. コルダ

原因 淋疾性尿道周圍膿瘍ノ爲メニ陰莖海綿體血行ノ鬱滯等ヨリ來ルコト多シ又神經的疾患ニ因ルモノ有リ

診候 陰莖ノ角弓反張及疼痛ナリ毫モ情意ニ關セズ

療法 良

陰莖及ヒ會陰ニ冷卷法ヲ行ヒ或ハ適當ナル軟膏ヲ塗擦シ其劇甚ナルモノニハ「モルヒチ」ヲ坐藥トシ或ハ皮下ニ注射ス又亞硝酸「アミール」ヲ三乃至五滴吸入セシム臭剝或ハ樟腦ノ内用モ亦効アリ時ニ或ハ電氣療法、灸點等

鹽酸コカイン 〇・一
縮水 五・〇

右即五十倍コカイン水、一日四乃至五回一乃至二滴尿道ニ注射ス

黃岩越 一・〇
ラノリン 八・〇
ワゼリン 二・〇
右會陰及ヒ陰莖ニ塗擦
鹽莫 〇・一

カ、オ脂 適宜

右坐藥五個ニ作り毎一二個

抱水クロラール 三・〇

單會 一五・〇

縮水 一〇〇・〇

右調和二分シテ其一半ハ直チニ

之ヲ用キ十分時ヲ經テ尙ホ睡ラ

ザレハ殘一半ヲ内服セシム可シ

抱水アミールン 五・〇

橙花水 五〇・〇

橙皮會 三〇・〇

右調和二分シテ其一半ヲ一夕ニ

與フ

水製阿片越 〇・二

カ、オ脂 適宜

右坐藥五個ニ作り毎夕二個

忽布腺 一〇・〇

樟腦 〇・一

忽布腺越 適宜

右十粒トシ一二時間毎ニ二粒宛

樟腦 〇・五

卵黃 一個

水製阿片越 〇〇・五

縮水 一五〇・〇

右混和二回灌腸料

小舞蹈病

Chorea minor. コレア・ミノール

原因 身體發育期ノ病ニシテ眞齒發生期ヨリ生殖器發育期ニ至ル女子ニハ殊ニ多シ腸蟲、生齒貧血其他癩麻質斯或ハ心臟病ニ誘起スルコトアリ歐洲ニ多ク本邦ニ稀ナリ妊婦ニ本病ヲ發スルコトアリ(妊婦舞蹈病)

疼痛性陰莖勃起 小舞蹈病

診候 隨意筋ニ起ル不隨意ノ筋縮ニシテ種々異様奇形ノ痙攣ヲナス其ノ運動ハ感動ニヨリ増劇シ睡眠中ハ停止ス、筋肉ハ絶エズ運動スルニ拘ハラズ疲勞ヲ感ゼズ、患者ノ性情變化シ、刺戟性トナル其他全身違和、知覺過敏、食思缺損等ノ症ヲ顯ハスモノナリ

療法

其原因ヲ除クコトヲ勉ムベシ（腸蟲驅除、拔齒、人工墮胎）○**瘰癧**質斯ニ續發シタルモノニハ撒曹、貧血アルモノニハ鐵劑及「キニーチ」ヲ與フ○冷水灌漑法ヲ行ヒ虛弱ナル小兒ニハ頭部及ビ背部ニ「灌漑」ベシ○食物ニハ滋養品ヲ撰ミ住居ニハ空氣ノ流通ヲ善クシ而シテ精神及ビ身體勞働ヲ慎マシムベシ其他「ガルバニ」電氣或ハ按摩ヲ賞用ス

含糖炭酸鐵 一〇〇
 酸化亞鉛 一〇〇
 白糖 一〇〇
 右散トナシ一日三回每一刀尖
 拘攣酸鐵キニーチ 一〇〇
 苜蓿油糖 三〇〇
 右散十包トナシ毎日三包

法水 右一日三回五滴ニ始マリ増加シテ二十滴乃至每二十五滴ニ至ル

法水 右皮下注射料（五滴ニ始マリ二滴宛増加ス）

法水 各五〇
 細水 右一日三回每六滴
 アンチピリン 一〇〇
 右分四包一日二包
 プロームカリウム 五〇
 二〇〇
 橙皮舎 一〇〇
 細水 一〇〇
 右調和一日三回每二食匙
 プロームカリウム 五〇
 泥莖根末及越 適宜
 右丸二十粒ニ作り朝夕每一粒
 林擒鐵丁 各五〇
 法水 右一日五滴ヨリ増加シテ二十滴
 サリピリン 〇・五
 右爲一包與六包一日三回一包宛
 ザロフヘン 〇・五

亞鉛華 右爲一包與六包一日三回一包宛
 白糖 〇・五
 右五包ニ分チ一日三回每一包
 纈草酸亞鉛 二〇〇
 白糖 二〇〇
 右五包ニ分チ一日三回每一包
 亞鉛華 〇・二五
 纈草末 一〇〇
 ゴム散 一〇〇
 右三十包ニ分チ一日三回每一包
 抱水クロラール 五〇
 單舎 三〇〇
 細水 一五〇
 右調和毎時一食匙
 硫酸フイソスチグミン 〇・〇一
 細水 一〇〇
 右每日半筒ヨリ漸次増量シテ二

筒ニ至ル(皮下注射料)
鹽酸ヒヨスチニン
縮水

〇・〇一
一〇・〇

右同上
エギサルギン

右分十包毎日三包砂糖湯ニテ用ユ
二一〇

脈絡膜炎 Chorioiditis.

コリタイチス

原因 黴毒、痲瘋質斯、間歇熱、妊娠、月經不調其他全身病、近視及ビ原因不明

診候 漿液性ハ屢毛様炎虹彩炎ニ併發、眼底變狀著カラズ漿液性虹彩毛様炎ト合スレバ該症著シク本症著明ナラズ、網膜疾患硝子體濁濁ヲ來セバ視力減ズ本病ハ續發性綠内障ノ虞アリ故ニ本症ノ疑アルトキハ視力視野光覺ヲ頻回精査スベシ○化膿性虹彩脈絡膜炎(全眼球炎又化膿性脈絡膜炎)ノ急性症ニアリテハ眼瞼充血腫脹、結膜ノ腫脹角膜及前房水ノ濁濁、眼球ノ緊張突出ヲ發シ疼痛ヲ訴ヘ發熱惡心嘔吐等ヲ伴フ一ニ週ノ後角膜若クハ鞏膜ヲ破壞シ膿汁ヲ排出シ或ハ排膿ナクシテ諸症消散シ眼球縮少眼球癆ニ陥ルモノナリ其慢性症ニアリテハ眼瞼輕度ノ腫脹結膜僅微ノ潮紅浮腫ニ止リ瞳孔ニハ黃色ノ反射ヲ認メ(膿汁瀝溜ニヨリテ)眼球萎縮ニ終ル○成形成性脈絡膜炎ハ脈絡膜面ニ黑白ノ斑點

ヲ生ズ帽針頭大乃至乳頭ノ中央ニ達ス散在性ノ者アリ(散在性脈絡膜炎)黃斑部ニ現ハル、者アリ(中心性脈絡膜炎)黃斑部ヲ圍ミテ散在スル者アリ(輪狀脈絡膜炎)視力障害、中心暗點、輪狀暗點、同心性狹縮、眼花閃發、斜視、變視、小視、浮動、夜盲等ヲ發ス合併性ハ硝子體濁、虹彩炎、網膜剝離等ナリ

豫後 經過緩慢ナルモ豫後概テ不良ナリ

療法 一般ニ安靜ヲ守ラシメ凡テ黴毒ノ疑アルモノ及ビ原因不明ナル症ニハ水銀軟膏ノ塗擦撒末注射、發汗、項部ニ強發泡膏貼用ニ兼テ沃剃ノ内服ヲ行フ其他茶、酒類、珈琲ヲ禁ジ淡泊ナル食物ヲ與ヘ保護眼鏡ヲ用キ便秘ノ有無ニ拘ラズ誘導ノ目的ニ鹽類下劑ヲ與フベシ○漿液性症ニシテ内壓亢進アラバ「エゼリン」ノ點眼ヲナシ發汗劑ヲ與フ化膿性脈絡膜炎ニハ温浴法屢々鞏膜ヲ切開シテ排膿ヲ早メシメ或ハ水卷法ヲ施シ鎮痛ニハ「モルヒチ」ノ皮下注射或ハ内服ヲ命ズ成形成性脈絡膜炎ニハ水銀軟膏ノ塗擦、沃剃ノ内服及人工蟻鹹ヲ用キ貧血患者ニハ鐵劑及肝油ヲ兼用シ誘導方ヲ講ズベシ

硝子體ノ濁濁スル者ニハ

脈絡膜炎

鹽酸ピロカルピン	〇・五	餾水	一日三回二分	二〇〇・〇
右皮下注射料毎日アラツツ氏	二五・〇	炎性ノ消退シタル後ニハ		
注射器一筒即チ(〇・〇二)		硝酸ストリキニーネ	〇・一	
撒粉	六・〇	餾水	一〇・〇	
右散六包ニ分チ朝夕每一包		右注射料(最初ニ二分線爾後三		
沃度加里	二・〇	乃至四分線ヲ顯顯ノ皮下ニ注入		
硫苦	二〇・〇	ス(シ)		
苦丁	三・〇			

肝臟硬化症

Cirrhosis hepatis.

チロヂス、
ヘパチス、
肝臟顆
粒變性

原因 飲酒過度、肝臟充血、結核、麻刺利亞、蜜尿病、痛風、微毒〇中
年男子ニ多シ

診候 噁氣、吞酸、嘔吐、心窩痞便、便通不整便秘、鼓腸、顔面灰黃色、
結膜發黃及肝臟ノ初期腫大終末萎縮ニ兼ヌル脾腫、瘦削、腹水等ナリ
經過一年或ハ數年

豫後 不良

療法 原因療法ヲ主トス酒客ニハ漸次酒精飲用ヲ斷タシメ間歇熱ニハ
「キニーネ」微毒ニハ驅微療法而シテ攝生ヲ專ラトシ「カル、ス」泉緩
下劑、沃刺等ヲ用キ肥大性肝臟硬變症ニハ甘汞ヲ與フ(甘汞〇・〇四ヲ
一包トシ始ハ一日六回次ニ一日四回三日間服用其後三日間休藥再ビ服
藥休藥ト交代シテ久時療法ヲ反復ス) 對症療法ハ主トシテ胃加答兒ノ
注意肝要ナリ腹水條下參照

風氣疝痛

Colica flatulenta.

コリカ、フラットレンタ

原因 醗酵性ノ飲食物、腸管ノ閉塞或ハ狹窄、チフス、腸加答兒、痔疾、
ヒステリー、肥胖病、衰弱ヨリ來ルコト多シ

診候 腹部殊ニ下腹膨滿緊張、壓痛、噁氣、腹鳴、放屁等

豫後 其原因ノ異ルニ從ヒ極メテ良ナルモノアリ極メテ不良ナルモノアリ

療法 鼓腸ノ原因ヲ搜出除去シ殊ニ下劑ヲ用キテ腸ノ蠕動ヲ興奮セシメ
又腹部ニ薑布、湯婆、熱布、摩擦、壓搾按摩、ヲ施シ熱茶劑トシテ「カ
ミルレ」薄荷、メリツサ煎等ヲ用ユ〇小兒ニ於テモ原因ヲ搜出除去ス
ルコト肝要ナリ故ニ灌腸、按摩、溫薑布、溫浴等ニ由テ以テ腸ノ内容

肝臟硬化症 風氣疝痛

物ヲ除去スルコトニ注意スベシ○劇甚ノ發作ニハ「クロラール」ヲ灌腸ヲ施シテ効アリ○凡テ飲食物ノ攝生ヲ嚴ニシ脂肪多キ乳汁及ヒ澱粉質ヲ禁ジ哺乳兒ニハ乳母ヲ變換ス

- メリツサ水(或ハ薄荷水) 一五〇・〇
- カンベツヒ木越 五・〇
- 阿片安息香丁 十五滴
- 單舎 一五・〇
- 右每二時一食匙
- 重曹 四・〇
- 薄荷油 六滴
- 燻製マガ子シア 三・〇
- 右分三包二日分服
- 菩提樹花 各五・〇
- カミルレ花 各五・〇
- 橙菓 各五・〇
- 右茶劑ニ作り適宜ニ飲用セシム
- カスカラ、サグラダ流動越 一〇・〇
- 橙皮舎 三〇・〇
- 右調和一日三回一茶匙
- 鹽莫 〇・〇五
- 杏仁水 一〇・〇
- 右適劑
- カールム油 二・〇
- エーテル製蠟草(チンキ)丁幾ヲ加ヘテ二〇・〇トス
- 右二十乃至三十滴白糖ニ滴下シテ用ユ
- 燻性マガ子シウム 各一〇・〇
- 茴香油橙 各一〇・〇
- 右一刀尖ヲ與フ
- 重曹 二〇・〇

- 茴香油糖 二〇・〇
- 獨逸ヘアピン 一・〇
- 右散十包ニ分チ毎日三乃至四包食後一時間ニ用ユ
- エーテル 二・〇
- 芳香阿片酒 十滴
- 薄荷水 一〇〇・〇
- 菩提樹花水 五〇・〇
- 右調和每一時一食匙
- コロハフォルム 十二滴
- 菩提樹花水 五〇・〇
- 右調和十五分時每一食匙
- 神經性年長ノ小兒ニハ左方ヲ處ス
- 莫若越 〇・一
- 杏仁水 〇・五乃至一・〇
- 右三或ハ四時間十乃至二十滴
- 杏仁水 四・〇
- 莫若越 〇・一
- 右調和一時乃至二時間每十滴
- 哺乳兒ノ疝痛ニハ下腹部ノ温包、按腹及瀉腸ヲ施ス可シ
- 又發作後ニハ左方ヲ處ス
- カミルレ油
- 茴香油 各一乃至二滴
- 阿片丁 一〇・〇
- 白糖
- 右一二時間毎ニ一刀尖
- 芳香丁 各二十滴
- エーテル 一乃至三滴
- 阿片丁 五〇・〇
- 右調和每二時一茶匙

月經性疝痛

Colica menstrualis.

コリカ、メニス
トルアリス

原因 子宮頸管ノ狭窄、或ハ屈曲ニ因ルコト多シ又卵巢病反射的刺戟等ヨリ來ル

診候 月經時ノ下腹部ニ發スル神經痛性ノ疼痛ニシテ腰部及内股ニ放線ス壓スレバ緩解スルモノナリ嘔吐ハ偏頭痛ヲ發スルコト有リ

療法 月經困難ノ條下ニ詳ナリ

鉛毒疝痛 Colica saturnina. コリカ、サツルニナ

原因 慢性ノ鉛中毒

診候 下腹部ノ神經痛性疼痛、頑固ノ便秘、肌膚帶黃灰白色、齦肉帶暗赤色、全身削瘦等ナリ

療法 安臥靜息ヲ專ラトシ劇症ニハ便通ヲ注意スベク而シテ便秘疼痛共ニ阿片ノ内服効有リ○劇痛ニハ「モルヒチ」ノ皮下注射下腹ノ温浴及ビ温浴法ヲ行ヒ温茶劑ヲ投ジ而シテ此毒ニ關スル職業及ビ工場ニ注意スベシ

- 貴岩越 〇〇・五
- 杏仁水 一〇〇・〇
- 右調和ニ乃至五滴ヲ砂糖ニ和シ
- 阿片 〇・二
- 白糖 二・〇
- テ用ユ

右研和散五包ニ分チ毎半時一包同時ニ下劑ヲ試用スベシ

- 巴豆油 三滴
- 蓖麻子油 五〇・〇

右混和三回ニ服用スベシ但シ一回ニシテ効驗アラバ後服ヲ止ム劇瀉スルガ故ニ注意スベシ

火傷 Combustio. コンブストイオ

原因 火焰、熱瓦斯、熱蒸氣、熱湯、熱液、熱固體、強酸、アルカリ等ノ觸接ナリ

診候 第一度ニ在テハ潮紅微腫第二度ニ在テハ水泡發生第三度ニ在テハ燒痂ヲ生ズルモノニシテ全身三分ノ一面ヲ傷クレバ死ヲ致ス重症ニ在テハ體温下降稀ニ發熱、脈搏頻數、煩渴、譫語、搐搦嘔吐等ヲ發ス

療法 其部位ノ如何ト火傷部ノ大小ニヨリテ極メテ良ナルアリ或ハ全ク不良

療法 第一度ニ患部小ナル者ニハ「グリセリン」或ハ「オレイン」油ノ被包ニ兼テ冷卷法（ブロー氏液或ハグラルド氏水或ハ鉛水ヲ用キルハ尙水可ナリ）○第二度水泡ヲ生ジタル者ニハ其泡根ヲ穿刺シテ其液ヲ漏シ次ニ硼酸水、撒酸水、醋酸等土水ヲ以テ消毒シ而後酸化亞鉛、次硝基、

鉛毒疝痛 火傷

ヨードフォルム、デルマトール、硼酸等ノ粉末ヲ撒布シ「ヨードフォルムガーゼ」或ハ殺菌「ガーゼ」ヲ置キ繃帶綿花ヲ以テ被覆シ繃縛スベシ
 ○第三度ノ火傷モ亦タ同法ヲ用ユ要スルニ粉末繃帶ハ軟膏繃帶ニ優ルトコロノモノナリ○大部分ノ火傷ニハ持續性温浴ヲ行フ○疼痛ニハ「オルトフォルム」ノ撒布或ハ十倍オルトフォルム軟膏貼用或ハ一%ノ「コカイン」溶液ヲ塗布ス○肉芽増殖ニハ硝酸銀腐蝕法ヲ行フベシ○凡テ火傷ハ空氣ニ曝露セザル様之ヲ保護スルコト肝要ナリトス

ラノリン	一〇〇〇	オレーフ油	二〇〇〇
豚脂	二〇〇〇	右爲軟膏外用	
石灰水	三〇〇〇	オルトフォルム	各一〇〇〇
右外用		澱粉	
次硝蒼	各二〇〇〇	右散布料	
澱粉		オルトフォルム	二〇〇〇
右撒布料		ワゼリン	二〇〇〇
次硝蒼	九〇〇	右外用	
硼酸	四〇〇	硼酸	三〇〇〇
ラノリン	七〇〇〇	ワゼリン	三〇〇〇

右外用		右調和貼用	
亞麻仁油	各五〇〇	デルマトール	一〇〇〇
石灰水		ラノリン	二〇〇〇
右混和外用		ワゼリン	七〇〇〇
亞麻仁油	各五〇〇	右爲軟膏外用	
チモール	〇〇五	ナイロフエン	三〇〇
右外用		オレーフ油	七〇〇
ヘブラ氏軟膏	五〇〇	ワゼリン	六〇〇〇
右貼用		ラノリン	三〇〇〇
ヨードフォルム	二〇〇	右爲軟膏外用	
ワゼリン	二〇〇〇	鹽酸コカイン	一〇〇二
ラノリン	三〇〇〇	溜水	一〇〇〇
右調和軟膏ニ作り貼用		抱水クロラール	一〇乃至二〇〇
ヨードフォルム	一〇〇〇	溜水	五〇〇〇
オレーフ油	各三〇〇	右調和塗布用	
白堊	二〇〇〇	燒痂ノ剝離後ニハ左方	
鉛醋	二〇〇〇	硼酸	一〇〇

白蠟 一〇〇
 パラフィン 各二〇〇
 甘扁桃油 右調和軟膏ニ作ル
 クレオリン 一・五
 ソゼリン 五〇〇

右爲軟膏外用
 アリストール 三〇〇
 オリーブ油 二〇〇
 ラノリン 一〇〇
 右爲軟膏外用

面皰

Comedones. フォーネス

原因 皮脂腺排泄管ノ閉塞ナリ

診候 面部或ハ背部ニ於テ皮脂腺ニ認ムル粟粒大ヨリ小豆大ナル白色圓形ノ小腫起ニンテ尖頭ニ黑色ノ點有リ

豫後 良

療法 局處療法ニハ指爪或ハ面皰壓出器ヲ用キテ脂栓ヲ壓出シ表皮ニ石鹼塗擦或ハ醋、枸橼汁、稀鹽酸等ノ持續塗布ニ依テ面皰ノ黒頭ヲ除去スルヲ宜トス而シテ全身病ニ注意スベシ

カリ石鹼精 五〇〇
 右塗擦料

硫黄乳 一〇〇
 プランデー酒 五〇〇

ラヘンデル精 一〇〇
 グリセリン 一・五
 右調和塗擦料

沈降硫黄 二五〇
 ソゼリン 各一五〇
 綠石鹼

陶土 二〇〇
 グリセリン 一五〇
 醋 一〇〇

右軟膏ニ作り塗擦料(夜間ニ用ユト雖モ可成ハ白晝ニモ連用ス可シ)
 ナフトール 五〇

右軟膏ニ作り塗擦料
 此軟膏ハ每週二三回患部ニ塗擦シ十乃至十五分(輕度ノ潮紅熱感ヲ度トス)ヲ經テ之ヲ拭去シ其中止時ニハ中性軟膏、澱粉類ヲ用キ且ツ「カリ」石鹼精ヲ用キテ洗滌スベシ

腦震盪

Commotio cerebri. コンモチオ、ツェレブリー

原因 頭蓋ノ外傷其他外傷ノ腦ヲ振盪スルモノ

診候 人事不省、脈搏細小遲除、呼吸遲除、體温下降(稀ニ昇騰)、皮膚蒼白厥冷、瞳孔縮少、嘔吐、尿閉等

豫後 概テ不良ナリ輕症ノモノト雖モ俄然諸症増悪スルノ虞アリ
療法 頭部損傷アルモノニハ斷髮刺頭シテ其損傷ヲ處置シ少シク頭部ヲ

面皰 腦震盪

底クシ下腹ニ温布ヲ貼シ心窩、上腹、膀胱ニ芥子泥ヲ貼シ「エーテル」樟腦油ヲ皮下ニ注射シ脈搏不正ナルトキハ「アトロピン」ヲ皮下ニ注射ス其他極メテ安静靜息ヲ主トシ寢所ニハ暗室ヲ撰ビ頭部ニ氷嚢ヲ置クヘシ○持續性失神ニハ皮膚ノ刺戟、温布摩擦、冷水灌腸等ヲ行ヒ強性刺戟衝動藥即チ「アムモニア」ヲ嗅入セシム○尿閉ニハ「カテーテル」ノ導尿等其主タル者ナリ

尖圭胼胝腫 Condylomata acuminata. コンヂロマタ、アクミナータ

原因 淋疾及ビ其他不潔ナル分泌液ノ刺戟
診候 乳嘴體ノ如キ尖圭ナル小隆起ヲ多發シ摩擦アル部分ニハ疼痛ヲ發ス
豫後 良

療法 先ヅ彎剪ヲ用キ其根底ヨリ截除シ次デ硝酸銀腐蝕法ヲ施スベシ又剪ニ代フルニ銳匙、電氣燒灼鍼ヲ以テスルコトアリ○單ニ腐蝕法ヲ施ストキハ疼痛甚シク治癒ヲ遲延セシムルコト通例ナリトス○多發性小胼胝腫或ハ切除ヲ嫌忌スル者ニハ撒布藥ヲ施スコトアリト雖此法ハ時々繃帶等ノ換用ヲ要スルノミナラス又蔓延性表皮剝脫ヲ發シ易キ虞

有リ
過クロール鐵液 五・〇
餾水 二〇・〇

右塗布用（胼胝腫切除後直ニ要用スベシ）
クロール酸カリウム 二・〇
餾水 二〇〇・〇

右調和繃帶料
患者若シ手術ヲ恐ル、カ或ハ一般ニ手術ヲ施シ難キ場合ニ於テハ左方ヲ處ス
甘汞 一〇・〇
右撒布藥（先ツ食鹽水ヲ以テ洗滌シ而シテ後ニ用ユ可シ）

扁平濕疣 Condylomata lata. コンジロマタ、ラータ
此症ハ全身微毒ノ條下ニ就テ看ヨ

凍傷 Congelatio. コンゲラチオ

尖圭胼胝腫 扁平濕疣 凍傷

サビナ葉末 各一〇・〇
皓礬 一・〇
硫酸銅

右研和撒布用
又硝酸、濃厚昇汞液（昇汞〇・二酒精一〇・〇）過クロール鐵液、ヨード丁幾塗布ヲ行フテ効アリ
ヨード丁 一〇・〇
五倍子丁 〇・一
ヨード 〇・一
右調和每朝夕塗布

原因 強度ノ寒冷ナリ
診候 第一度ニ在テハ潮紅腫起第二度ニ在テハ水泡潰瘍第三度ニ在テハ

壞疽 其輕重ニヨリ不定
療法 冷水、氷或ハ雪ヲ以テ摩擦スヘシ、四肢ノ凍傷ニ罹レルトキハ之ヲ高舉スベシ組織ノ壞死セルトキハ防腐療法ヲ行フ○貧血者ニシテ冬期凍瘡ヲ患フル者ハ強壯療法ヲ行フベシ(凍瘡參照)

- ガラルド水 二〇〇・〇
- ワゼリン 三〇〇・〇
- 右爲軟膏外用
- 右電法用
- 次醋酸鉛液 五・〇
- 縮水 二〇〇・〇
- 右調和電法用
- 酸化亞鉛 二・〇
- ワゼリン 二五・〇
- ワゼリン 五・〇
- 右調和軟膏ニ作ル 三〇〇・〇
- 硼酸 三〇〇・〇
- ワゼリン 三〇〇・〇
- 右爲軟膏外用
- 精製樟腦 〇・五
- カヤプテ油 〇・三
- ワゼリン 一〇・〇
- 右塗布料
- 次硝蒼 五・〇
- ワゼリン 三〇〇・〇
- 右爲軟膏外用
- 白降汞 二・〇

- ワゼリン 三〇〇・〇
- 右調和軟膏ニ作ル
- ワゼリン 二〇〇・〇
- 單軟膏 一五・〇
- 右軟膏ニ作ル
- 粘着硬膏 二〇〇・〇
- 右リント布ニ攤シ貼用シテ壓迫
- 繃帶トナス
- 皮膚若シ壞疽ニ陥リタル者ニハ醋酸礬
- 土即ブロー氏液ノ電法ヲ施シテ分界線
- ノ發生ヲ促スベシ
- 明礬 五・〇
- 鉛糖 二五・〇
- 縮水 五〇・〇
- 右調和電法用
- 明礬七・〇
- 糖水二八・〇
- ニ溶解シ鉛
- 糖二八・〇
- ヲ水二八・〇
- ニ溶解シ兩
- 液ヲ混合濾過シテ
- 八〇〇・〇
- ニ稀釋
- 密栓シ貯フ
- 右電法料
- 木乃伊糠壞疽ヲ起シタル者ニハ左方ヲ
- 處ス
- 過マンガン酸カリウム
- 白陶土
- 炭酸石灰 各一〇・〇
- 右研和撒布用
- 壞疽部除去後ニハ防腐繃帶ヲ施スベシ
- 其他凍瘡ノ條ヲ參照セヨ

膿漏性結膜炎 Conjunctivitis blennorrhoeica.

(淋毒性結膜炎又風眼)

原因 専ラナイセル氏ノ淋毒重球菌ノ傳染ニシテ同性結膜炎、淋疾、白

膿漏性結膜炎

帶下ヨリ傳染ス
 診候 第一期(急性加答兒期)ニ於テハ結膜組織内ニ浸潤ヲ生ジ肥厚シテ硬固トナリ反轉シ難シ乳頭著シク潮紅腫脹硬固トナリ眼球結膜モ亦潮紅浮腫ヲ呈シ角膜ノ周邊ニ際堤ヲ廻ラシ帶黃色ノ液ヲ分泌ス羞明、灼熱、異物ノ感アリ疼痛甚タシ○第二期(化膿期)乳頭贅殖、天鵝絨ノ如シ分泌液ハ甚濃厚ニシテ膿様ナリ其量甚ダ多シ此期ニ於テ動モスレバ炎症角膜ニ波及シテ爰ニ潰瘍ヲ生ジ其結果角膜翳ヲ貽スニ非ザレバ穿孔スルモノナリ故ニ治療上最モ周到ノ注意ヲ要ス○第三期(退行期)潮紅腫脹漸次消散シ分泌物減少且ツ液性ニ變ズ全經過四乃至六週ヲ要ス
 豫後 眼ノ豫後ハ角膜ノ状態ニ關シ角膜疾病ノ發生速ナルニ從ヒテ益々不良ナリ

療法 安臥靜息及ビ攝生法肝要ナリ即チ便通ニ注意シ病室ヲ暗クシ半時毎ニ硼酸水ヲ以テ其眼ヲ清洗シ昇汞水ヲ用キテ消毒法ヲ嚴ニシ且ツ他眼ノ傳染ヲ防グガ爲メ消毒シタル綿花ヲ以テ健眼ヲ被ヒ更ニ布巾ト絆創膏ヲ用キテ之ヲ固定シ其表面ニ「コロヂウム」ヲ塗リテ患眼分泌物ノ竈入ヲ遮斷シ或ハ消炎藥氷霧法等ヲ用キ或ハ八乃至十條ノ水蛭ヲ乳頭

突起部若クハ顚顚部若クハ耳部ニ放ツベシ○經過中ハ常ニ角膜合併症ニ注意シ又時トシテ結膜怒脹部ノ亂切法ヲ施スコトアリ○淋疾ノ現在スルニ於テハ其療法ヲ施スベキコト勿論ナリ○第二期以後ニ對シテハ硝酸銀其効驗著シク殆ト特效藥ト稱スルモ可ナリ(但シ角膜合併症ノ發シタル片ハ腐蝕藥及強度ノ收斂藥ヲ中止シ專ラ角膜症ノ治方ヲ主トスベシ)膿汁滾々流出ニ際シ宜シク硝酸銀療法ヲ行ベシ

硼酸	六・〇	少量ナル間ハ前ノ攝生法ノミチ宜トス
硼水	三〇〇・〇	急ニ硝酸銀ヲ用ケレハ却テ往々害アリ
右眼洗滌料	三〇〇・〇	故ニ一—二%硝酸銀溶液ハ分泌物ノ多量ナル時ニ適用スルモノニシテ每日一
八千倍昇汞水	三〇〇・〇	二回結膜ニ塗布ス若シ分泌更ニ多量トナリ且ツ全ク膿様ナルトキハ尙ホ強キ
右眼洗滌料	三〇〇・〇	溶液ヲ要スルモノトス
五千倍昇汞水	三〇〇・〇	結晶硝酸銀
右眼洗滌料	三〇〇・〇	一・〇
結晶硝酸銀	〇・五	五〇・〇
硼水	五〇・〇	右即チ二%強液貯蓄用法同上但
右調和暗黒瓶ニ貯フ		シ點眼後食鹽水ヲ以テ中和スベ
塗布料		シ

但シ炎症初期結膜腫脹シ分泌物ノ稀薄

膿漏性結膜炎

結膜ノ灰色浸潤ヲ認メ或ハ棉襪布性被膜ノ存スル者ニハ此塗布ヲ避ケ左ノ硝酸銀劑ヲ用ユベシ

結晶硝酸銀 二・〇
 硝酸カリウム 四・〇
 右桿ニ作ル燒灼料
 ソゾヨドール 二・〇
 餾水 三〇・〇

右燒灼料
 疼痛及ビ甚シキ羞明ヲ來タセルトキハ
 水銀軟膏 一〇・〇
 實着越 二・〇

右調和豌豆大ノ者ヲ額及ビ額額部ニ毎日數回塗擦ス
 角膜ニ合併症ヲ來セシトキニハ次方
 二%鹽酸コカイン水
 一%硫酸アトロピン水 各二・五
 右點眼料

硫酸アトロピン 餾水 一〇・〇五
 右調和點眼料 餾水 一〇・〇
 過マンガン酸カリウム 餾水 二〇〇・一
 右調和消毒洗滌料
 硼酸 三〇・〇
 サリチール酸 一〇・〇
 餾水 一〇〇・〇

右調和消毒洗滌料
 硫酸苦土 三〇・〇
 苦味丁 二〇・〇
 餾水 二〇〇・〇

右一日六回二日分服
 アンチピリン 二・〇
 鹽酸ヘロイン 〇・〇二
 乳糖 二・〇
 右分六包二日分服

加答兒性結膜炎

Conjunctivitis catarrhalis.

コンジュンクティウサチス、カタラーリス

原因

急性症ハ多クハ傳染性ニシテ細菌ニヨリテ來ル即チコツホ、ウヰ
 ークス氏菌フレンケル氏肺炎菌モラツキス、アクセンフェルド氏重桿
 菌、連鎖狀菌インフルエンザ菌等ニシテ春秋二期ニ流行性ヲナスコト
 多シ其他感冒、異物竄入、摩擦、外傷、鼻加答兒及顔面炎症ノ波及、
 麻疹、猩紅熱○慢性症ハ急性症ヨリ轉ジ或ハ塵埃等ヲ混ジタル不良ノ
 空氣、眼瞼緣炎、睫毛亂生症、屈折異常、淚管閉塞ニ因ス其他老人ハ慢
 性症ヲ患フルコト多シ

診候

急性症ニ在テハ眼瞼赤腫熱痛ヲ呈シ眼瞼緣糜爛シ眼瞼結膜充血腫脹
 ス、重症ナルトキハ眼球結膜充血、浮腫、結膜下溢血ヲ發スルコトアリ
 リ而シテ眼脂溢出生起ノ際上下ノ睫毛ヲ膠着ス自覺症ハ灼熱、疼痛異
 物感、眼瞼重感、羞明等又屢々角膜ニ表層性ノ炎症、潰瘍等ヲ發スルコ
 トアリ○慢性症ニ在テハ急性ノ如ク諸症著シカラズ結膜弛緩暗赤色、
 分泌モ亦タ少量

療法

宜ク分泌物ノ細菌検査ヲ行ヒテ原因ヲ攻治シ其他煤烟、塵埃、風、

預後

良

加答兒性結膜炎

光線等凡テ眼ノ刺戟物ヲ避ケ且ツ可及的ノ使用ヲ禁ズ可シ○急性症ニハ三百倍倍藥水ノ點眼及溫卷法若クハ冷卷法(患者ノ好ムトコロニ從フ)ヲ用キ或ハ毎日一回硝酸銀溶液ヲ塗布シテ効有リ其他痛苦ヲ與ヘ淡白ノ食餌ヲ用キシム○慢性症ニハ硝酸銀療法若シ持續スルモ効ナキトキハ硫酸銅塗擦或ハ皓礬ノ點眼ヲ用ユ

- 硼酸 六・〇
- 杏仁水 六・〇
- 硼水 三〇〇・〇
- 右洗滌料 一〇〇・〇
- フロー氏液 二〇〇・〇
- 硼水 二〇〇・〇
- 右洗眼料 一・五
- 醋酸鉛 三〇〇・〇
- 硼水 一・五
- 右洗滌料 五・〇
- 一%鹽酸コカイン水 五・〇
- 右點眼料 五・〇
- 硫酸亞鉛 〇・一
- 茴香水 各一五・〇
- 硼水 各一五・〇
- 六千倍昇汞水 五・〇
- 右點眼料 〇・〇五
- 皓礬 〇・〇五
- 茴香水 各五・〇
- 硼水 各五・〇
- 右一回或ハ二回毎日點眼 〇・二五乃至〇・三
- 結晶硝酸銀 五〇〇・〇
- 硼水 五〇〇・〇

加答兒性結膜炎

- 右黑色瓶ニ貯ヘ毛筆ニテ結膜ニ塗布 各五〇・〇
- 黃色收斂點眼水 右點眼每朝夕一回一乃至二滴
- 硫酸亞鉛 〇・一
- 硼水 五〇〇・〇
- 右調和點眼料 五・〇
- 慢性ノモノニハ 〇・五%硫酸亞鉛水 五・〇
- 右點眼料 〇・〇二
- 昇汞 〇・〇二
- 阿片サフラン丁 五滴
- 硼水 一〇〇・〇
- 右點眼料(即チ「コンラード」水) 〇・五%鉛糖グリセリン軟膏 五・〇
- 右點眼料トシテ朝夕一回ツ、用ユ
- 硫酸亞鉛 〇・一
- タンニン酸 三〇〇・〇
- 硼水 〇・一五
- 右點眼料 各五・〇
- ラノリン 各五・〇
- 右一日二回硝子桿ニテ點眼擦入
- 綿莢煎 一〇〇・〇
- 鉛糖 〇・五
- 阿片サフラン丁 十滴
- 右調和點眼料 〇・一
- タンニン酸 一〇〇・〇
- 硼水 二〇〇・〇
- 右調和點眼料 〇・二
- 硼砂 〇・二
- 硼水 五〇〇・〇

右調和點眼料

水製麥角越 二・〇
鹽水 四〇・〇

右調和點眼料

夜間ニ於ケル睫毛膠着ノ豫防ニハ

硼酸 〇・三
ワセリン 一〇・〇

右朝夕眼瞼縁ニ塗布

白降汞 各一・〇

黃岩越 一〇・〇

單軟膏 各一・〇

右豆大ヲ毎二乃至三時前額及ヒ

顳額部ニ塗擦ス(アルト氏軟膏

蓋明及ヒ劇痛ニ効アリ)

分泌物ヲ減ズルニハ

チカフアルム 五・〇

右朝夕一回毛筆撒布料

角膜合併症ヲ發シタルトキハ收斂劑ヲ

止メ盛ニ温罨法ヲ行ヒ「アトロピン」或

ハ「エセリン」ヲ處スベシ○角膜潰瘍

ニハ「ヨードフォルム」ヲ用キ眼瞼ノ乾

燥及ビ重感アル者ニハ左方ヲ處スベシ

白降汞 〇・二乃至〇・二五

ワセリン 八・〇

右調和豌豆大ノ者ヲ取り眼瞼縁

ニ塗擦スベシ

硫酸亞鉛 〇・〇三

鹽酸コカイン 〇・一五

グリセリン 各七・五

鹽水 右眼瞼塗布料

無臭ヨードフォルム 五・〇

右撒布料

又阿片加サフラン丁幾ノ點眼モ亦効ア

リ輕度ノ加答兒ニシテ分泌著シカラザ

ル者ニハ酒精劑即チ佛蘭西アランデ

一、ケルン水、或ハ左ノ洗眼劑ヲ用ユ

慢性ノモノニハ

〇・五%硫酸銅グリセリン軟膏 五・〇

右擦入料

三―五千倍昇汞ワセリン 各三・〇

ワノリン軟膏 右一日二三回豌豆大ヲ取り結膜

嚢内ニ塗入

神効石(即銅礬) 〇・五

阿片サフラン丁 五滴

蜜作價醋 〇・二五

鹽水 一〇〇・〇

右點眼料(即チペール氏水)

佛蘭西酒精 各二〇・〇

薔薇水

鹽水 右調和洗眼料

又結晶明礬ヲ用ユルコトアリ

格魯布性結膜炎

Conjunctivitis crouposa

コンジュクチウチチス、クルボサ

原因 概チ小兒ヲ侵スモノニシテ時トシテ流行性ヲナスコトアリ

診候 膿漏性結膜炎ニ似テ輕ク結膜ノ全面ニ灰白色或ハ帶黃白色ノ義膜

ヲ生ジ之レヲ拭ヘバ出血ナクシテ容易ニ除クコトヲ得ベシ然レドモ再

ビ速カニ義膜ヲ生ズ經過八日乃至十四日

豫後 角膜合併症ヲ發スルコト殆ンドアルコトナシ故ニ良

療法 頻々結膜ヲ洗淨シ「コカイン」水ヲ點眼シ硼酸水、鉛水、若クハ昇

格魯布性結膜炎

汞水冷捲法ヲ施スベシ膜ノ脫離後ニ化膿アルトキハ硝酸銀ヲ用ユベシ
一%鹽酸コカイン水 五・〇一 右點眼料

實布的里性結膜炎

Conjunctivitis diptheritica.

原因

春秋二季ニ流行ス是亦乳兒ニ多シ實布的里亞菌ノ感染ナリ

診候

浸潤期、俄然上眼瞼ハ潮紅腫起下垂シ結膜蒼白膨脹緊滿厚キ義膜ヲ被リ稀薄漿液性ノ液ヲ多量ニ漏出ス經過五日乃至十日發熱ヲ伴フ○膿漏期、多量ノ膿漏、義膜剝脫、結膜組織缺損、肉芽發生ノ症ヲ呈ス○癩痕期、肉芽而收縮シ癩痕ヲ生ズ○角膜膿瘍或ハ潰瘍ヲ合併スル虞アリ
障後 輕症ノ他ハ視力上ノ豫後不良ナリ蓋シ角膜ノ害ヲ蒙ルコト多ケレバナリ

療法

膿漏性結膜炎ノ條下ニ示スガ如キ嚴重ノ綳帶ヲ用キテ健眼ヲ保護シ患者ヲ隔離シペーリング氏血清療法ヲ行ヒ防腐液ヲ以テ洗眼シ浸潤期ノ初メニハ冷捲法或ハ氷捲法ヲ施シ浸潤期ヨリ膿漏期ニ近ヅクニ從ヒ溫捲法ニ轉ジ膿漏期以後ハ膿漏性結膜炎ト同法ヲ用キ角膜炎ノ發否ニ注意シ「アトロピン」ヲ用キ而シテ癩痕期ニ至ラバ屢々眼瞼ヲ離開シ以テ驗球癒着ヲ防グベシ硝酸銀塗布ノ如キ過激ノ療法ハ却テ害アリ

硼酸	六・〇	右點眼料	過マンガン酸銀	一・〇
鹽水	三〇〇・〇	右點眼料	鹽水	二〇〇・〇
一%鹽酸コカイン水	五・〇	右調和一日二三回點眼	三%グリセリン溶液	五・〇
右點眼料		右一日數回點眼		
二%鹽酸コカイン水	五・〇			

濾胞性結膜炎

Conjunctivitis follicularis.

コンジュンクチウキチス、ホルリウラーリス

原因

主トシテ學齡兒童ノ腺病、校舎、兵營、監獄等又アトロピン使用ニ來ルコトアリ

診候

眼瞼結膜就中下眼瞼結膜穹窿部ノ外則ニ於ケル濾胞ノ腫起ヲ兼タル加答兒性炎症ナリ炎症旺盛ナルトキハ濾胞全下眼瞼結膜及上眼瞼結膜ニ生ス又タ角膜ニ合併症ヲ來スコトナシ

療法

良、トラホームノ如ク後日癩痕ヲ留ムルナシ
療法 左方ヲ處シテ効アリ

一%鹽酸コカイン水	五・〇	硼酸	六・〇
右點眼料		サリチール酸	二・〇

實布的里性結膜炎

濾胞性結膜炎

三〇〇・〇 右洗滌料 醋酸鉛 〇・一 ヲゼリン 五・〇 右調和點眼料 アトロピン結膜炎ニハ左方ヲ處ス 鉛糖 〇・二五 餾水 一〇〇・〇 右洗眼料 アトロピンノ代用品ニハ ヒヨスチン(〇・〇五ト一〇・〇ノ比例) ナ用ユベシ 二〇〇・〇	三〇〇・〇 右調和點眼料 アトロピン結膜炎ニハ左方ヲ處ス 鉛糖 〇・二五 餾水 一〇〇・〇 右洗眼料 アトロピンノ代用品ニハ ヒヨスチン(〇・〇五ト一〇・〇ノ比例) ナ用ユベシ 二〇〇・〇
--	---

顆粒性結膜炎 Conj. Granulosa

一名 Trachom. トラホーム

コンジュンクティブチツキチス、
クラムローザ

原因 傳染性ニシテ同性結膜炎ノ分泌物ヨリス、兵營、學舎、監獄等ニ多シ病原未タ一定セサレモ近年ブロワチエック氏ハ急性トラホーム結膜炎ノ上皮中ニ微小ノ體(ギムザ液ニ染色)ヲ發見シトラホーム病原體ナリト報告セリ

診候 急性顆粒性結膜炎ニアリテハ眼瞼結膜著シク潮紅腫脹シ〇上眼瞼ヲ反轉スレハ潮紅贅殖セル乳頭間ニ帶黃灰白色ノ顆粒ヲ認ム下眼瞼ヲ

反轉スレバ其穹窿部ニ於テ顆粒連球ノ觀ヲ呈ス其ノ顆粒ノ發生セザル間ハ全ク單純ノ急性加答兒性結膜炎トノ區別困難ナリ流淚及粘樣膿漏アリ眼球結膜モ潮紅浮腫ヲ呈ス其他灼熱羞明異物ノ感ヲ發ス慢性顆粒性結膜炎(第一期)上眼瞼結膜ニ灰白色ノ顆粒ヲ散發シ上眼瞼軟骨ノ上緣ニ於テ著シク隆起ス下眼瞼結膜ニ於テハ顆粒少ナシ而シテ視力障害漸次發生(第二期)乳頭增大シ顆粒ハ消散或ハ潰瘍ニ變シ肉芽ヲ生シ膿漏刺戟症共ニ最モ盛ナリ(第三期)肉芽面癢痕ヲ形成シ分泌刺戟症狀共ニ減退ス〇角膜ニ「パンヌス、潰瘍、角膜膨脹症ヲ合併スルコトアリ〇乳頭性「トラホーム」ト稱スルモノハ眼瞼結膜面ニ乳頭贅殖シ天鵞絨ノ如ク或ハ覆盆子ノ如キモノアリ

豫後 療法其宜シキヲ得レバ豫後良但シ角膜侵襲ヲ被ムルトキハ視力障害ノ虞アリ且又慢性ニシテ顆粒多發スルモノハ不良ナリ

療法 先ヅ他人ニ病毒ヲ傳染セザル様注意セシメ特ニ其手拭、手盥等ノ他人ノ使用スル事ヲ禁ジ保護眼鏡ス用キテ、塵埃、風煙、強光線ヲ避ケ時々硼酸水ヲ以テ分泌物ヲ洗ヒテ清潔ヲ勉メ居室ノ換氣ニ注意スベシ
〇校舎、兵營等ノ流行時ニハ患者ヲ隔離シ居室ヲ消毒スベシ

顆粒性結膜炎

急性症ニ在テハ其室ヲ暗クシ「アトロピン」ヲ點眼シ時々冷巻法若クハ温巻法ヲ施ス結膜充血甚ダシク劇痛アルトキハ結膜ノ亂切ヲ行フ若シ膿漏甚ダシケレバ硝酸銀棒ノ輕擦ヲ併セ用ウヘシ既ニシテ炎痛稍ヤ退クトキハ硝酸銀水ノ點眼ヲ用キ更ニ輕快シタルトキハ硫酸亞鉛、醋酸鉛水ノ點眼ニ轉ズベシ慢性症ニ在テハ藥劑療法ト手術療法トヲ用キ藥劑療法ニハ結晶硫酸銅ノ輕擦或ハ硫酸銅水、 1% 乃至 3% 硝酸銀水、 2% 乃至 5% 醋酸鉛水ヲ用キ「バンヌス」ノ暴起刺戟旺盛ナレハ「アトロピン」ノ點眼コカイン水及硝酸銀水ノ點眼劑ヲ與フ但シ硫酸銅及醋酸鉛ハ潰瘍アルルハ用ウベカラズ之ニ反シ輕症「バンヌス」アル時黃降汞又デオニン軟膏ノ點入後眼險按摩法ヲ行フ○手術療法ハ(一)顆粒壓碎法少數ナルルルハ「ピンセット」毛拔、清潔ナル爪ヲ以テ顆粒ヲ壓碎ス(若シ顆粒ノ不判明ナルルハ能ク研磨セル結晶食鹽末ヲ結膜面中ニ塗擦スルトキハ著ク明瞭ニ顆粒ヲ顯出ス)若シ多數ナル時ハクナツプ氏「ロールツァンゲ」ヲ用ユ(二)亂切法(亂切後五百倍昇汞水ヲ強硬ナル刷子ニ浸シ結膜ヲ摩擦ス)(三)カインング氏摩擦法(綿花小片ヲ昇汞水ニ浸シ結膜就中其穹窿部ヲ摩擦ス)其他(四)結膜穹窿部切除法(五)軟骨

切除法(六)電氣的破壞法アリ
慢性「トラホーム」ノ處方左ノ如シ

- 硼酸 六・〇
 - 鹼水 三〇〇・〇
 - 右洗滌料 三―五千倍昇汞ワゼリンヲ用フ
 - 軟膏 三・〇
 - 右點眼料 八千倍昇汞水 三〇〇・〇
 - 右洗滌料 〇・五―一・〇%硫酸銅ワゼリン、
ヲ用フ
 - 右點眼料 三・〇
- 硫酸銅桿ハ能ク研磨シテ滑澤ナランコトヲ要スベシ若シ分泌多キトキハ之レニ代フルニ硝酸銀溶液ヲ以テス可シ唯分泌ノ多量ナラザルトキノミ硫酸銅ヲ用キルヲ宜トス硫酸銅及ビ硝酸銀ト交互相變換シ而シテ後更ニ左方ヲ處スル

顆粒性結膜炎

ユトアリ

- 鉛糖 一・〇
- 鹼水 五〇〇・〇
- 右調和洗滌料 阿片サフラン丁 各五・〇
- 右調和結膜囊點眼每一滴 又甘汞撒布ヲ行フコトアリ若シ毎日醫師ノ診斷治療ヲ受ルコト能ハザル者ニハ患者ヲシテ自ラ硫酸銅ヲ用キテ下眼瞼ヲ觸接セシム若シ患者自ラ之ヲ能クセザルトキハ左ノ點眼水或ハ軟膏ヲ與フ
- 硫酸亞鉛 〇・一
- 茴香水 各一五・〇
- 鹼水

右點眼料
 ○・五%硫酸亞鉛水 五・〇
 右點眼料
 硫基石炭酸亞鉛 〇・〇五
 細水 五・〇
 右點眼料
 ○・五%硫酸銅カリセリン軟膏 五・〇
 右點眼料
 硫酸銅 〇・一
 カリセリン 一〇・〇
 右調和點眼料
 鉛糖 〇・一
 無水カリセリン 二〇・〇
 右點眼料 (消毒シタル象芽性小桿ヲ用ユ)

疼痛甚シキモノニハ左方ヲ兼用セシム
 一%鹽酸コカイン水 五・〇
 右點眼料
 二%鹽酸コカイン水 五・〇
 右點眼料
 陳舊性「パンヌス」ニハ左方ヲ處シ人工的ニ炎症ヲ起サシムベシ
 デオニン 〇・〇六—〇・二五
 コカイン 〇・〇三
 フゼリンヲノリン 各一・五
 右一日二三回點入塗擦
 デエキリトール 一〇・〇
 右塗布料
 二%黃降汞軟膏 三・〇
 右點入塗擦料

水疱性結膜炎
 (腺病性結膜炎)

Conjunctivitis phlyctänulosa.
ロシユニクチウサチスノフリクテヌローナ

原因 腺病外來ノ刺戟殊ニ小兒ニ多シ
診候 限局シテ小水疱疹ヲ發スル眼球結膜炎ナリ該水疱疹ハ通常角膜ノ近傍ニ在リテ血管ノ集合ニ依リテ形成セラレタル三角形ノ頂點ヲナス其種類三アリ○孤立性ノモノハ其數一個或ハ二三個羞明、流淚ヲ呈スルニ過ギズ一二日ニシテ潰瘍ニ變ジ遂ニ上皮ヲ生ジテ治ス○多發性ノモノハ專ラ角膜緣ノ傍ニ生ジ形甚ダ小ニシテ砂粒ノ如シ結膜充血又角膜周擁充血著シク刺戟症モ亦タ劇甚ニシテ羞明、流淚、眼瞼痙攣著明ナリ然レトモ水泡吸收消散スルヲ常トス○悪性膿疱疹ハ角膜及結膜ノ境界上ニ發シ大ニシテ多クハ潰瘍ヲ形成シ角膜穿孔、虹彩脫出ヲ來スコトアリテ治癒ヲ妨グ刺戟症重劇ナリ又々瀰濁及血管ヲ伴ヒ角膜中心ニ向ヒ進行シ乃チ芒把形ヲナスモノアリ所謂芒把狀角膜炎ヲ發スルモノニシテ豫後稍ヤ不良ナリ
豫後 腺病ニ因スルモノハ屢々再發ノ虞アリ孤立性ノモノハ良ナリ而シテ悪性膿疱疹ハ潰瘍ヲ形成シ角膜穿孔次デ虹彩脫出ヲ生スルコトアルヲ以テ不良ナリ
療法 原因ヲ除キ局部ニハ昇汞ワゼリン(〇・〇〇三ト一〇・〇〇ノ比)或ハ

水疱性結膜炎

黄降汞ワゼリン「テ一日一回塗布シ炎症消退スルモ尙ホ數週之ヲ持長スベシ微温湯或ハ硼酸水ヲ用キテ眼ヲ洗淨シ眼瞼濕疹ノ痂皮ハ脂肪ヲ塗布ノ軟化シタル後之ヲ除去ス但シ繃帶ハ施スニ及バズ〇羞明甚シキトキハ新鮮ナル水中ニ顔面ヲ浸スカ或ハ「コカイン」水ニ「アトロピン」ヲ兼用スベシ飲食攝生ハ殊ニ注意シテ肉、鶏卵、牛乳、麥酒、少量ノ澱粉質ヲ常食ニ供シ高燥ノ地ニ住セシメ運動ヲ適宜ニシ内服ニハ「ハウレル」水鐵劑、キニーチ、沃鐵舍利別、ヨードカリ、肝油等ヲ用キ局處療法ハ甘汞ノ撒布ヲ宜シトス然レトモ黄降汞ニ「ヨード」劑ヲ兼用スルコトハ注意ヲ要ス

硼酸

六・〇

餾水

三〇〇・〇

右洗滌料

甘汞

適宜

右毛筆又ハ撒布器ヲ以テ撒布ス

ヨードフォルム

乳糖

各二・〇

右研和撒布料

按摩スベシ

甘汞撒布ニ代フルニ「パーゲンス」ステッヘル氏ノ軟膏ヲ用キルコトアリ刺戟症ノ稍ヤ退キタタルトキニ宜シ

黄降汞

〇・一

ワゼリン

一〇〇・〇

右精細ニ調和シテ軟膏ニ作り結膜下穹窿部ニ點入シ眼瞼上ヨリ

按摩スベシ

甘汞

〇・二

ワゼリン

三〇〇

ワゼリン

二〇〇

右調和用法前者ニ同シ

鹽酸コカイン

〇・〇五

餾水

五〇〇

右溶和點眼料

白降汞

一〇〇

莢若越

一・五

ワゼリン

一〇〇・〇

右豆大ノ者ヲ前額及ビ額部ニ塗擦ス

炎症旺盛分泌多量ノモノニハ

結晶硝酸銀

〇・五

餾水

五〇〇・〇

右點眼料

毛織神經ノ刺戟甚シキ者ニハ「アトロピン」軟膏ヲ作り用キテ最モ効驗アリ

水疱性結膜炎

水疱性結膜炎

硫酸アトロピン

〇・一

ワゼリン

一〇〇・〇

右調和軟膏ニ作り硝子棒ヲ用キテ豌豆大許ヲ結膜囊ニ送入ス

大水疱ノ潰瘍ニハ硝酸銀棒、悪性膿疱疹ニハ「エゼリン」點眼及温罨法ヲ宜シトス

含糖炭酸鐵

二・〇

硫規

一〇〇

白糖

一〇〇・〇

右研和散トナシ朝夕一刀尖

ヨードカリウム

二・〇

覆盆子舎

一〇〇・〇

餾水

五〇〇・〇

右調和朝夕一食匙

沃鐵舍利別

一五〇

單舎

二〇〇・〇

餾水

一八〇・〇

右一日三回二日分服

肝油

六〇

右一日三回二日分服

攣縮及關節強直

Contractur, Ankylose.
コントラクトゥール、アンキローゼ

原因 胎生性關節發育障害（内翻足、内翻馬足、外翻足、外翻鉤足）持久性
或ハ強力性壓迫脊椎側彎症、外翻膝、外翻足（即扁平足）、神經中樞ノ
疾患及損傷（麻痺性及痙攣性攣縮）、軟部ノ火傷、創傷及炎症（癩痕性
攣縮）等、○關節及其周圍軟部ノ炎症及損傷（結締織性關節強直、軟骨
性關節強直、骨性關節強直）ヒステリー關節炎（假性關節強直）

診候 關節強直ニ在リテハ關節ノ運動全然廢絶ス（眞性關節強直）但シ全
身麻痺中ニハ運動ヲ營ムモノアリ（假性關節強直）○攣縮ニ在リテハ
關節ノ位置變常、運動ノ制限ヲ呈ス

療法 按摩法、治療的體操他働、固定繃帶矯正裝置、電氣療法、截骨術、
截腱術、截筋術、截除術等ヲ用ユベシ

打撲傷

Contusion. コンジオン

原因 鈍器ヲ以テ毆打セラレ或ハ鈍體ニ衝突シ或ハ轉墜シテ鈍體ニ觸ル

、等

診候 皮下溢血及疼痛ヲ以テ主徴トス皮下溢血ハ始メ紫色或ハ暗青色ノ
斑ヲ皮膚ニ呈ス該斑ハ後チ黃色或ハ黃綠色ニ變シ終ニ消失ス其他常ニ
腫脹ヲ呈ス

療法 皮下出血ヲ制止スルコト、疼痛ヲ鎮靜スルコト及溢血ノ吸收ヲ促
進スルコトヲ以テ療法ノ主眼トス○患部ヲ安靜ニシ氷巻法或ハ鉛水巻
法ヲ行ヒ壓迫繃帶ヲ施シ四肢ニ於テハ其末端ヲ高クスベシ○吸收ヲ催
進スルニハ按摩法ヲ用ユベシ

痙攣

Convulsion. コンウルシオン

小兒急痙及妊娠產婦急痙ノ條下ヲ見ルベシ

股關節炎

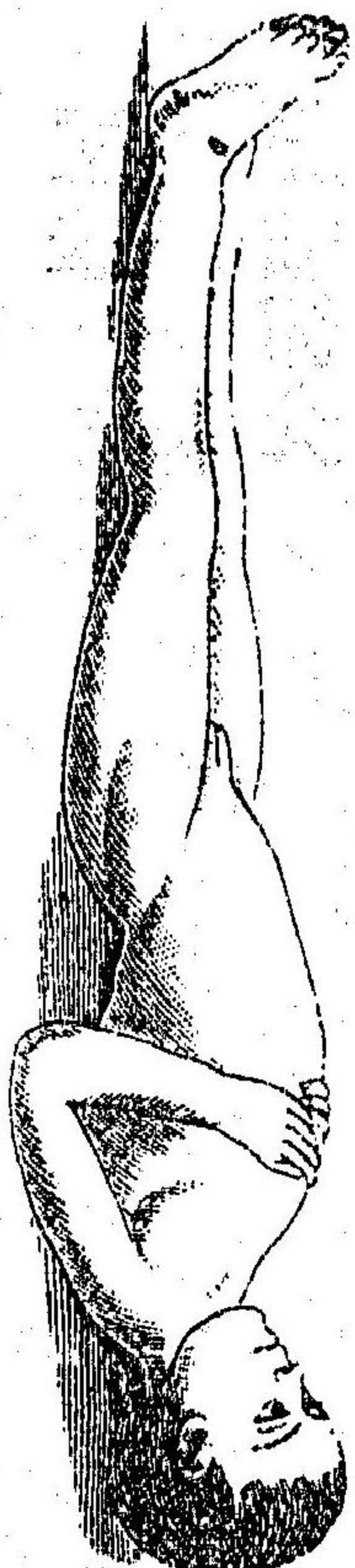
Coxitis. コキシタイチス

原因 慢性股關節炎ハ結核（慢性結核性股關節炎ハ專テ五乃至十歳ノ小
兒ニ發ス）及畸形關節炎（老年期ニ發ス）○急性症ハ關節創、急性傳染
病（急性化膿性股關節炎）

診候 結核性股關節炎ハ其經過ヲ三期ニ區別ス其第一期ニ在リテハ跛

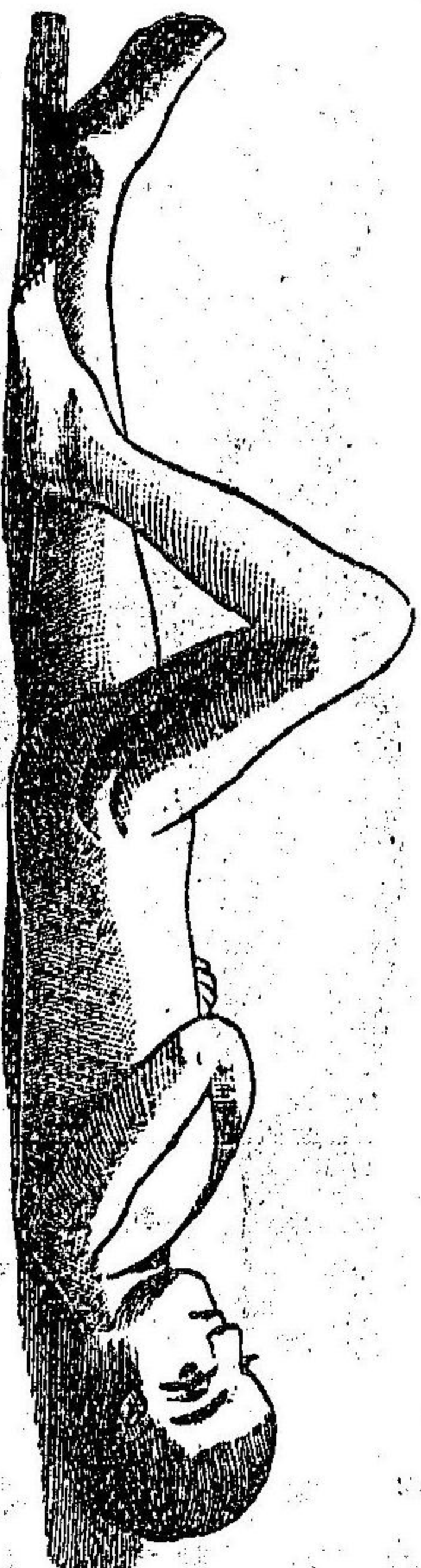
攣縮及關節強直 打撲傷 痙攣 股關節炎

圖 八 十 第



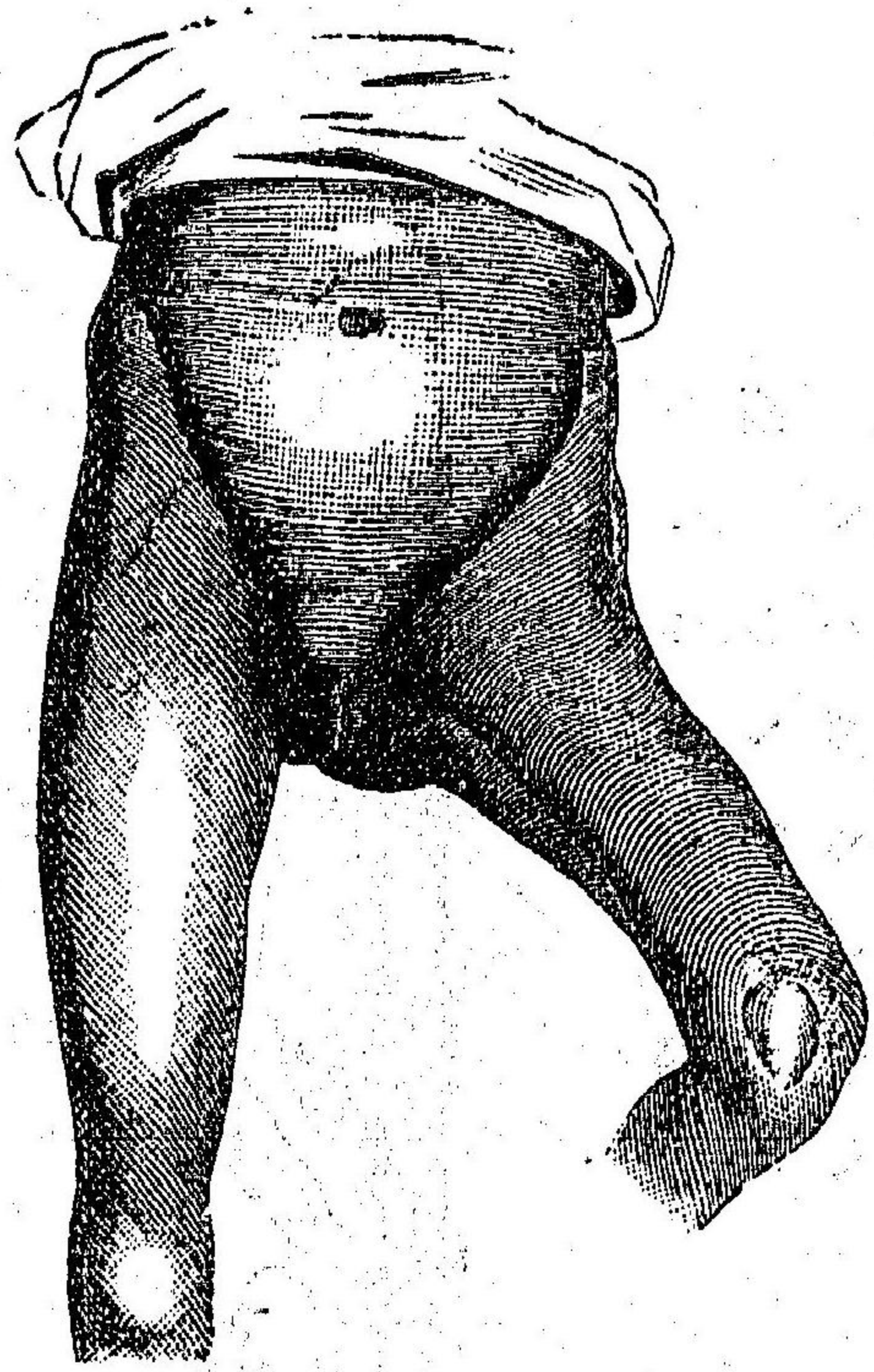
腰 椎 之 前 方
ニ 彎 曲 シ 骨
盤 ノ 傾 斜 シ
テ 患 肢 ノ 固
有 ナ ル 位 直
ナ 不 明 ナ ラ
シ メ タ ル 圖
ナリ

圖 九 十 第



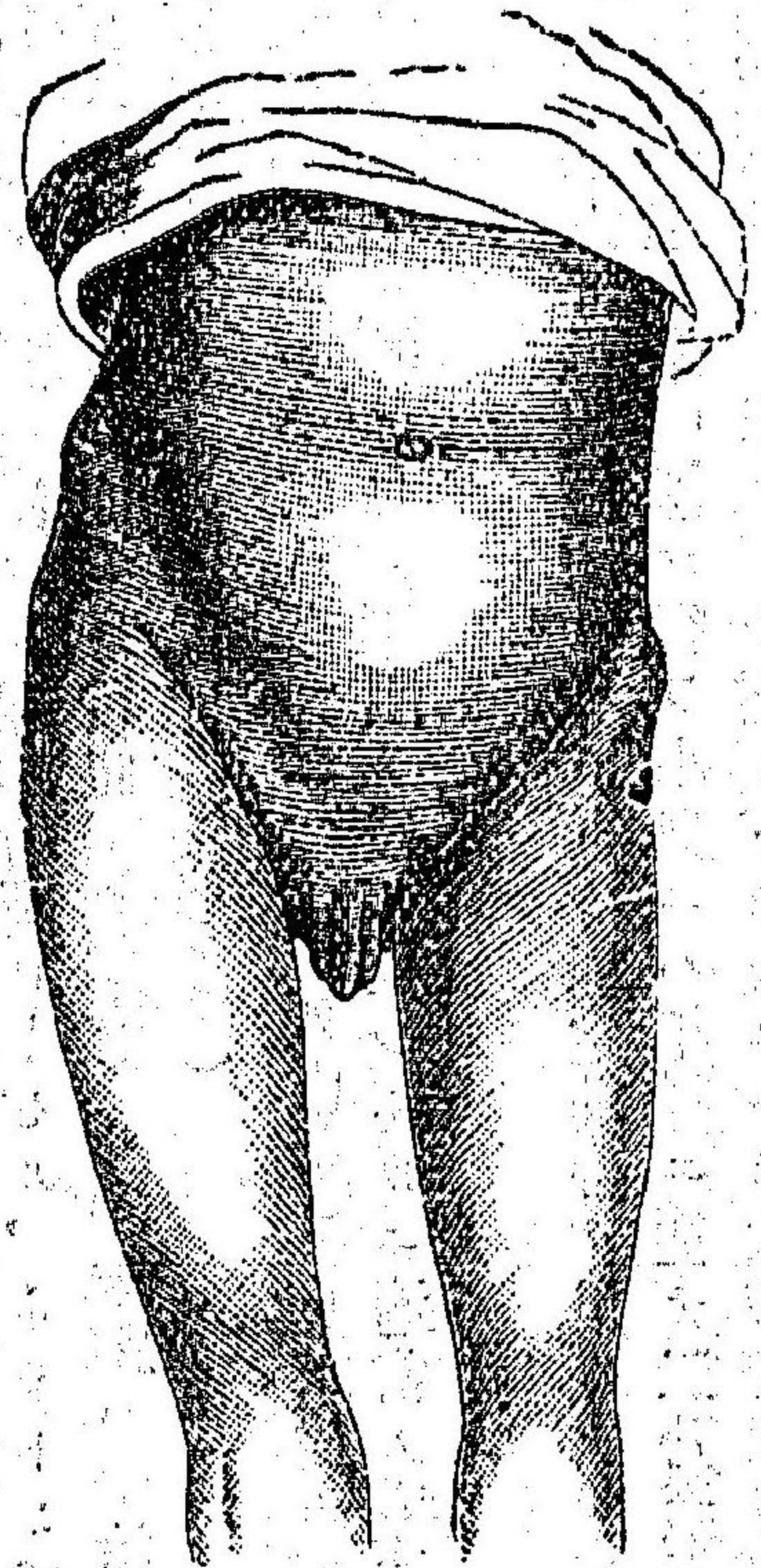
腰 椎 ノ 前
彎 骨 盤 ノ
傾 斜 ナ 禁
シ 以 テ 固
有 ノ 位 置
ヲ 明 カ ナ
シ メ タ ル 圖

第 二 十 二 圖



骨盤ノ
下垂ヲ
禁シ患
肢固有
ノ位置
ヲ露見
セシメ
タル圖

第 二 十 一 圖



骨盤ノ左
半部ヲ甚
タシク下
垂シテ患
肢ヲ健肢
ニ併行セ
シメタル
圖

歩、反射的膝痛、大轉子部ノ壓痛、股關節部ノ知覺過敏、患肢大腿ノ屈曲外轉外旋及假性延長第二期ニハ患部増大シテ表面浮腫柔軟、深部硬結、疼痛増加、患肢屈曲増加、内轉内旋、假性短縮第三期ニハ瘻孔發生、大腿骨頭消耗、骨端脫臼、眞性短縮ヲナシ大轉子ハ腸骨前上棘ノ尖端ト坐骨結節トノ間ニ畫ケル線即所謂ローゼル、ネラトン氏線ヨリ上方ニ存在スルニ至ル其他全身貧血、衰弱等アリ○轉歸ハ全治或ハ死亡(内臟結核、若クハ全身粟粒結核ヲ續發シテ)

豫後 概テ不良ニシテ二八・三分一ノ死亡數ヲ算ス尙ホ死亡ヲ免レタルモノモ脚ノ短縮運動ノ制限ヲ殘ス但シ速カニ適當ノ療法ヲ施スモノハ良

療法 消炎法及ビ滋養攝生ヲ專ラトシ固定繃帶ヲ用キテ關節ノ不動法ヲ施シ又持續重牽引法ヲ行フ小兒ニハ年齡ニ從テ二乃至五基瓦大人ニハ五乃至六基瓦ヲ用ユベシ然レドモ既ニシテ大腿骨頭脫臼シテ腸骨後面ニ至レル者ニハ麻醉藥ヲ用キテ整復術ヲ施シ且ツ固定法ヲ行フベシ其他内服ニハ肝油、沃鐵舍等効有リ

ブルンス氏クラウゼ氏ニ從ヒ麻醉ヲ施シ大腿ヲ屈曲外轉シ大轉子ノ上

部ヨリ注射器ヲ股關節ノ内外ニ刺入シ殺菌セル一〇%ヨードフォルム油或ハ「ヨードフォルム、グリセリン」ヲ四乃至五瓦注入シ後輕ク關節ヲ動シ股關節ヲ摩擦ス此法ハ二乃至四週毎ニ反復ス可キモノニ甚タ有効ナリ○諸法無効ニシテ病性進ムトキハ關節ヲ切開シ銳匙ノ搔爬ヲ行フ若シ高熱、醜膿多量、關節荒蕪甚シキ症ニハ關節切除術

ヨード 〇・〇三乃至〇・〇五 大黃根末 〇・四
 沃劍 一・〇 白糖 二・〇
 單舍 二〇〇 右十包毎日一回二包宛
 餾水 八〇〇 化膿性股關節炎ハ切開シ排膿ヲカムヘ
 右毎日三回一小兒匙 一・〇 シ又々關節切除術ヲ要スルコトアリ
 含糖ヨード鐵

格魯布性肺炎

Croupose Pneumonie.

ブルツベニゼ、
フノイモニ

或 纖維素性肺炎

Fibrinose Pneumonie.

ファイブリチーゼ、
フノイモニ

原因

フレンケル氏ノ發見ニ係ル肺炎重球菌(Diplococcus pneumoniae)ト名クル微菌ニ因スル傳染病ナリ感冒及ヒ外傷ハ本症ノ誘因ヲナス酒客ハ本病ニ罹リ易シ(酒客肺炎)○十二月ヨリ五月ニ涉リテ多シ(ヘルツ氏)

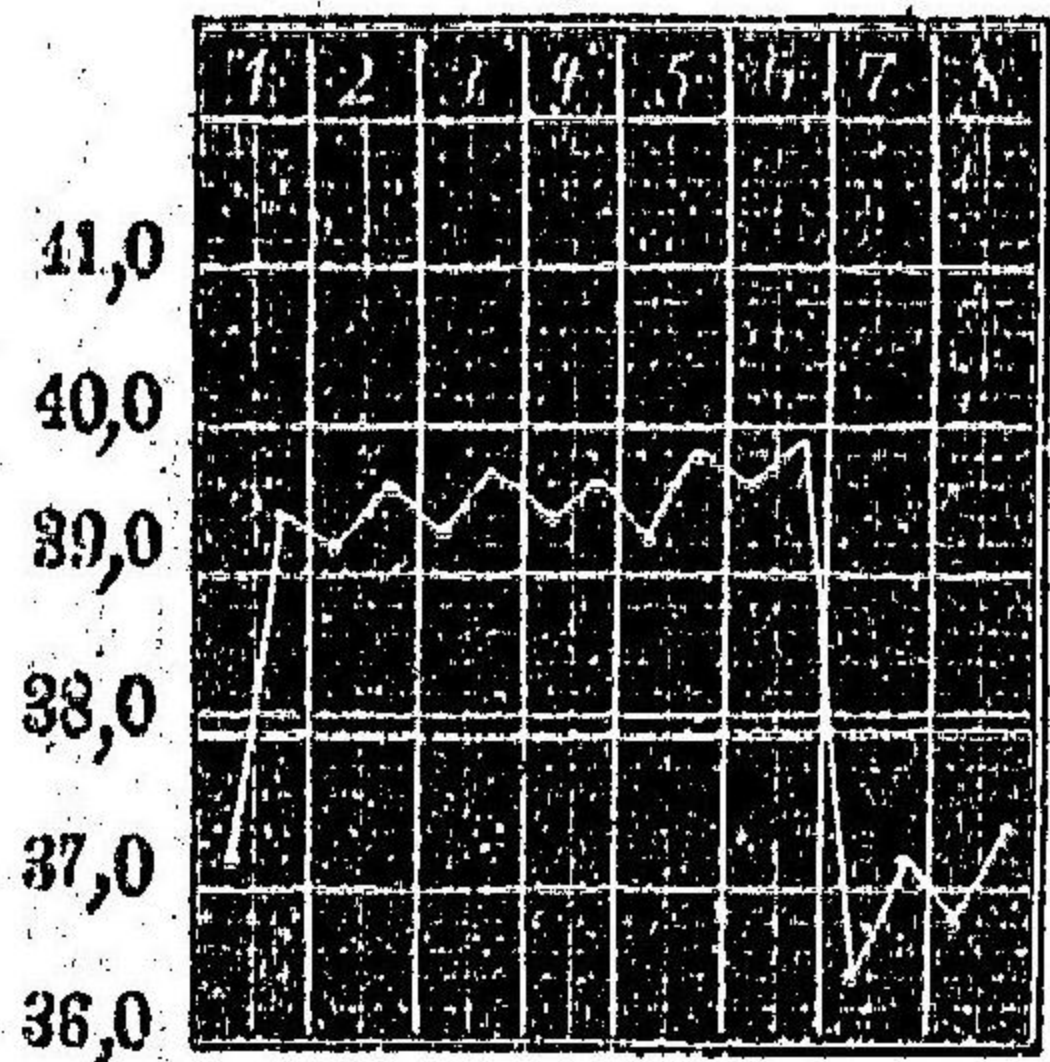
格魯布性肺炎

診候 俄然寒戰(三十分乃至一時間)ヲ以テ初マリ胸部刺痛ヲ發シ強劇ナル乾咳ヲ發シ暫時ノ後直チニ粘稠ノ鏽色痰ヲ喀出ス顔面潮紅、身體倦

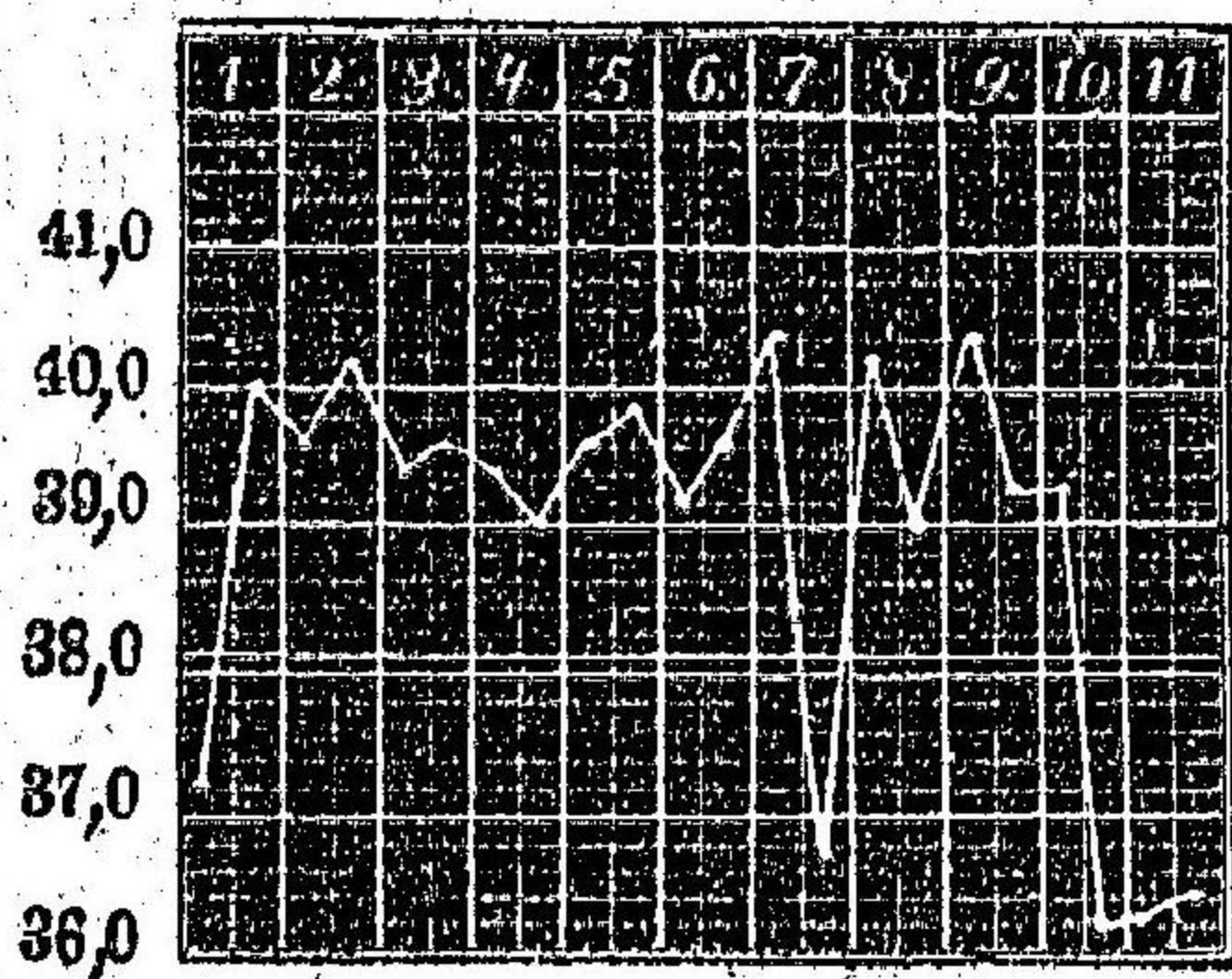
第七日ニ於テ分利シタル格魯布性肺炎

第七日ニ於テ假性分利ヲ呈シタル格魯布性肺炎

圖二十二第



圖三十二第



忘ラ覺エ脈疾數、頭痛ヲ訴フ體温忽チ上昇シテ三十九度乃至四十一度ニ達ス而シテ熱ハ平均七日間(三日乃至十一日間)稽留シテ分利ニ由テ下降シ三十六度或ハ三十五度ニ至リ脈搏四十乃至五十二減ズ又々眞性分利ノ前ニ假性分利ヲナスコトアリ或ハ三乃至五日間散換性下降ヲナスモノアリ○屢々發病後第一日或ハ第二日ニ口唇鬣行疹ヲ發ス

理學的症候、第一期(充血期)ニ於テハ打診上鼓性濁音、聽診上捻髮音及ヒ氣管支音ヲ認メ○第二期(肝變期第一日或ハ第二日)ニ於テハ打診上著明ナル濁音、聽診上囉音ヲ聽キ聲音震顫ヲ檢スルニ著シク増加セルヲ認ム第三期(吸收期)ニ於テハ諸症第一期ニ同シ但シ中心肺炎ニハ局限症候ノ不明ナルコトアリ

豫後 概テ良○脈搏呼吸ノ性質、及ヒ其他、體温上昇如何ニ依テ其豫後ヲトス可シ即チ脈搏百二十以上持續スルトキ、強劇ノ呼吸困難、高熱及合併症ハ豫後ヲ不良ナラシム○酒客老人、虛弱家、心臟病患者、肺氣腫、腎臟病アレバ不良

療法 安臥靜息ヲ專ラトシ室内ノ温度ハ之ヲ同等ニ保持シ絶エス水蒸氣ヲ蒸散セシメ飲食等ノ攝生ヲ嚴守セシム可シ○高熱ニハ頭面部及胸部ニ氷器法ヲ施シ

格魯布性肺炎

體温上昇甚ダシク患者苦熱ヲ訴フルト
キハ

鹽規 〇・一

右爲一包與四包一日二乃至四包
「オアラート」ニ包ミ服用

撒曹 五・〇

右散五包ニ分チ每三時一包(「オ
アラート」ニ包ミテ用ユ)

單舍 一五・〇

鹽水 一〇〇・〇

右調和每時一食匙

アンチピリン 五・〇

右散五包ニ分チ(澱粉紙ヲ以テ
包ム)體温三十九度以上ニ達ス
ルニ當リ先ヅ一包ヲ投シ後一時
間ヲ經テ第二包ヲ與フ可シ時ニ
或ハ後二時間ヲ待テ第三包ヲ與

フルコトアリ奏効スレバ後服ヲ
止ム

アンチピリン 一・〇

白糖 二・〇

右研和散四包ニ分チ用法同上

硫黃 二・〇

鹽莫 〇・〇五

白糖 三・〇

右十包ニ分チ一日三乃至四包

アルテア根煎(一〇・〇) 二〇〇・〇

覆盆子舍 二〇・〇

右調和飲料

大麥煎 二〇〇・〇

杏仁水 五・〇

單錯蜜 五・〇

右調和飲料ニ作ル

燐酸 一〇・〇

覆盆子舍 五〇・〇

酒客ニハ左方 右調和飲料ニ加ヘテ用ユ

抱水クロラル 二・〇

橙皮舍 一五・〇

鹽水 二五・〇

右頓用(心力衰弱ニハ禁ズ)

不眠及精神不穩ナルトキハ

ズルフオナル 〇・五乃至一・〇

右頓用

トリチナル 〇・五乃至一・〇

右爲一包頓用

心臟衰弱セルモノ及ビ虛弱家ニハ左方

樟腦 〇・二

安息香酸 一・〇

白糖 二・〇

右研和散五包ニ分チ每三時一包

卵黃 二個

フランデー酒 三〇・〇

格魯布性肺炎

單舍 二〇〇・〇

鹽水 二〇〇・〇

右一日六回二分服

脈甚ダ頻數ナル時ニハ左方

ザキ浸 (〇・二五)九〇・〇

覆盆子舍 一〇・〇

右調和一日間四回二分服セシム

虛脱ヲ來セルモノニハ左方

エーナル 十滴

茴香水 一〇〇・〇

橙皮舍 一〇〇・〇

右調和每半時一茶匙

樟腦 〇・二

再留酒精 各適宜

アラビアゴム末 各適宜

セネガ根浸 (一〇・〇)一〇〇・〇

單舍 一〇〇・〇

右調和每時一食匙

等分カンフルエーテル 一〇・〇
 右皮下注射料
 吸收期ニ至レバ左方ヲ處ス可シ
 セ子ガ根浸 (一〇・〇) 一八〇・〇
 單舎 二〇・〇
 アンモニア苗香精 五・〇
 右一日六回二日分服
 セ子ガ根浸 (二〇・〇) 一八〇・〇
 アンモニア苗香精 二・〇
 アルテア舎 二〇・〇
 右一日六回二日分服
 礮砂 四・〇 一五・〇
 甘草蒸 一〇・〇
 餛水 一八〇・〇
 右一日六回二日分服
 沃割 一・五
 苦丁 二・〇
 餛水 二〇・〇

右一日三回分服
 セ子ガ根浸 (二〇・〇) 二〇〇・〇
 アンモニア苗香精 一・〇
 橙皮舎 一〇・〇
 右調和毎二時一小兒匙
 アムモニア水 五滴
 橙皮舎 一五・〇
 餛水 一五・〇
 右調和毎時一食匙
 アンモニア苗香精 五・〇
 右毎半時五滴砂糖ニ加ヘ用ユ
 鹽酸アボモルヒ子 〇・〇三
 單舎 二〇・〇
 餛水 一〇〇・〇
 右調和毎時一食匙
 ナレガミア丁 二・〇
 杏仁水 一五・〇
 各調和毎時十滴

小兒ノ肺炎ニハ胸部ニ冷罷法ヲ行ヒ
 鹽酸リモノナーテヲ與フ熱甚ダシキハ
 撒曹 一・〇乃至二・〇
 單舎 一〇・〇
 餛水 九〇・〇
 右調和毎二時(注意スベシ)
 アンチピリン 〇・五乃至一・〇
 橙皮舎 二〇・〇
 餛水 一〇〇・〇
 右毎二時一茶匙
 咳嗽劇甚ナルトキハ食鹽水ノ吸入及左
 方
 セ子ガ根浸 (二・五乃至五・〇) 二〇〇・〇
 アンモニア苗香精 一・〇
 アルテア舎 二〇・〇
 右一日六回分服

脈搏頻數ニシテ心臓ノ力衰ヘタルトキ
 ガキ浸(〇・二乃至〇・五) 二〇〇・〇
 アルテア舎 二〇・〇
 右毎二時一小兒匙
 精製樟腦
 安息香酸 各〇・〇一乃至〇・〇五
 右爲一包與六包毎二時一包
 アンモニア苗香精 各一〇・〇
 ホフマン液 各一〇・〇
 右毎三十分三乃至五滴
 十倍カンフル油 一〇・〇
 右一筒宛皮下注射
 鹽莫 〇・〇五
 杏仁水 一〇・〇
 各十滴乃至十五滴宛咳嗽發作時
 ニ一盞ノ水ニ和シ頓用

格魯布性肺炎

毛様體炎

Cyclitis.

チクリチス

原因 多クハ脈絡膜虹彩ノ疾患ニ續發ス其他外傷微毒腺病結核「レウマチス」月經不調全身營養障害再歸熱「チフス」其他交感性疾患トシテ他眼ヨリ波及スルモノナリ

診候 眼瞼ノ潮紅、腫脹、角膜周擁充血疼痛(殊ニ壓痛)屈折體ノ濁濁及視力ノ減衰等ヲ來シ漿液性症ニ於テハ「デセメット」膜ニ沈着物ヲ生ジ成形性症ニ於テハ虹彩中央部ノ膨隆及ヒ同周邊部ノ牽縮ヲ起シ化膿性症ニハ眼房蓄膿ヲ來ス内壓ハ初メ亢進シ後ニ減降シ時トノ眼球癆ニ陥ル豫後 一般ニ不良

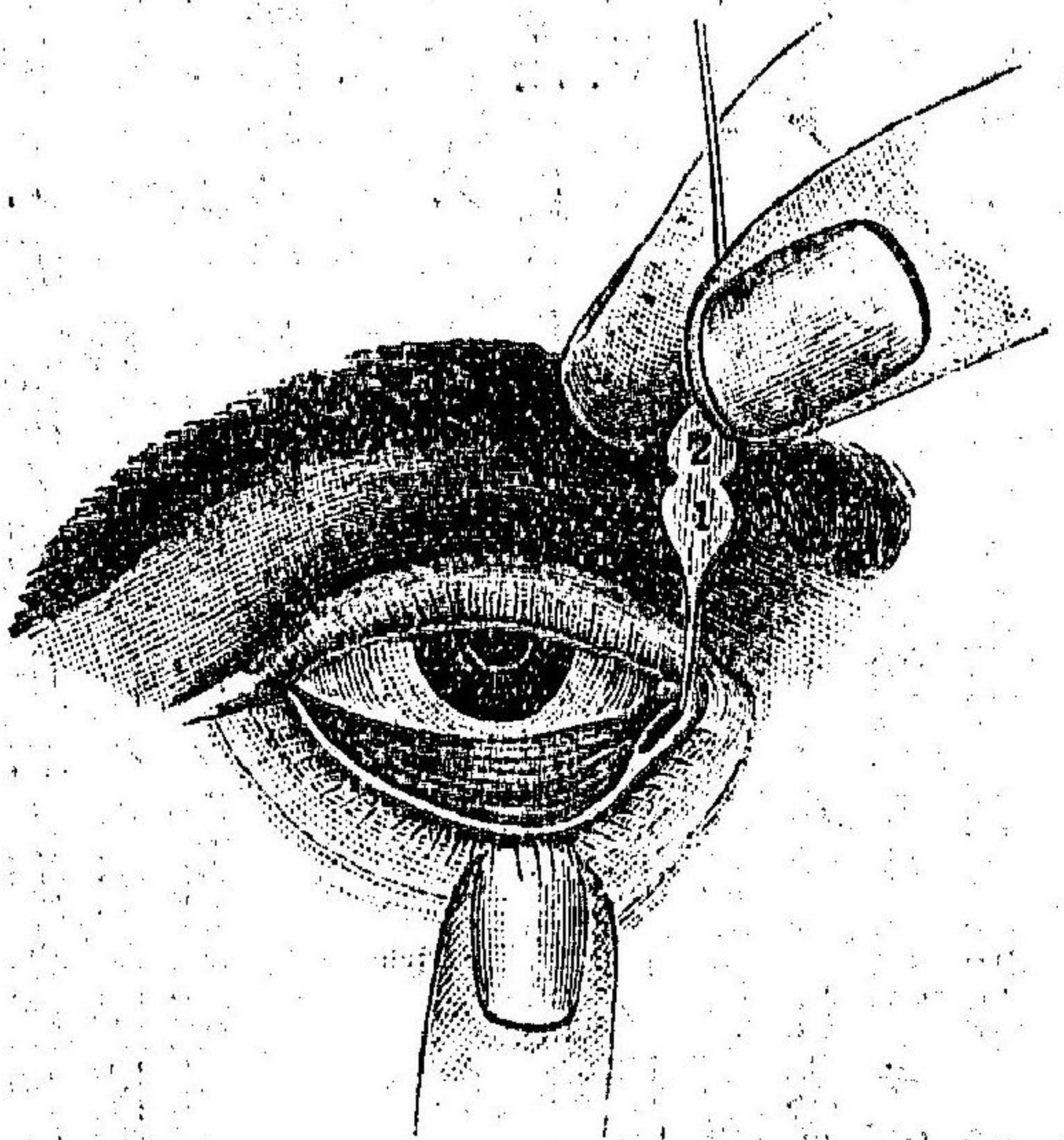
療法 原因療法、初期ニ發汗療法ニ兼テ下劑ヲ投スベシ(殊ニ漿液性症ニ奏效ス)沃剝内服水銀療法ハ微毒以外ノ原因ニ在リテモ用フベシ局所ニハ「アトロピン」ヲ點眼シ内壓亢進ノ場合ニハ「エゼリン」ヲ處スベシ其他温罨法顳額部瀉血ヲ行ヒ疼痛甚シケレハ麻醉藥ヲ投シ安靜ニ臥セシメ光線ノ刺戟ヲ避クベシ

淚囊炎

Dacryocystitis.

ダクリオチスチス

第 二 十 四 圖



淚管消息子ヲ挿入スル圖

圖ハ(シユミット、リンパレル眼科書ニ據ル)

毛様體炎 淚囊炎

原因 急性症ハ慢性涙囊炎ヨリ續發スルヲ多シ慢性症ハ結膜炎鼻粘膜ノ疾患涙囊周囲ノ骨膜炎等ニ因スル鼻涙管閉塞ヨリ來ルモノ最モ多シ

診候 急性症ハ涙囊部ノ劇痛皮膚ノ發赤波動結膜浮腫ヲ來シ二三日ニシテ皮膚破壊シテ排膿シ瘻孔ヲ作ルニ至ル慢性症(涙囊膿漏)ハ涙囊部僅カニ隆起シ流涙ヲ訴フ指壓ニ由テ膿性粘液性若クハ透明ノ蓄液ヲ排出ス屢々結膜炎及眼瞼濕疹ヲ續發ス

豫後 容易ニ治癒セズ

療法 急性症ハ初期ニハ氷器法ヲ施シ昇汞水ヲ小涙管ヨリ注入スベシ或ハ温器法ヲ以テ化膿ヲ促シ涙囊部ヲ切開シテ排膿ス或ハ涙囊ヲ除去シ若クハ破壊スベシ慢性症ニハ毎日涙囊ヲ指壓シテ涙液ノ蓄積ヲ去リ同時ニアネール氏注射器ヲ以テ〇・〇二%昇汞水三%硼酸水又ハ〇・五%硝酸銀水五%プロタールゴール水等ヲ注入スベシ或ハ小涙管ヲ切開シテ毎日ボーマン氏消息子ヲ送入シテ狹窄ヲ割開スベシ若シ効ナケレバ宜シク涙囊ノ破壊ヲ試ミ流涙ヲ治シ同時ニ細菌ノ巢窠ヲ絶ツテ得策トス

痔瘡

Decubitus.

デクビツス

原因 麻痺病、熱病、心臟衰憊ニ因リ久シク平臥シ連綿タル外壓ニ起ル皮膚ノ壞疽

診候 患部ノ發赤潮紅ニ始マリ次テ藍青色ヲ帶ビ疼痛、水疱、組織崩壞、惡臭

療法 初期ノ潮紅ニハ醋水、酒精或ハ微温湯ノ洗滌及ビ膏藥ノ貼用既ニシテ實質缺損ヲ起シタル者ニハ清潔法、防護繃帶、豫防法ニハ屢々臥位ヲ變換シ皮膚ヲ清潔ニシ「カンフル」酒精ニテ洗ヒ或ハ稀釋セル酢ニテ拭フベシ

其他骨疽アルモノニハ

一五・〇

ワゼリン

二〇・〇

ヨードホルム

一五・〇

黃蠟

二・五

グリセリン

各五〇・〇

右爲軟膏外用

右注射料

各五〇・〇

過マンガン酸カリウム

一・〇

樟腦

〇・三

右調和洗滌料

鹽莫

〇・二二

石炭酸

一・〇

ヘルバルサム

〇・六

溜水

二〇〇・〇

酸化亞鉛

二・〇

右調和洗滌料

二〇〇・〇

痔瘡

壞疽ノ爲メニ周圍及深部ニ向テ大ナル
實質缺損ヲ來セル者ニハ左方ヲ處ス

- 木タール 五・〇
- 硫酸石灰 四〇・〇
- 右研和末トナシ撒布料
- 石炭酸 五・〇
- オレーフ油 五〇・〇
- 右調和塗布料
- 石炭酸 五・〇
- オレーフ油 五〇・〇

頭髮脫落

Defluvium capillorum.

デフルウィウム
カピロトルム

原因 頭皮炎ハ重病、皮脂漏、微毒等
診候 頭髮ノ脱落消亡
療法 原因療法（故ニ皮脂漏、微毒ノ治法）微毒等ニハ局處ニ白降汞軟膏
 腐蝕アンモニア水
 甘扁桃油

- 白堊 適宜
 右軟泥ニ作り錫箔紙上ニ攤シ貼用（リステル氏ペースタ）
 タンニン酸 一・〇
 次醋酸鉛 五・〇
 單軟膏 二〇・〇
 右調和軟膏ニ作り貼用
 瘡面清潔トナリシ後ハ普通ノ創傷療法ヲ行フベシ
- クロ、フォルム 各一〇・〇
 - 酒精 五〇・〇

右頭皮洗滌料（刷子ヲ用キテ毛
髮及頭皮ヲ摩擦セル後ニ用ユベ
シ）

- 肉苳蔻花油 五・〇
- オレーフ油 五〇・〇
- 右調和毎日ニ回塗擦
- 白降汞 二・〇
- ワゼリン 二〇・〇
- 右調和髮油ニ作り用ユ

光菁丁 一〇・〇
迷迭香精 一〇〇・〇
右塗擦料

- レゾルチン 五・〇
- 酒精 一五〇・〇
- 蓖麻子油 四五・〇
- ペルバルサム 〇・五
- 右調和フラネル片ヲ用キテ毎日
頭皮ニ塗擦ス可シ

酒客譫妄症

Delirium tremens.

デリリウム、
トレメンズ

原因 飲酒ノ經久過度（酒客重傷ヲ負ヒ或ハ重病ニ罹リ習慣性ノ飲酒ヲ
止メタルトキ發スルコト多シ）
診候 不眠、神經恍惚、手指開派、震顫及譫語幻視（鼠ノ如キ小動物）等
療法 藥石ヲ要セスシテ治スルコト屢々之アレドモ普通ニハ室ノ一部ヲ
暗クシテ此處ニ居ラレメ數日間淡白食餌ヲ給シ多量ノ酒類ヲ與ヘ經過
久シキニ亘ルモノニハ多量ノ催眠劑ヲ與フ可シ但シ心臟作用不良ノ際
ハ「クロラール」ヲ禁ス

酒客譫妄症

抱水クローラル 二・〇
 橙皮舎 各一五・〇
 餾水 右調和頓服
 抱水クローラル 三・〇
 ゴム漿 各七五・〇
 ゴム合劑 右半量頓服殘量毎二時一食匙宛
 阿片末 〇・三
 白糖 三・〇
 各十包ニ分子毎夕不眠時ニ乃至
 三包宛
 臭剝
 フロームアンモニウム 各一〇・〇
 餾水 五〇・〇
 慢性アルコホル中毒ノ重症ニ在リテハ之ヲ治シ全ク「アルコホル」ヲ
 嗜ムノ習慣ヲ脱セシムルニ至ルハ甚ダ稀ナリト雖此目的ヲ達センニハ
 之ヲ養生院ニ監守スルヲ最良ノ法トス○飲食物其他補劑及鹽水等悉ク

右調和毎時一茶匙
 ズルフオナール 一・〇
 右一包ニ分子六包ヲ與フ(毎包
 「オブラート」ニ包ム)(催眠藥)
 トリオナール 〇・五乃至一・〇
 右爲一包頓用
 ゴムナール 一〇・〇
 覆盆子舎 二〇・〇
 餾水 四五・〇
 右毎夕一食匙
 心臟衰弱アルトキハ左方
 樟腦 〇・一
 白糖 〇・五
 右爲一包與十包毎一時或ハ二時
 一包宛(蠟紙ニ包ム)

燒酎ヲ注ギ患者ヲ「アルコホル」ヲ嫌歴スルノ念ヲ發セシムルノ法
 ハ時トノ大効アリ(ベルゼリウス氏法)○其他慢性胃加答兒ヲ治療シテ
 全身ノ營養ヲ善クス可シ
 硝酸ストリキニー子 〇・〇六
 餾水 一五・〇
 右毎日一回乃至二回注射ス始メ
 〇・五後〇・二五(都合十回乃至
 十六回注射ヲ行フ)
 硝酸ストリキニー子 〇・〇五乃至一・〇

稀磷酸 一五・〇
 右毎日三回十滴
 蕃木龍越 〇・五
 酒精 五・〇
 稀磷酸 一〇・〇
 右毎日三回十滴

生齒困難 Dentio difficilis デンチチオ、デツファイチリス

診候 神思不安、睡眠不穩、輕度ノ口内炎、下痢嘔吐、微熱、痙攣性咳
 嗽、皮疹等ヲ發ス又、痙攣ヲ起スコトアリ、此等ノ症候ハ生齒期ニ於
 テ認ムベキ原因ナクシテ發シ、生齒終レバ緩解ス
 療法 多クハ特別ノ治療ヲ要セズ。對症的ニ口内炎ニハ硼酸水等ニテ口
 腔ヲ洗ヒ、啼泣不眠アラバ臭剝、抱水「クローラル」ヲ試ムベシ。

臭剝
單舍

一・五乃至三・〇
一五・〇

餽水

右每二時乃至每三時一小兒匙宛
一〇〇・〇

單純性尿崩

Diabetes insipidus. デアベピテス
インシピデス

原因 不明ナルモノ多シ時トシテ腦、脊髓ノ損傷、疾患、微毒、飲酒過度、
遺傳ニ原因ヲ歸スルコトアリ

診候 尿量ノ著明ナル増加煩渴ヲ主徵トス尿色透明水様ニシテ糖及蛋白
ヲ含有セズ比重ハ一〇〇・五乃至一〇〇・一、一日ノ尿量三乃至十リーテ
ル或ハ其以上ヲ算ス

豫後 併發症ナキトキハ十年以上ヲ經過シ直接生命ヲ失フコト少ナキモ
全治セシムルコト難キカ故ニ不良ナリ

療法 原因ト思料スベキモノ明カナレバ之レヲ療ス例令ハ微毒ヲ治スル
ガ如シ

其他一般ニハ左方

甘草煮
三・〇

適宜

甘草丁
四丸

一〇〇・〇

阿片 右毎日三回三十滴宛

重曹 〇・三

右十二包ニ分チ毎日二乃至三回
一包宛 三・〇

麥角越 一・〇

一・〇

糖尿病(蜜尿病)

Diabetes Mellitus.

ヂャベテス
メリツテス

原因 遺傳、肥胖病、麥酒過飲、粉食或ハ甘味食物ノ座食、喫煙或ハ精神勞
働ノ過度、微毒、頭部外傷、腦疾患、脾臟ノ疾患等ナリ

診候 飢渴共ニ甚ダシク咽頭乾燥、排尿過多及頻次(三千乃至一萬瓦)殊
ニ夜間ニ甚シク清澄水ノ如キ尿中多量ノ糖分(殆ンド毎常葡萄糖)ヲ含
ム(比重ハ一〇二・五乃至一〇四・五及其以上)果實様香氣等其主タルモノ
ナリ其他倦怠、頭痛、不眠、皮膚乾燥、瘙癢症、癩腫、癰、(壞疽ヲ發スルコ
ト多シ)。色慾消失、白内障、網膜炎、視神經消耗症、神經痛、屢膝蓋腱反
射消失(約半数)昏睡(糖尿病昏睡)等ヲ發スルアリ又唾液ハ時ニ酸性
ニシテ齲齒ヲ生ズ又便秘ス、男子ニアリテハ陰萎婦人ニアリテハ流産

單純性尿崩 糖尿病

二四五

ヲ起ス、又頑固ナル陰門癢痒アリ、男子ニハ淋疾様疼痛アルコトアリ、肺結核ヲ合併スルコトアリ、呼吸ニ林檎様芳香アリ、又患者發熱時ハ糖ナキコトアリ

豫後 不良、概テ昏睡、肺癆、癰疽、心臟衰弱等ニヨリテ死ス經過ハ一年乃至十年以上

療法 試ミニ魚、貝、肉、脂肪等ノミヲ食用ニ供シ總テ米、麵包ノ類及ビ砂糖菓子ヲ禁ジ一二日ヲ經テ尿中ニ糖ヲ見ザルトキハ輕症ナリ、即チ如何ナル程度迄含水炭素ヲ用キルモ尿中ニ糖ヲ檢出セザルカヲ試驗シ以テ日常ノ飲食ヲ規定スベシ、但シ毎週一日丈ハ必ず含水炭素質ヲ取ラザルヲ可トス、○重症即チ含水炭素質ヲ與ヘザルコト久シキニ至ルモ尙ホ糖分ノ存スルモノニ在リテモ含水炭素質ハ全ク之レヲ禁ゼズ其少量ヲ與フ可シ○食物ニハ魚、貝、鳥、卵、肉、豆腐、綠色ノ野菜、菌類ヲ用キ飯、麵包、馬鈴薯、豆類、甘味アル果實ヲ禁ズ○飲料ニハ水、礦泉、茶、珈琲(砂糖ヲ加エザルモノ)、弱キ酒類、少量ノ牛乳ヲ用キ、麥酒、リキウ酒、チヨコレートヲ禁ズ、甘味ヲ望ムモノニハ、「サツカリン」ヲ以テ砂糖ニ代フベシ、○其他適宜ノ運動、按摩法ヲ賞用ス、微毒患者及ビ其疑アルモノニハ驅微法ヲ施スベシ

磷酸コチン	〇・〇二	阿片末	〇・六
乳糖	〇・三	甘草末	二・〇
右爲一包與六包一日三回一包宛		甘草蒸	一・〇
二日分		右三十丸ニ作り毎日四乃至五丸宛	
阿片末	一・〇	アンチピリン	〇・五
甘草蒸	適宜	重曹	〇・六
右爲二十丸一日二回一丸宛ヨリ		右爲一包與六包一日三回毎食前	
漸々増量シテ一日八回一丸宛ニ		一包宛アルカリ性ノ水ニテ用ユ	
至リ漸次減ジテ一日二回一丸宛		ニ復ス	
〇・〇五		ピラミドン	〇・三
阿片越	〇・〇三	阿片越	〇・〇七
貴著越	〇・〇三	右爲一包與十二包毎日三乃至四	
乳糖	〇・三	同一包宛	
右爲一包與六包一日三回一包宛		撒曹	一・〇
二日分		右爲一包與六包一日三回二日分	
阿片	〇・〇五乃至〇・一	服	
重曹	〇・五	臭曹	各一五・〇
右爲一包與六包一日三回二日分			

糖尿病

二四七

重曹	一五・〇	薄荷精	六滴
右三十包ニ分チ毎日三回一包宛		鹽水	五〇〇・〇
水ニ溶解シテ用ユ		右一日數回分服	
撒曹	六・〇	重曹	五〇・〇
鹽水	二〇〇・〇	右一日内ニ分服スベシ	
右調和一日三回二分服		醋酸ナトリウム或ハ酒石酸	二〇〇・〇
サツカリン	三・〇	炭酸水	二〇〇・〇
乾性炭酸ナトリウム	二・〇	サツカリン	〇・三
マンニツト	五〇・〇	橙皮油	〇・五
右研和百粒ニ作り其一粒ヲ飲料		右調和一日三回ニ用ユ	
中ニ加ヘテ甘味ヲ添フル爲メニ		既ニシテ昏睡ニ陥リタル時ハ食鹽液ヲ	
用ユ		皮下若シクハ靜脈内ニ注入尿ノ反應ヲ	
昏睡ノ虞アルトキハ多量ノ「アルカリ」		シテ「アルカリ」性トナスニ至ル可ク同	
ヲ用ユ即チ左ノ如シ <small>(スターデルマン氏)</small>		時ニ蓖麻子油ノ下劑ヲ投ズ	
拘櫛酸	一六・〇	食鹽	六・〇
炭酸ナトリウム	三六・〇	炭酸ナトリウム	三・〇
サツカリン	〇・三	鹽水	一〇〇〇・〇
		右攝氏卅九度ニ温メ注入	

胃擴張 Dilatio ventriculi

チラチチチ、ウエントリクリー

原因 暴食或ハ慢性胃加答兒ニ來ル胃壁筋ノ衰弱弛緩及癌腫或ハ癥痕ニ因ル幽門狹窄隣接内臓ノ腫瘍ノ壓迫

診候 胃部ノ壓重擴張食思缺乏或ハ煩渴、空腹時ノ胃痛、嘔噦、吞酸、噯氣、食後一頓ノ大嘔吐、其他胃部ノ振盪音、羸瘦、便秘等ナリ又頻々飢餓ヲ訴フル者有リ直立位ニ於テ患者ヲ打診スレバ胃ノ内容物ハ其下部ニ集マリアルヲ以テ上縁ハ水平線ヲナシ下縁ハ弓狀ヲナス濁音部ト該部ノ上縁ニ接スル廣キ鼓音部ヲ檢出スベシ而シテ臥位ニ於テハ濁音消失ス其他胃「カテーテル」ノ尖端ヲ臍下ニ觸知レ又タ胃「カテーテル」ニ由テ空氣ヲ胃中ニ吹入シ或ハ酒石酸及重曹ヲ以テ胃中ニ瓦斯ヲ發生スルトキハ判明ニ胃ノ境界ヲ知ルベシ

豫後 萎縮性及癥痕性ハ良、癌腫性ハ不良

療法 其原因ニ注意シ幽門ノ狹窄ニハ手術ヲ行フベシ輕度ノ者ニハ滋養攝生法即食餌ハ少量ナルモノヲ數回ニトラシメ飲料ヲ減シ且ツ易消化物ヲ擇ミ香料或ハ多量鹽ヲ含有セル食物ヲ斥ケ食後ニハ身體ヲ安靜ニ

スベシ其他止渴ニハ少許ノ氷片或ハ氷牛乳ヲ投ス或ハ生理的食鹽水ヲ皮下ニ注入スルモ可ナルモ實地上ニハ灌腸ヲ施スヲ最モ便ナリトス、飲用スル液體ハ一日一・五リールヲ超ユベカラス食物モ水分少キ「パン」ノ如キヲ薄ク切リテ燒キテ用フベシ軟ナル米飯ハ可ナレモ粥ハ不可ナリ、蔬菜モ然リ、牛酪ノ如キ脂肪善良ナル酒ハ少量ニ使用スルモ可ナリ水治法ヲ行ヒ及ビ「カル、ス」泉鹽ヲ用ヒテ効アリ高度ノ者ニハ胃唧筒洗滌法ヲ要ス而シテ多量ノ飲料ヲ戒メ唯唧筒ヲ用キルニ先ダチテ充分ノ飲料ヲ與フルノミ常ニ彈力性腹帶ヲ用ユベシ尙ホ電氣療法効アルコトアリ後治法トシテ「カル、ス」泉療法、冷水療法ヲ行ヒ同時ニ按摩法ヲ施ス

- 磷酸コデイン 〇・〇六
- 右散分六包一日一乃至三包
- 蕃木龍越 〇・〇六
- 石炭酸 二・〇
- サリチール酸 一・五
- アルテア根末 適宜
- 右分三包一日三回食後ニ用ユ
- 右丸二十四粒ニ製シ一日三回一丸宛
- 嘔吐ノ際ニハ左方ヲ用ユ
- 稀鹽酸 一〇・〇
- 白糖 二・〇
- 覆盆子舎 二〇・〇

右毎食後一時間ヲ經テ十滴ヲ一盞ノ温湯ニ和シ用ユ

サリチール酸 三・〇

白糖 三・〇

右分六包一日三回毎食前一時間ヲ隔テ「オプラート」ニ包ミテ内服スベシ

〇・三

鹽酸コデイン

本症ニ胃加答兒ヲ合併スルコト多キヲ以テ之ヲ認メタル時ハ慢性胃加答兒ノ處置ヲ應用スベシ

赤痢 Dysenterie. チゼンテリ 痢病

原因 明治三十年醫學博士志賀潔氏赤痢菌ヲ發見セリ是レ本症ノ原因ナリ熱帶地方ニハレッシ氏大腸「アメーバ」ニ因ス

診候 全身違和、食思缺損、發熱、下行結腸部或ハ下腹全部ノ痙攣様疼痛、混血膠ノ如キ少量糞便ノ頻發下痢裏急後重等ナリトス、左腸骨窩ニ於テ硬固ナル壓痛性索狀物ヲ觸知ス

豫後 概ネ良ナルモ其流行時ノ性質ニヨリテ異ナリ我四國九州地方等ニ於ケル流行ハ死亡比例二十乃至二十五%ナリ

療法 對症療法其主タル者ニシテ安臥靜息ヲ命ジ飲食ヲ慎ミ(食物ハ牛乳スーブ、ヲモ湯、卵等、無刺戟性流動性温キモノヲ與フ)病室内空氣ノ通暢ヲ能クシ患者ノ周圍ヲ務メテ清潔ニシ消毒法ヲ嚴ニシ下劑ヲ投ズ十分ナル便通後タンニン劑ヲ與フ裏急後重及ビ疝痛疼痛ニハ腹部ニ温器法ヲ行ヒ粘液性賦形藥ト共ニ阿片ヲ與フ「サレップ」或ハ澱粉灌腸ヲ施シ少量ノ「ラム」酒ニ濃厚ナル茶ヲ加ヘテ與フルコト有リ凡テ病室ニハ他人ノ出入ヲ禁ジテ其傳染ヲ防キ一般ニ可及的下劑ニ注意ス而シテ病期ニ相應シ左方ヲ處ス可シ

- 甘汞 〇・五
- 乳糖 〇・三
- 右四包ニ分チ一包服用後蓖麻子油二〇・〇ヲ頓服シ後毎三時一包内服
- 蓖麻子油 五〇・〇
- 右與ニ食匙(三時間ヲ經尙快通

- ヲ得ザルトキハ更ニ一食匙ヲ與フヘシ而シテ第三日、第五日、第七日ニ反覆スノ如クスルヲ要スルナリ)
- 硫苦 三〇・〇
- 苦丁 二〇・〇
- 鹽水 二〇〇・〇

右一日三回二日分服

- 大黃根末 六〇・〇
- 吐根末 二〇・〇
- 右混和適宜ノ熱湯ニ浸出シテ之ヲ濾過シ全量一二〇・〇ノ液ニ作り更ニ「アラビヤゴム」四〇・〇蜀葵會三〇・〇ヲ加ヘ毎一時一食匙
- 〇・五%タンニン水 三〇〇・〇
- 阿片丁 十滴
- アラビヤゴム 七〇・〇
- 右瀉腸料トス
- タンナルビン 一〇・〇
- 右爲一包與六包一日三回一包宛
- サリチール酸蒼鉛 六〇・〇
- タンナルビン 三〇・〇
- 右分六包二日分服
- タンニゲン 〇・五

右爲一包與六包一日三回一包宛

- タンナルビン 一〇・〇
- 阿片 〇〇・一
- 右爲一包與六包一日三回一包宛
- 阿片丁 一〇〇・〇
- 右毎日三回十滴宛水ニテ用ユ
- 〇・五%タンニン水 二二〇〇・〇
- 右二分シ微温(三十四度)トナシ除々ニ直腸内ニ注入ス十五分ヲ經テ排出セシム一日二回(カンタニー氏法)
- 〇・五%硝酸銀液 一〇〇・〇
- 右瀉腸料
- 頑固ノ裏急後重ニハ左方ヲ處ス
- 實若越 〇・二五
- カノオ脂 五〇・〇
- 右坐藥四個ニ作り肛門ニ挿入
- キニー子 二〇〇乃至四〇〇

縮水 右二回分灌腸料トナス一日一回 其他ハ腸加答兒ノ條下ヲ參照スベシ

月經困難 Dysmenorrhoea

原因 子宮前屈、子宮頸腫瘍（充血性月經困難）、子宮外膜炎、卵巢炎（卵巢性月經困難）、子宮內膜炎（內膜性月經困難）

診候 骨盤充盈、薦部牽牽、尿意頻數ノ感アリテ發作性ノ疼痛腰及腹部ニ波及シ、嘔氣、嘔吐、偏頭痛等ヲ發スルコトアリ

豫後 其原因ヲ除キ得ルトキハ良

豫法 原因ヲ探究シ（器械的原因、即チ子宮的或ハ卵巢的原因）而シテ大抵下腹部ノ温巻法ヲ賞用ス安靜ヲ命ジ便秘ノ傾向アル時ハ下劑ヲ投ズ可シ限局性ニ疼痛アルトキハ該部ニ芥子泥ヲ貼用シ又ハ十倍イヒチオール軟膏ヲ用キテ効アリ、興奮ヲ避ケシメ鎮痙藥鹽酸モルヒネ殊ニ其皮下注射ヲ用ユ可カラズ若シ已ムヲ得ザル時ハ阿片丁幾鹽酸「コデイン」ヲ與フ、或ハ酒精劑ヲ與フヘシ○月經困難ニハ腔部粘膜ニ四五條ノ水蛭ヲ放チ或ハ深亂刺法ニ依テ局部處瀉血ヲ行フ内服ニハ左方ヲ處シテ効アリ

- アンチピリン 〇・五
- 右爲一包與六包一日三回一包宛
- フェナセチン 〇・五
- 右爲一包與四包一日二回一包宛
- ピラミドン 〇・二五
- 右爲一包與六包一日三回一包宛
- 鹽英 〇・〇五
- 白糖 三・〇
- 右研和散五包ニ分チ二乃至三時
- 間毎一包
- 磷酸コデイン 二・〇
- 乳糖 二・〇
- 右分五包一日三回一包宛
- 杏仁水 〇・〇
- 鹽英 〇・一
- 右一時間毎十滴砂糖ニ加ヘ用ユ
- 印度大麻越 〇・二
- 白糖 五・〇

- 右研和散十包ニ分チ每三時一包
- カミルレ花浸 一五〇・〇
- 阿片丁 十五滴
- 薄荷舎 一五・〇
- 右調和每時一食匙
- ヒドラスチス流動越 二〇・〇
- マラセンス酒 二〇・〇
- 桂皮舎 二〇・〇
- 右調和每二時乃至四時一茶匙
- 海狸丁 一〇・〇
- 蕃木鼈丁 一三・〇
- 右每日三回十滴宛
- 海狸丁 一〇・〇
- 蕃木鼈丁 各五〇・〇
- 右每日四回二十滴（月經前八日
- ニ用キ始メ月經ノ終ルマテ持續
- ス可シ） 一〇・〇
- 阿片丁 一〇・〇

荳蔻丁
 ヒヨス丁
 蘇草丁
 葛陀羅華丁
 右毎日三四回二十滴（フリツチ氏）
 ウキアルヌムアルニボリウム越
 單合 各二〇・〇
 右一日二乃至四回一茶匙
 クロ、フォルム 一・五
 樟腦 〇・二五
 エーテル
 ミルラ丁 各一・五

ゴム漿
 留水 右每十五分一食匙
 五〇・〇
 吳剝
 アンチピリン 各五・〇
 ウキアルヌム流動越 一〇・〇
 コンニヤク酒
 橙皮合 各一五・〇
 餾水 六〇・〇
 右毎日二乃至四食匙
 麥角越 〇・一乃至〇・二
 白糖 三・〇
 右研和散五包二分チ一日ニ用ユ

酸性消化不良

Dyspepsia acida

アチーダ

鹽酸過多症

Hyperchlorhydrie

ヒールクロー
ルエドリー

原因 胃潰瘍、ヒステリー、神經衰弱反復シタル胃ノ刺戟、早食習慣、齒牙

不良ノ爲メ咀嚼不充分ナルコト及香料、並ニ酒類ノ濫用モ亦之ヲ誘起
 スルコトアリ、本邦人ノ如ク主食トシテ澱粉性食物ヲトルモノニ發シ
 易ク、中年男子ニ多シ

診候 胃部壓重、痞滿、吞酸嘔噦ヲ訴フ通常食後二時間ヲ經テ胃部ニ疼
 痛ヲ起シ、アルカリ劑若クハ蛋白性食物ノ攝取ニヨリ疼痛緩解ス、食
 慾ハ尋常若クハ却ツテ亢進ス、患者ノ營養ニ障碍ナク、多ク便秘ス食
 後一時間ノ胃液ハ鹽酸分含量〇・二%以上ヲ算ス

療法 原因ヲ除去スルコトヲ勉メ食物中鹹キ物酸キ物及香蠟料ヲ多ク加
 ヘタル物ヲ禁ズ食事ハ一日五六回ニ分食スベシ

重曹 六・〇
 次硝着 二・〇
 荳蔻エキス 〇・二二
 右二日量一日三回食後三十分
 一時間ニ服用
 便秘ノ微アル場合ニハ
 燉性マグネシア 三・〇
 重曹 六・〇
 次硝着 二・〇
 荳蔻エキス 〇・二二
 右二日量一日三回食後三十分
 一時間ニ服用
 右三包二分チ一日三回每食後一

酸性消化不良 鹽酸過多症

時間一包宛
人工ガルス泉鹽

三〇〇

右六包ニ分チ一日三回毎食後一
時間一包宛

小兒急性消化不良

Dyspepsia acuta infantum.

チスヘブシア、アクターター、インフアンツム

原因 不適當ナル榮養法（乳汁及食物ノ不良過度ノ飲食、飲食ノ用器不潔）授乳婦ノ精神劇動、身體ノ過勞、衰弱等

診候 乳兒ノ胃消化不良ニハ顔面蒼白、心身不安、食慾不振、吐乳、綠色ヲ帶ブル惡臭ヲ放ツ大便、啼泣スルコト平日ヨリ甚ダ屢々ナリ熱ハ高キコトアリ全ク平温ノコトアリテ一定セス○乳兒ノ腸消化不良ニハ下痢ヲ發スルコト一日五乃至二十回ニシテ便ハ綠色ヲ帶ビ惡臭ヲ放チ粘稠ナル粘液ヲ混シ黃色ノ小絮片ヲ有ス食慾不振時々啼泣ス時トシテ痙攣ヲ發スルコトアリ○小兒ノ消化不良ハ心身違和、食慾不振、頭痛、胃部壓重及疼痛、舌苔、口臭、嘔氣便秘、若クハ下痢、體温ハ其始メ高ク四十度ニ達スルコトアリ通常速カニ解熱ス

療法 其原因ヲ除去スルニ在リ故ニ其生活法ヲ整理スヘシ虛弱或ハ人工榮養ノ小兒ニハ良性ノ母乳ヲ與ヘ且ツ哺乳時間ヲ制限シテ大約毎三時

或ハ毎四時一回トナシ決シテ過分ニ飲マシムヘカラス○良性ノ母乳ヲ供給スルコト能ハサル場合ニ於テハ之ヲ補給スルカ爲メ牛乳ト燕麥粘汁、糖漿汁或ハ膠質液（即チ膠質一〇〇ヲ半「リ」テルノ水中ニ溶カセル者）及ヒ蛋白水（鶏卵白一箇ヲ半「リ」テルノ沸騰後冷却シタル水ニ加ヘ之レニ白糖少量ヲ混ス之レニ「コンニヤック」酒一二滴ヲ更ニ加フレハ可ナリ）トノ混合液ヲ與ヘ肛圍ヲ清潔ニシ濕爛或ハ濕疹ヲ生セサル様注意スヘシ

嘔吐ニ對シテハ胃ノ洗滌法ヲ行フテ大ニ効ヲ奏ス○成長シタル小兒ニ在リテハ其始メ一兩日間ハ下劑ヲ與ヘ攝生ヲ嚴ニスヘシ食物ハ數日間流動性ノ食物（稀粥汁、肉羹汁、牛乳等）ノ他ハ之ヲ禁スヘシ

甘朮 〇〇一—〇〇三
乳糖 〇〇三
右爲一包與三包毎二時一包宛

（乳兒ノ初期ニ用キ三包ヲ用キ終レバ後服ヲ止ムヘシ）
稀鹽酸 一〇〇—二〇〇
アラビアゴム 一〇〇—二〇〇
アルテア舍利別 二〇〇—
糖水 一〇〇—〇

甘朮 〇〇三—〇〇五
乳糖 〇〇三
小兒急性消化不良

右毎二時一小兒匙宛
 稀鹽酸 一〇—二〇
 アラビヤゴム 一〇〇
 阿片丁 三滴
 アルテア舍利別 二〇〇〇
 餾水 一〇〇〇〇
 右毎二時一小兒匙宛
 ヘブシン 一〇〇
 稀鹽酸 〇・五
 覆盆子舍利別 二〇〇〇
 餾水 一〇〇〇〇
 右一日三回每食後一茶匙宛
 重曹 五〇〇

單舎 二〇〇〇
 餾水 一〇〇〇〇
 右一日三回每食後一茶匙宛
 重曹 一〇〇〇
 茴香油糖 五〇〇
 右一日三回每食後一刀尖宛
 タンナルビン 〇・五
 右爲一包與六包一日三回二分
 服(下痢ニ用ユ)
 タンニーゲン 〇・五
 右爲一包與六包一日三回二分
 服(下痢ニ用ユ)

小兒慢性消化不良

Dyspepsia chronica

infantum. チヌヘブシア、クロニカ
インファンツーム

原因 腺病結核貧血ニ因シ或ハ急性性症ヨリ轉ス
診候 心身倦怠、食慾不振、胃部ノ痞滿、噯氣、便秘等ヲ以テ其主徴ト

療法 原因ニ注意シ急性性症ノ如ク攝生ヲ嚴ニシ便通ヲ整フベシ而シテ藥劑ニハ大黃其他稀鹽酸等急性消化不良ト同一ノ藥劑ヲ用ユベシ
 大黃根浸 (二・〇)八〇〇〇 單舎 二〇〇〇
 重曹 三〇〇 右毎日三回一小兒匙宛

神經性消化不良

Dyspepsia nervosa.

チヌヘブシア
ネルヴオーザ

原因 神經衰弱症、ヒステリー、ヒボコンデル、貧血、萎黃病、肺癆、武氏病、手淫、過勞、授乳經久、酒烟過度、腸蟲、麻拉里亞病等
診候 精神鬱閉、倦怠、頭痛、眩暈不眠心悸亢進ヲ伴ヒ、胃部痞滿、吞酸噯氣、嘔噦、便秘或ハ下痢、食思缺損、臨食惡心、嘔氣、等ニシテ本病ノ固有ナル點ハ他ノ器質的胃疾患ニ反シテ是等ノ症狀ノ食物ノ性質及量ニ關係セサルヲナリ、而シテ胃ノ分泌及運動關係短時日間ニ反覆變化ス殊ニ肉食嫌忌等ナリ
療法 其原因ヲ除去スルニ在リ故ニ其生活法ヲ整理スベシ即チ水治法、按摩法、電氣療法、食料療法ヲ用キ海濱或ハ山上ノ住居ヲ可トス而シテ

小兒慢性消化不良 神經性消化不良

藥劑ハ精神ヲ安ンセシカ爲メ時々臭剝、磷酸、ウコテイシ、ヲ與ヘ食思缺
亡ニハ苦味、不眠症ニ苦ムトキハ催眠劑ヲ與フベシ

臭剝

三・〇

コンツランコ煎

縮水

二〇〇・〇

單舍

(一五・〇)、一八〇・〇

右一日三回二日分服

右每二時一食匙宛

磷酸コテイシ

〇・〇一五

不眠症ヲ訴フ者ニハ左方

白糖

〇・三

右爲一包與六包一日三回一包宛

トリゴナール
右爲一包頓服(毎二日夕刻一回)

プロームナトリウム

各一・〇

ズルホナール
右爲一包頓服(毎二日夕刻一回)

プロームアムモニウム

各一・〇

抱水クロラール
右每夕一乃至二食匙宛ヲ赤葡萄

茶劑ニテ用ユ

酒ニテ用ユ

酒ニテ用ユ

蘇木縮丁

各一・〇

酒ニテ用ユ

酒精大黃丁

各一・〇

酒ニテ用ユ

エーテル製續草丁

各一・〇

酒ニテ用ユ

呼吸困難

Dyspnoe.

チスプネー

原因

頭蓋腔内ノ疾患(出血、腫瘍、炎症)ヒステリー、酸素缺亡、血液變

性(貧血、白血病、萎黃病、熱性病、尿毒症、糖尿病性昏睡)脊椎ノ

彎曲症、呼吸筋ノ麻痺或ハ痙攣、咽頭、喉頭、氣管及ヒ氣管支ノ疾病、

肺ノ疾病、心臟病

診候 非常ノ呼吸困難、胸部ノ笛聲雜音等ナリ呼吸數ノ増スヲ常トスル

モ亦減ズルコトアリ

療法 原因ヲ搜リテ之ヲ除去スベシ殊ニ肺氣腫ニ於テハ「ケブラツチヨ」

ヲ賞用ス

五・〇

ケブラヒーチ

〇・五

水製ケブラツチヨ越

二五・〇

甘草越

適宜

右調和三時一茶匙

右丸十粒ニ作り毎日四乃至五粒

ケブラツチヨ越幾斯トハ「ケブラツチ

葛陀羅華越

〇・一

ヨ根末一〇・〇ヲ酒精一〇〇・〇ニ溶解

ザキ丁

四・〇

濾過シタル後之レヲ蒸發シ二〇・〇ノ

續草水

三〇・〇

水ニ溶解シタル者ナリ

右發作時一茶匙

呼吸困難

ロベリア丁
阿片安息香丁

一五・〇
三〇・〇

右三十滴砂糖水ニテ用ユ

小兒急癇

Ekklampsia infantum

エクランプシヤ
インファンツム

原因 小兒特異ノ反射的疾患ニシテ蛔蟲或ハ胃腸鼻耳内ノ異物ヨリ來リ又生齒困難、精神感動等ヨリ起ルヲ常トス其他腦病、胃腸加答兒、便秘、下痢急性熱性病、急性發疹ノ前驅期ニ來ルモノナリ二年以下ノ小兒ニ多ク五年以上ニ稀ナリ

診候 不眠、咬牙、號叫、強直、痙攣、顔面蒼白、直視、噴泡、厥冷、仰倒、人事不省

豫後 原因ノ異ナルニ從ヒ一定ナラズ

療法 腦病、胃及腸加答兒、便秘、下痢、急性發疹病ノ前驅期異物等凡テ原病ニ注意シ發作時ニハ灌腸ヲ施シ腦ノ充血及貧血ニ注意シ發作間歇時ニハ安靜ヲ主トシ藥劑ニハ左ニ掲グル者ノ他尙鐵劑及キニーチ等ヲ處シテ効アリ

燐酸
覆盆子舎

二・〇
一〇・〇

溜水

右調和毎半時一食匙

一〇〇・〇

抱水クロラール
溜水

〇・二五
五〇・〇

右調和灌腸料

抱水クロラール

〇・五乃至一・〇

プロームアムモニウム

一・〇

單舎

二〇・〇

溜水

一〇〇・〇

右調和半時一小兒匙

ウレタン

〇・二乃至〇・三

右爲一包五包ヲ與フニ食匙ノ

砂糖水ニ溶解シテ用ユ

大傾不利ナルモノニハ左方ヲ處スヘシ

甘汞

〇・五

白糖

五・〇

右研和十包ニ分チ毎時一包

發作ノ頻數ナルモノニハ左方

プロームカリウム

二・〇

覆盆子舎

二〇・〇

小兒急癇

溜水

右調和毎時一小兒匙

一〇〇・〇

プロームカリウム

二・〇

プロームアムモニウム

一・〇

單舎

三〇・〇

溜水

一〇〇・〇

右一日三四回一小兒匙乃至食匙

沃剝

一・〇

覆盆子

二〇・〇

溜水

八〇・〇

右調和毎一時一小兒匙

クロ、フォルム

一〇・〇

右吸入料

硫酸アトロピン

〇・〇一

稀硫酸

〇・〇五

溜水

一〇・〇

右毎日一乃至三回十滴
虛脱ノ傾向アルモノニハ

麝香

〇・三

又鹽酸ピロカルピン、ヤボランチ浸チ

ゴム漿

六〇・〇

用ユ

右每十五分乃至三十分一小兒匙

妊婦產婦及褥婦急癇

Eklampsia gravidarum

et parturientum.

エグランプシアグラウケールム、エト
ハルチリエンチユム

原因 妊娠末期若クハ分娩中ニ起ル或ハ産褥中ニ起ル癲癇様發作ナリ
診候 頭痛、眩暈、耳鳴、眼火閃發、瞳孔散大、呼吸困難若クハ中絶、
 心窩痞硬、嘔吐、顔面潮紅、直視、搐搦、痙攣、噴泡、人事不省ナリ
 發作ノ持續ハ十秒乃至六十秒或ハ其以上ナリ數分或ハ數時ヲ隔テ發作
 反覆シ遂ニ死亡スルコトアリ發作回数ハ二十回乃至三十回重キハ其以
 上ヲ常トス三四回反覆スル時ハ體温上昇シ時ニ四十度以上トナルコト
 アリ脈搏ハ發作ノ際ニハ殆ンド觸診シ難ク、間歇時ニ在テハ硬クシテ
 甚ダシク緊張ス

一般ニ蛋白尿アル時ハ尿量著シク減少ス

豫後 母體ニ於テハ二十乃至三十%ノ死亡、胎兒ニ於テハ五十%ノ死亡
ヲ算ス

療法 頭部ノ氷罨法、冷水或ハ醋水洗滌、被包法（武雷篤氏病ニ於ケル
 如ク）發汗法（熱浴ハ攝氏三十八度乃至四十度ヨリ始メ漸々四十二度
 乃至四十五度ニ高メ斯ノ如クニシテ浴中ニ在ルコト半時間而後毛布ヲ
 用キテ全身ヲ被包シ二三時間褥中ニ温臥ス可シ）下劑、冷水灌腸等一
 般ノ處方ナリ○發作前其前驅期ニ於テ麻醉藥ヲ用キルノ猶豫アルトキ
 ハ「クロ、フォルム」ヲ吸入セシメテ多クハ良効ヲ奏スルモノトス其他
 麻醉藥ニハ莫比ノ皮下注射、阿片ノ灌腸、抱水「クロラール」ノ内服或
 ハ灌腸等又用キテ効アルベシ○重症ニハ刺絡ノ力能ク起死ノ効ヲ奏ス
 ルコトアリ○當時既ニシテ分娩ノ傾向ヲ呈スルモノニハ分娩ヲ催進ス
 ルコトヲ務メ其他舌ヲ傷ケザル様注意スヘシ

- | | | | |
|----------------|-------|----------------------------|-------|
| セニエツト鹽 | 二〇・〇 | ゴム合劑 | 一〇〇・〇 |
| マンナ合 | 二〇・〇 | 右灌腸料（患者不安トナルトキ
ハ之レヲ反覆ス） | |
| 餛水 | 一五〇・〇 | 阿片丁 | 一〇・〇 |
| 右調和每半時一食匙（下劑） | | 右二十滴チ一回ノ灌腸料ニ加ヘ | |
| クロ、フォルム | 五〇・〇 | 每一時用ユベシ | |
| 右吸入料（醫親ヲ使用スベシ） | | 亞硝酸アミール | 五・〇 |
| 抱水クロラール | 二・〇 | | |

妊婦產婦及褥婦急癇

茴香油 一〇〇〇
 右二乃至五滴布片ニ滴シ嗅入
 鹽莫 〇〇一
 杏仁水 一〇〇〇

右調和十五分時十五滴
 阿片 〇〇二
 白糖 五〇〇
 右研和散十包ニ分チ每半時一包

濕疹 Ekzema. Ekzema.

原因 化學的、温熱的、器械的刺戟、寄生菌、不潔、血行障碍、腺病性惡液、貧血、萎黃病、密尿病、等ニシテ頭皮、顔面、股間、臀部、乳房、陰部、ニ來ルコト多シ

診候 急性慢性ノ別アレドモ皮膚ノ癢痒灼熱腫起ニ始マリ次チ發生シタル帽針頭大ノ丘疹水疱ニ變シ或ハ破潰シ或ハ軟痂ヲ結ビ後鱗屑ヲ生ジ終ニ治ス

豫後 良

療法 濕疹ヲ療スルニ當リテハ注意シテ局所療法ヲ行ヒ又々兼テ全身ノ狀態ヲ診シ營養ノ障害、神經性症狀等アルトキハ又兼テ之ヲ治療セシコトヲ要ス、而シテ其局所療法ハ其部分ノ如何患部ノ大小炎症ノ狀態等ニ從ヒ各異ナリ今其療法ノ大要ヲ舉ゲン○酒精劑ハ表皮ノ剝離ア

ル部ニハ川ユベカラス是レ疼痛ヲ發スレバ也○紅斑丘疹期ニ至リテハ撒布劑、酒精劑、塗布劑、卷法及冷却軟膏ヲ用キ濕潤期ニ在リテハ撒布劑、卷法、バスタ及軟膏糊帶ヲ用キ結痂期ニ在リテハ先ツ油劑ヲ以テ痂皮ヲ除キテ後藥劑ヲ用ユベシ鱗屑期ニ在リテハ「タール」劑ヲ用ユベシ

(一)急性濕疹ニハ

亞鉛華 五〇〇
 澱粉 五〇〇
 右撒布料
 酸化亞鉛 五〇〇
 滑石 五〇〇
 右撒布料
 酸化亞鉛 二〇〇
 炭酸苦土 三〇〇
 白陶土 三〇〇
 赤陶土 二〇〇
 米澱粉 一〇〇〇
 右撒布料

亞鉛華 各五〇〇
 泥莖根末 二〇〇〇
 滑石 一〇〇〇〇
 澱粉 一〇〇〇〇
 右撒布料
 サリチール酸 一〇〇二
 滑石 一〇〇〇
 右撒布料
 次硝蒼 一〇〇〇
 滑石 一〇〇〇
 右撒布料
 テルマートル 一〇〇〇
 滑石 一〇〇〇

濕疹

右外用	米澱粉	一〇〇〇
	明礬末	二〇〇
	亞鉛華	〇〇五
	イリス根末	〇〇五
	右撒布料	
	炭酸マグネシウム	
	酸化亞鉛	各二〇〇
	滑石	二〇〇
	小麥澱粉	二〇〇
	右撒布料	
	酸化亞鉛	二〇〇
	炭酸マグネシウム	各三〇〇
	白陶土	二〇〇
	赤陶土	二〇〇
	米澱粉	一〇〇〇
	右撒布料	
	米澱粉	一〇〇〇
	イリス根末	一〇〇
	右撒布料	
	チモール	〇〇二五
	酒精	一〇〇〇
	右塗布料(瘰癧甚ダシキトキニ用ユ)	
	石炭酸	一〇〇
	酒精	一〇〇〇
	右塗布料(瘰癧甚ダシキトキ用ユ)	
	石炭酸	一〇〇
	酒精	一五〇〇
	右塗布料(瘰癧甚ダシキトキ用ユ)	
	ケルン香水	各二五〇
	グリセリン	二五〇
	右塗布料(塗布後撒布劑ヲ用ユ)	
	薄荷腦	一〇〇

酒精	一〇〇〇
右塗布料(瘰癧甚ダシキモノニ用ユ、但シ顔面及陰囊ニハ用ユベカラズ)	
サリチール酸	一〇〇
酒精	一〇〇〇
右塗布料(瘰癧甚ダシキモノニ用ユ)	
サリチール酸	一〇〇
酒精	一五〇〇
ラヘンデル精	各二五〇
ケルン精	各二五〇
グリセリン	二五〇
右塗布料(塗布後撒布劑ヲ用ユ)	
硼酸	一〇〇
酒精	一五〇〇
ラヘンデル精	各二五〇
ケルン精	各二五〇
グリセリン	二五〇
右塗布料(塗布後撒布劑ヲ用ユ)	
酒精	一〇〇
右振盪シテ後塗布スベシ	
ツメノール	一〇〇
酒精	一〇〇
エーテル	各三〇〇
グリセリン	二五〇
右塗布料(塗料後撒布劑ヲ用ユ)	
亞鉛華	各五〇
稀薄醋酸鉛液	各五〇
右一日二乃至三回塗布料	
二五%亞鉛華オリーブ油	一九〇
イヒチオール	一〇〇
右敷同外用	
亞鉛華	各二五〇
滑石	各二五〇
グリセリン	二五〇
餾水	各二五〇
右振盪シテ後塗布スベシ	
ツメノール	一〇〇
酒精	一〇〇
エーテル	各三〇〇

濕疹

グリセリン	三〇・〇	グリセリン	各一・〇
右塗布料		酒精	二〇〇・〇
硼酸	六・〇	右塗布料	
縮水	二〇〇・〇	酸化亜鉛	各二五・〇
右電法料		澱粉	五〇〇・〇
鉛水	四〇〇・〇	アセリン	一・〇
右電法料		サリチール酸	各一〇〇・〇
ブロー氏液	四〇〇・〇	右爲パスダ(ラッサル氏パスダ)	
右電法料		單鉛硬膏	各一〇〇・〇
レゾルチン	二〇〇・〇	亞麻仁油	各一〇〇・〇
縮水	二〇〇・〇	右爲軟膏(ヘブラ氏軟膏)	
右電法料		單鉛硬膏	各一〇〇・〇
石炭酸	一・〇	ワセリン	各一〇〇・〇
酒精	一五〇・〇	右爲軟膏(カホジ―氏單鉛ワセリン軟膏)	
ラベンチル精		リン軟膏	三〇〇・〇
ケルン香水	各二五・〇	アラブリン	七〇〇・〇
右調和塗布料		右爲軟膏外用	
石炭酸			

酸化亜鉛	各五・〇	テルマトール	各五・〇
次硝蒼		ゲラチン	
緩和軟膏		グリセリン	各三〇・〇
單鉛膏	各四五・〇	縮水	右爲膠劑外用(ローゼンタール)
右爲軟膏外用		酸化亜鉛	五〇・〇
硼酸	三・〇	サリチール酸	各一五・〇
黄色ワセリン(若クハ「ラノリン」)	三〇・〇	米澱粉	各一五・〇
次硝蒼蒼鉛	三・〇	グリセリン	七五・〇
黄色ワセリン(若クハ「ラノリン」)	三〇・〇	縮水	右調和煮沸シテ糊劑トシテ貼用
右爲軟膏外用(次硝蒼軟膏)		イヒチオール	一・〇乃至三・〇
テルマトール		グリセリン	
亞鉛華	各二四・〇	デキストリン	各一〇・〇
澱粉	二〇・〇	縮水	右熱シテ軟膏ニ作ル
黄色ワセリン		亞鉛華	一〇・〇
右爲パスダ外用			

白膠 各三〇〇・〇
 グリセリン 右爲膠劑外用(ウンナ氏亞鉛膠) 三・五
 醋酸鉛 粗製明礬 一〇〇・〇
 右調和濾過シテ水一〇〇〇・〇
 ナ加ヘ電法料トス(ブロー氏液) 一〇〇・〇
 澱粉 四〇〇・〇
 グリセリン 右調和煮沸シテ「クリーム」トナシ外用(グリセリン、クリーム) 〇・五
 白降汞 一〇〇・〇
 ラノリン 右爲軟膏外用 二・〇
 酸化亞鉛 八・〇
 豚脂 右爲軟膏外用

酸化亞鉛 五・〇
 安息香末 一・〇
 豚脂 (右調和軟膏ウキルソン氏軟膏) 三〇〇・〇
 木タール 綠石鹼 各一〇〇・〇
 酒精 右外用 各一五・〇
 木タール 右外用 各一五・〇
 酒精 右外用 各一五・〇
 木タール 肝油(若クハ「オレフ」油) 各二〇・〇
 右外用 木タール 三・〇
 トラウマチチン 右外用 三〇〇・〇
 木タール

酒精 各二五・〇
 エーテル 迷迭香油 各二・〇
 丁香油 右調和外用(ヘブラ氏タール丁 燧) 三・〇
 木タール ビツク氏擦劑 三〇〇・〇
 右調和擦劑外用 木タール 〇・三乃至三・〇
 亞鉛華バスタ 右調和爲軟膏外用 三〇〇・〇
 (二)慢性濕疹ニハ サリチール酸 一〇〇・〇乃至二〇〇・〇
 石鹼硬膏 一〇〇・〇
 右調和爲硬膏外用(ビツク氏サ リチール酸石鹼硬膏)

綠石鹼 一〇〇・〇
 酒精 二〇〇・〇
 ラヘンデル油 各三・〇
 ベルガモット油 右混和濾過シ洗滌料(ヘブラ氏 カリ石鹼精) 一・〇
 朱 二四・〇
 昇華硫黃 二十五滴
 ベルガモット油 七五・〇
 黃色ワセリン 右爲軟膏一日二回塗布料 〇・一五
 赤降汞 一〇〇・〇
 緩和軟膏 右爲軟膏外用 〇・二五
 硫酸亞鉛 各一〇〇・〇
 グリセリン 右栓塞ニ浸シ患部貼用 各一〇〇・〇
 細水

亞鉛華	〇・一五
水製阿片越	〇・〇二
(或ハ「ペラドンナ」越幾斯	〇・〇
ニ若クハ「コカイン」	〇・〇一五
カ、オ脂	一・五
右爲坐藥	
寄生濕疹ニハ	
昇汞	〇・二
ケルン香水	五〇〇・〇
酒精	一五〇〇・〇
右混和塗布料	
レゾルチン	五〇〇
薄荷腦	二・〇
ベルガモット油	二・五
酒精	二〇〇・〇

右混和塗布料	
サリチール酸	三〇〇
精製硫黃	五〇〇
カリ石鹼	六〇〇
右爲石鹼劑洗滌用	
サリチール酸	三〇〇
木タール	
酒精	
エーテル	各五〇〇・〇
右調和一日數回塗布料	
レゾルチン	各二〇〇
サリチール酸	五〇〇・〇
酒精	
右塗布料	

頑癬

Eczema marginatum.

エックツエマインギナツム

原因 「トリヒョヒートン、トンスランスト」名クル寄性菌ノ傳染ニ因ス生

殖器、臀部等ニ來ルコト多シ
 診候 赤褐色ノ丘疹若クハ水泡ニシテ多ク輪形ヲナシ中央ハ漸々剝屑ス
 ルニ從ヒ次第ニ周圍ニ蔓延シ痒痒甚タシク極メテ頑固ナルモノニシテ
 陰囊、股間、臀部、生殖器、腋窩等ニ來ルコト多シ
 豫後 良

療法 痒痒ニハ綠石鹼或ハ「カリ」石鹼精或ハ流動グリセリン石鹼ヲ以テ
 洗滌スルカ或ハ左ニ掲グル藥劑中何レカ其一ヲ用ユベシ

苛性カリ	一〇〇
留水	二〇〇・〇
右毎日二回塗擦料	
石炭酸	五〇〇
オレフ油	一〇〇・〇
右調和塗擦料	
石炭酸	五〇〇
濃厚酒精	一〇〇・〇
右調和塗擦料	
グリサロビン	五〇〇

チノリン	三〇〇
ワセリン	二〇〇
右調和軟膏ニ作ル	
クロムフォルムグツタヘルカ溶液	三〇〇
グリサロビン	三〇〇
右調和塗擦料	
没食子酸	三〇〇
單軟膏	一〇〇
右調和軟膏ニ作ル	

頑癬

没食子酸	二・〇	サリチール酸	一・〇
グリセリン	五・〇	酒精	三〇・〇
酒精	一〇〇・〇	右塗布料	一・〇
右調和塗布料	一〇〇・〇	ナフトール	一〇〇・〇
ヒドロキシルアミン	各〇・三	酒精	一〇〇・〇
ヒドロクロラール	一〇〇・〇	グリセリン	二五・〇
アルコホル	一〇〇・〇	右調和塗擦料	各四〇・〇
右調和炭酸石灰適宜ヲ加ヘテ中		昇華硫黃	二〇・〇
性トナシ塗布料		山毛櫨油	各二〇・〇
硫黃乳	五・〇	白堊	各二〇・〇
ナフトール	一・〇	綠石鹼	各四〇・〇
カリ石鹼精	二〇・〇	豚脂	各四〇・〇
アルコホル	一〇〇・〇	右調和粗毛筆ヲ用キテ塗擦ス	
グリセリン	二・五	(是即チ改良ウイルクソン氏	
右調和塗布料		軟膏ニシテ六日間朝夕塗擦後綿	
昇汞	一・〇	花或ハ毛布ヲ以テ患部ヲ被フベ	
再留酒精	二〇〇・〇	シ)	
右調和塗擦料(注意スベシ)			

腦動脈血塞及血栓

Thrombose und Embolie der Hirnarterien. トロンボーゼ エンボリーゼ

原因 微毒、腎臓炎、アルコホル中毒、鉛中毒ハ腦動脈ノ血塞ヲ生ス多クハ高齢ナリ血栓ハ大動脈瓣或ハ僧帽瓣ノ瓣膜ニ生シタル血塞或ハ大動脈硬化部或ハ大動脈瘤内ノ血塞ノ小片其部ヲ離レテ腦動脈内ニ流入シテ篠入スルニ由リテ生ス

診候 腦溢血ノ症候ニ類シ血塞ニ於テハ徐々ニ發シ血栓ニ於テハ俄カニ發ス腦溢血ノ條ヲ考照スベシ

豫後 不良

療法 微毒ニ因スルモノハ有力ナル驅微法ヲ行フベシ其他腦溢血ノ療法ニ同シ

肺氣腫 Emphysema pulmonum.

エンフイゼーイ プルモニータ

原因 慢性氣管枝加答兒、喘息、麻疹、百日咳、經久咳嗽、肺ノ使用、度ニ係ル氣胞ノ病的膨脹ニシテ四十年以上ノ人ニ多シ

診候 呼吸困難(殊ニ呼氣)、心濁音部ノ清音、肺下界延長、肺前、

腦動脈血塞及血栓 肺氣腫

音ノ減少若シクハ消滅、慢性氣管枝加答兒ノ症候及ヒ胸部ノ西ノ擴張

療法 合併症ナキトキハ豫後良但シ全治スルコト難シ

氣管枝加答兒療法ヲ主トシテ有害ノ物體ハ盡ク之ヲ避ケ飲食ノ攝生ヲ專ニスベシ○喘息發作中ハ胸部ノ摩擦法或ハ氣管誘導法ヲ行フ○空氣療法器ヲ用キテ濃厚ナル空氣ノ吸入及ビ空氣中ニ其排出ヲ爲サシムルノ法アリ○夏季ニハ杉松等ノ樹林中ニ住居セシメテ可ナリ

吐根末 (〇・五)一八〇〇

杏仁水 八〇〇

單舎 右一日六回二分服 二〇〇

チオニン 〇・三

杏仁水 一五〇

右一日三回十五滴宛

ケアラツチヨ丁 三〇〇

右毎日二乃至三回一茶匙 〇・一

吐根末 〇・三

白糖 五〇〇

右十五包ニ分チ一日三回每一包

金硫黃 各〇・二

重曹 三〇〇

右十二包ニ分チ一日三回每一包

鹽酸アボモルヒネ 〇・五

甘草末及越 適宜

右丸五十粒ニ作り一乃至三粒

氣管枝加答兒ノ劇甚ナラザルトキハ

硝砂 二二〇 適宜

甘草越及末

右五十丸ニ作り朝夕每五丸

硝酸ストリキニーチ 〇〇〇一

單舎 一〇〇〇

右調和一日二乃至四回每一食匙

法水 〇・五

餾水 二五〇〇

右調和吸入料

沃割 二二〇

苦丁 三〇〇

餾水 二〇〇〇

右調和一日三回二分

便秘ヲ兼メル症ニハ「センナ」、苦水、大

黄ヲ與フ

心臟ノ侵サレタル時ハ「チギタリス、

カフエイン及、ストロファンツス」等ヲ

用ヒ老衰性ノモノニハ酒類ヲ與ヘ時ト

シテ鐵劑ヲ與フ乾性氣管枝加答兒ニハ

蒸氣吸入、濕性ニシテ多量ノ分泌物ア

ルモノニハ「テレピンチン」油ヲ吸入

セシム咳嗽ニ對シテハ麻酔藥ヲ與フ

下肢ニ水腫ヲ來タセルトキハ左ノ「ピ

ロカルピン」皮下注射等實用スル所ナ

リ然レトモ心臟衰弱ノ兆アルトキハ最

モ使用ニ注意スベシ

ピロカルピン 〇・二

餾水 一〇〇

右調和其半筒皮下注射

ヤボランヤ葉浸 (五・〇)一〇〇〇

右一回ニ服用

水腫ヲ排斥スル細少套管針ノ用法ニ就

テハ腹水ノ條下ヲ見ヨ○衰弱シタルモ

ノニハ左ノ緩性鐵劑ヲ與ヘテ効アリ

水素還元鐵

肺氣腫

硫規 各二・〇
瀟公英越 適宜
右四十粒ニ作り晝夕食後毎一二

又橫隔膜神經ニ感傳電氣ヲ通ズルコト
アリ其他尙呼吸困難ノ條下參酌

急性心臟內膜炎

Endocarditis acuta.
エンドカルヂチス、アキタータ

原因 潰瘍性心内膜炎及疣贅性心内膜炎ノ二種ハ急性關節癱瘓質斯、外傷性傳染(產褥熱、化膿セル創傷等)急性傳染病(急性關節癱瘓質斯、猩紅熱稀ニハ淋疾等)ヨリ發ス牽縮性心内膜炎ハ又々慢性内膜炎ト稱ス疣贅性ノモノニ續發シ或ハ飲酒過度、微毒、慢性腎臟病、痛風、糖尿病ニ併發ス

診候 潰瘍性心内膜炎ハ或ハ窒扶斯狀ニシテ稽留性熱、無慾狀態、舌乾燥被苔、腫脹齶微疹ヲ發シ或ハ間歇熱ノ發作ノ如キ狀ヲナシ又々諸臟器ニ轉移性膿瘍ヲ發ス其他皮膚、粘膜ニ栓塞ヲ來タシ溢血ヲ呈ス瓣膜ノ障害アレバ雜音ヲ聽取ス○疣贅性ノモノハ其初メ其發生ヲ知ラザルコト尠カラズ體温ハ間々上昇シ心悸亢進、心尖ニ於ケル收縮期吹聲音ニ心濁部ノ擴張、第二肺動脈音ノ強盛、諸臟器ノ栓塞等

隱微 疑、潰瘍性ハ不良、疣贅性ハ良ナルコトアリ

療法 對症的ノ者ニ外ナラズ即チ解熱藥ノ内服、心部ノ氷罨法又脈搏頻數ナル者ニ「チキタリス」、硝酸「カリウム」、心臟麻痺ノ虞アル片ニ興奮劑、肺水腫ノ虞アルトキハ刺絡ヲ施ス等此類ナリ且ツ可及的原病療法ニ注意シテ即チ心内膜炎ノ纖維性滲出物ヲ溶解スルガ爲メ百倍或ハ五十倍ノ重碳酸「ナトリウム」水吸入法等ヲ行フガ如キコトヲ怠ル可ラズ其他バンベルゲル氏ハ血液ノ「アルカリ」性ナルト纖維素ニ有効ナルトヲ以テ近來頗リニ左方ヲ實用ス

- サリチール酸ナトリウム 一・〇
- 右爲一包「オブラート」ニ包ミ一日三回一包宛
- 炭酸ナトリウム 一・五
- 鹽水 一〇〇・〇
- 右吸入料一日三四回毎回十五分
- 時間
- カムフル 〇・二
- 白糖 〇・五
- 右爲一包與六包一日三回一包宛
- カムフル 二・〇
- ナレーフ油 二〇・〇
- 右皮下注射料一筒宛
- ザギ浸 (〇・五—一・〇) 一〇〇・〇
- ストロファンツス丁 一〇・〇
- 單舎 一〇・〇
- 右一日三乃至六回分服
- ザギ浸 (一・〇) 一五〇・〇
- 醋劑 二・〇
- 單舎 一五・〇

急性心臟內膜炎

右毎二時一食匙
 ナギ末 一〇〇
 白糖 二〇〇
 右散分六包毎日三包
 ストロファンツス丁 二〇〇〇
 右毎日三回十乃至二十滴
 卵黄 二個
 フラントー酒 三〇〇〇
 單舎 二〇〇〇
 鹽水 一二〇〇〇

右一日六回二分服
 キナ煎 (一〇〇〇) 一八〇〇
 フラントー酒 四〇〇〇
 單舎 二〇〇〇
 右一日六回二分服
 潰瘍性心臓内膜炎ニハ左方
 鹽規 五〇〇
 昇永 〇〇二
 獨葵根末 適宜
 右爲二十九一日三回食後一粒宛

子宮内膜炎

Endometritis.

エンドメトリチス

原因 淋毒、妊娠、分娩、産褥、子宮疾患殊ニ轉位、變形及新生物殊ニ筋腫ニ來ル又ベッサリニム消息子ノ不潔ナルモノ其他奎扶斯、痘瘡、虎列拉、燐中毒、慢性心臟疾患、手淫、感冒、月經時ノ不攝生等ナリ
診候 急性性症ハ惡寒、發熱ヲ以テ初マリ骨盤内壓重ノ感アリ稀薄漿液性、後ニハ膿性ノ液ヲ漏泄ス、消息子ヲ挿入スレバ劇甚ノ疼痛ヲ發ス、慢

性症ノ主徴ハ月經時血量增加月經時外出血及分泌ノ變化(硝子樣粘液或ハ膿汁ヲ有スル硝子樣粘液或ハ膿汁)下腹部ノ疼痛ナリ消息子ヲ通スルニ疼痛ヲ發スルヲアリ其他頭痛、食意缺損、消化不良、神經性胃痛ヲ兼ヌルコトアリ精神鬱憂ヒステリイヲ併發スルコトアリ

豫後 合併症ナキ時ハ良

療法 急性非産褥性ノ者ニハ交接ヲ禁ジ、安臥、緩下劑、温坐浴、腹部ノブリスニッツ氏巻法、微温消毒液ヲ以テ腔灌注法ヲ行ヒ腔坐藥ヲ與フ

鹽莫(莨菪越) 〇〇一
 カ、オ脂 三〇〇〇
 右腔球十個ニ作り二十四時内ニ二乃至四個ヲ用ユ
 莨菪越幾斯 一〇〇
 阿片越幾斯 二〇〇
 灰白軟膏 一〇〇〇
 ロゼリン 二〇〇〇
 右爲軟膏下腹部ニ塗擦スベシ

慢性内膜炎ニ在テハ石炭酸水リゾール水昇永水(五千倍)等ヲ以テ子宮ヲ洗滌シ「タンニン」酸、硼酸、石炭酸、昇永、沃丁、過クロール鐵液ヲ子宮消息子及ビ腔「タンボン」ニ由テ塗布ス
 頑固ナル症ニ在テハ子宮内膜ヲ搔爬シヨードフォルム綿紗或ハ十%ノエーテル、アリストール綿紗ヲ以テ子宮腔ヲ閉塞ス但子宮周圍ノ膿腔、子宮外膜

子宮内膜炎

或ハ子宮周圍炎性滲出物等有ルモノニ
ハ搔爬術ヲ禁ズ又八日ヲ經テ六乃至十
二回反覆スルトコロノ「クロール亞鉛
(ウヤンケル氏ハ五%ラインステツテル
氏ハ五十%ノ液ヲ用ユ)腐蝕法モ亦甚
ク有力ナリ子宮頸内膜炎ニ於テハ其糜
爛面ニ「イヒチオール」ヲ塗布ス又初
メ搔爬ヲ行ヒ後「イヒチオール」ヲ塗布
ス

鹽酸ヒドラスチニン 一〇〇
右半筒乃至一筒皮下注射(内膜
炎性子宮出血)

鹽酸ヒドラスチニン 〇・五
甘草末甘草煎 適宜

適宜

遺尿症

Enuresis nocturna.

エヌレシス、ノクツルナ

原因 全身虛弱、包莖、咽頭腔ノ疾病、消化器病、腸蟲

右十丸ニ作り毎日一乃至二粒
(出血アルノ際二粒宛出血ヲ豫
期スル場合ニハ一粒宛)

クロール亞鉛 各一〇〇
右調和(ブーレフェール氏消息
子塗布用)

モシクス氏蒸氣腐蝕法ハ同氏ノ腐蝕器
ヲ用ユ槽内ノ溫度ハ列氏百〇五度以上
百十五度ヲ以テ充分ナリトス其ノ腐蝕
時間ハ十秒乃至三十秒ニテ足ル此ノ時
間ヲ經過セバ器ノ活栓ヲ廻轉シテ槽内
ノ蒸氣ヲ子宮内ニ進入スルヲ遮斷ス以
テ該器ヲ除去シ冷水ヲ以テ腔部ヲ洗滌
ス術後患婦ヲシテ兩三日間靜臥セシム

診候 夜間睡眠中褥内放尿

豫後 良

療法 原因ヲ探査シテ之レヲ除クベシ其他患兒ニ夕刻飲料ヲ制限シ就眠
前必ス放尿セシメ菴蓍劑等ヲ内服セシメ寢臺ノ足ニ當ル部分ヲ少シク
高クシテ骨盤ノ高位ヲ生セシメ仰臥ヲ禁シ可及的夜間一回起床放尿ヲ
ナサシムベシ其他一般強壯療法ヲ行ヒ冷水摩擦、冷水浣注、海水浴ヲ
行ハシメ又電氣療法(二個ノ中導子即チ二十平方仙迷ノモノ或ハ大導
子即チ幅五乃至六仙迷長サ十乃至十二仙迷ノモノヲ取り積極導子ヲ腰
若クハ會陰ニ貼シ消極導子ヲ恥骨縫際ノ上方下腹部ニ壓入スベシ而シ
テ中等度ノ電流ヲ通スルコト二三分間ヲ要ス感傳電氣ヲ用ユルトキモ
導子ノ貼用平流電氣ニ同シ)按摩法(示指ヲ直腸内ニ挿入シ膀胱頸部ヲ
壓迫スベシ)ヲ用ユ

菴蓍越 〇〇〇四

白糖 〇・三

右爲一包毎夜就褥前一包(四歲
ノ小兒)年齢ニ從ヒ増量ス

臭曹

プロトムアムモニウム 各二・五

餽水 一〇〇〇

右毎夕一食匙牛乳ニテ用ユ

臭剗 三・〇

苦丁 一・五

遺尿症

單舎 一〇〇〇
 縮水 一〇〇〇
 右一日六回二日分服

臭剝 四〇〇
 單舎 二〇〇
 縮水 五〇〇
 右毎日三回一小兒匙宛(六歳ノ小兒)

臭剝 三〇〇
 苦丁 一〇〇
 單舎 一〇〇
 縮水 一〇〇
 右一日六回二日分服

忽布腺 〇・五
 白糖 五〇〇

右研和散十包ニ分チ朝夕每一包
 エルゴチン 一〇〇
 單舎 二〇〇
 縮水 八〇〇
 右每三時一小兒匙

忽布腺 各六〇
 含糖炭酸鐵

白糖 各六〇
 右毎日三回一刀尖宛

硝酸ストリキニーチ 〇〇二
 縮水 一〇〇
 右脇骨部ニ四分一筒乃至壹筒注
 射但シ小兒ニハ二滴ヨリ始ムベシ

原因 遺傳

夏日斑

Ephelides.

エフエリデーヌ

診候 ス 顔面及ヒ手背ニ發スル褐色ノ小斑ナリ夏日著明ナルモ冬日ハ脱色ス

豫後 良

療法 顔面ニ瀾蓋セル夏日斑ニ在テハ患部ニ昇汞〇・五縮水五〇〇ヲ布片ニ浸セル者ヲ以テ四時間濕潤セシムベシ之ニ併發スル炎症ハ冷器法ニヨリ緩解ス又水疱ハ側壁ヲ穿刺シテ内容ヲ漏ラシ局部ニ米澱粉ヲ撒布スベシ此強劇ナル療法ニ代フルニ一%昇汞石鹼ヲ以テ皮膚ヲ日々數回洗滌シ而シテ毎夕左方ヲ患部ニ塗擦スベシ

サリチール酸 二〇〇
 綠石鹼 三〇〇
 ソゼリン 二〇〇
 右調和軟膏ニ作ル
 持續性使用ニハ左ノ方ヲ可トス

昇汞 〇・五
 扁桃乳劑 三〇〇
 安息香丁 一・五
 右混和顔面ニ毎夕塗擦スベシ

硼砂 一五〇
 ケルン香水 二〇〇
 縮水 一三〇
 右同上

硼砂 一五〇
 炭酸カリ 五〇
 薔薇水 各八〇
 ケルン香水 各八〇
 右調和毎夕塗擦シ翌朝拭去ス

酸化亜鉛	各三・〇	ケルン香水	各七五・〇
次硝基	各三・〇	滑石	各三・〇
白降汞	三五・〇	酸化亜鉛	右調和外用
ワセリン	右調和軟膏ニ作り毎夕塗擦	沈降硫黃	一五・〇
白降汞	各五・〇	精製龍腦	一・〇
硼砂	五〇・〇	アラビアゴム末	五・〇
緩和軟膏	各五滴	石灰水	右調和外用
薔薇油	一五・〇	薔薇水	各一〇〇・〇
橙花水	右調和軟膏ニ作ル	ナフトール	二・〇
硼砂	一五・〇	グリセリン	一・〇
炭酸カリ	五・〇	カリ石鹼精	五〇・〇
橙花水	右調和外用		

副睾丸炎 Epididymitis. エピディディミチス

原因 専ラ淋毒稀ニ結核、外傷、膿毒症、痘瘡、黴毒
診候 淋性ニ在テハ腫起疼痛急劇ナレドモ結核性ニハ大抵疼痛ナク慢性

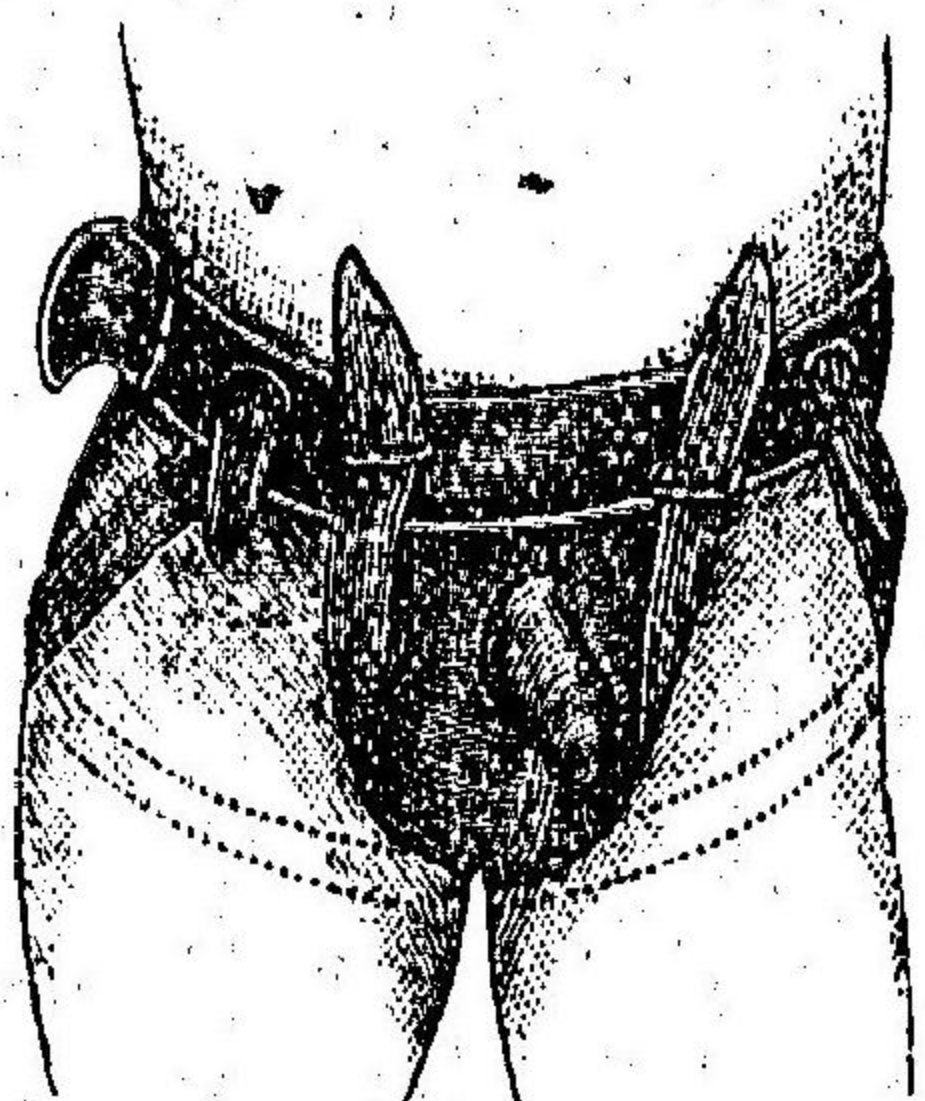
ニシテ頑固ノ膿瘍ニ陥ルコト少ナカラズ其他發熱輸精管炎精系部及ビ鼠蹊線ノ腫起劇痛ヲ合併スルコトアリ

豫後 淋毒性ハ良、結核性ハ不定、剔出ニヨリ治シ或ハ不良ナリ

療法 淋毒性副睾丸炎ニ於テハ直ニ靜臥ヲ命シナイセル氏提辜帶等適宜ノ方法ニ由テ辜丸ヲ高舉温巻法或ハ琶布ヲ用ユ温熱ヲ不快ニ感ズルトキハ冷巻法トス下劑及ビ酸性飲料ヲ投ジ且ツ飲食ノ攝生ヲ嚴ニシ劇痛ニハ鎮痛軟膏ノ塗布或ハ「モルヒネ」ノ内服若クハ皮下注射ヲ試ミ或ハ淋疾ニ對スル尿道注射ヲ停止シ而シテ第二日或ハ第三日ヲ經ルノ後ヨード劑ヲ外用ニ供シテ効アリ、結核性ノモノハ速ニ剔出ス可シ〇外傷性ニハ安靜提辜帶巻法〇黴毒性ニハ驅黴法(汞劑及ヨード劑)又ハサルバルサンノ注射ヲ施ス

撒曹	一・〇	右巻法料	
ザロール	右爲一包與六包一日三回一包宛	次醋酸鉛液	五・〇
アロー氏液	〇・五乃至一・〇	細水	二〇〇・〇
	右爲一包與六包一日二回一包宛	右調和巻法料	
	三〇〇・〇	鹽酸ヘロイン	一〇〇・〇

乳糖 〇・五
 右爲一包與六包一日三回二分
 鹽莫 〇・〇一
 乳糖 〇・五
 右爲一包與三包一日乃至三包
 鹽莫 〇・〇二
 カ、オ脂 二・〇
 ガレーフ油 適宜



第二十五圖
 ナイセル氏提翠帶

右坐藥一個トナシ二個ヲ與フ毎
 タ一個
 副腎丸及ビ精系ノ部ニ發スル放腺狀ノ
 劇痛ニハ、實若越確實ノ効アリ
 實若越 二・〇
 ワゼリン 二・〇
 右調和軟膏ニ作り陰囊塗擦
 實若越 五・〇
 ヘブラ氏軟膏 三・〇
 右調和軟膏ニ作り陰囊塗擦
 グアヤコール 二・〇
 ワゼリン 二・〇
 右外用
 イヒチオール 二・〇
 グリセリン 二・〇
 右混和外用
 ヨードフォルム 一・〇
 ワゼリン 三・〇

右調和軟膏ニ作り陰囊塗擦
 ヨードフォルム 一・〇
 純ヨード 〇・一
 ラノリン 二五・〇
 右調和軟膏ニ作ル
 沃度丁幾 各一〇・〇
 五倍子丁幾
 右塗布料
 實若越

阿片越 各一・〇
 單軟膏 二〇・〇
 右外用
 ヨードワゾーゲン 二〇・〇
 右外用
 沃剝 二・〇
 苦丁 三・〇
 溜水 二〇〇・〇
 右一日三回二分服

癲癇 Epilepsie. epilepsie

原因 腦脊髓ノ疾患、神經癱着部癩痕ノ刺衝機旺盛、遺傳、心身過勞、
 勞働、恐怖、手淫、房事過度、腸蟲、便秘、腺病、暴飲、微毒、鉛中
 毒等ナリ
 診候 發作間歇性ノ全身痙攣、卒倒、人事不省、口内泡沫、顔面暗赤、
 瞳孔散大等發作後熱睡ス、痙攣ノ持續ハ長キモ五分ヲ越ユルコト稀ナ
 リ、患者屢バ顔貌遲鈍ヲ呈シ精神機能減退ス

豫後 發作中死スルコト稀ナリト雖凡全治スルコト甚ダ稀ナルガ故ニ不
良

療法 凡テ其發作ノ誘因トナル可キ事項ヲ避クルコト必要ナルガ故ニ精
神及ビ身體ノ過勞ヲ慎ミ常ニ全身症狀ニ注意ス可シ○發作時ニハ全身
ニ損傷セザル様注意ヲ加ヘ被服ヲ除キ舌ノ嚙傷ヲ防護スルガ爲メニハ
齒列間ニ布片ヲ以テ纏絡セル長キ物體ヲ挿入シ發作時及ビ發作後ニハ
凡テ患者ヲ煩ハス可キ事物ヲ避ケザル可カラス若シ其原因黴毒或ハ鉛
中毒ニ在ルヲ認ムルニ於テハ其療法ヲ施ス可シ

プロームカリウム

一〇〇〇

右分十包毎日二乃至八包

橙皮舎

二〇〇〇
一八〇〇

臭剝無効ナルトキハ左方

硫酸アトロピン

〇〇〇〇五

右一日三回毎食後二日分服

プロームナトリウム

各一〇〇〇

右爲一包與六包一日三回一包宛

プロームアムモニウム

各一〇〇〇

硫酸アトロピン

〇〇〇五

餾水

三〇〇〇

右甘草越及ビ同末適宜ヲ以テ丸
五十粒ニ作り毎日一粒

右毎日三乃至六食匙一盞ノ纈草
茶劑ニテ用ユ

一〇〇〇

亞鉛華 〇・四
白糖 二・〇
右研和散四包ニ分チ朝夕每一包

右一日三回二日分服

硝酸銀

〇・五

泥莖根末及同越

各適宜

纈草越

各五〇〇

右五十粒ニ作り毎日四乃至十粒
發作頻數ナルニ於テハ抱水クロラール

纈草根末

適宜

二・〇乃至三・〇ヲ内服或ハ瀉腸料トナ
シテ用ユベシ

酸化亞鉛

各〇〇六

癩癩ノ前兆ヲ現ハセルニ臨テハ直ニ食
鹽一茶匙ヲ投シ以テ其發作ヲ防過スル

ヒヨス越

二・〇

コト有リ又亞硝酸アミール(五滴乃至
八滴)ヲ吸入セシメテ其發作ヲ防過ス

纈草根末

一適

ルコトヲ得ル者多シ(顔面蒼白トナル
モノ)

纈草油

右爲一包與六包毎日三回一包宛

硼砂

四・〇

橙皮舎

二〇〇〇

餾水

二〇〇〇

衄血

Epistaxis

エピスタキシス

原因 常習、鼻梁打撲、鼻加答兒、頭部鬱血、或ハ結核初期、經閉、白
血病、血友病、紫斑病、壞血病、左心肥大、窒扶斯、麻疹、痘瘡、猩

衄血

紅熱及傳染病ノ初期

療法 出血スル鼻腔ハ氷水或ハ醋水ヲ注入スルヲ宜トス(温湯ノ注入ハ
輒今大ニ賞用スル所ナリ)然レドモ出血劇甚ニシテ普通ノ方法ヲ以テ
能ク之ヲ防止スルコト難キニ於テハペロツク氏管ヲ用キテ鼻腔ノ栓塞
止血法ヲ施ス

- 粗製明礬末 二〇・〇
- 細水 五〇・〇
- 右調和吸入料(屢々尋常ノ衄血
ニ罹ル者ニ用キテ効アリ)
- 硫酸亞鉛 一〇・〇
- 粗製明礬 二〇・〇
- 細水 五〇・〇
- 右調和吸入料
- 過クロール鐵液 一〇・〇
- 細水 一〇〇・〇
- 右調和鼻腔内注入料
- フェリピリン 一八・〇乃至二〇・〇
- 細水 一〇〇・〇
- 右綿花球ニ浸シ鼻粘膜ニ塗布ス
- 明礬末
- コロホニーム末
- アラビアゴム末 各一〇・〇
- 右鼻内ニ吹キ入ルベシ
- 明礬
- 阿仙藥 各五・〇
- 右同上
- 五倍子丁
- 阿仙藥丁 各五・〇
- 右鼻粘膜塗布料

齒齦魚肉

Epulis.

エプリス

一名齦贅

原因 齧齒等ノ刺戟ヲ專ラナリトス

診候 齒齦ヨリ生ズルモノニシテ其部ノ齒牙脱落ヲ來ス多クハ有莖ニシ
テ菌狀ナリ

療法 鋏或ハ刀ヲ用キテ其息肉ヲ切除シ或ハ硝酸銀ノ腐蝕法ヲ行ヒ或ハ
「ヨード」丁幾ヲ塗布シ含嗽水ヲ用ユ〇出血或ハ潰瘍ニハ濃厚ナル腐蝕
藥ヲ塗布ス

- ヨード丁 一〇・〇
- 酒精 各一〇・〇
- 右調和塗布料
- 石炭酸 〇・一
- 酒精 二〇・〇
- 右調和塗布料
- 結晶硝酸銀 一・〇
- 細水 一〇・〇
- 右調和塗布料
- 過クロール鐵液 五・〇
- 右調和塗布料
- 沃丁 各五・〇
- 五倍子丁
- 右塗布料

丹毒

Erysipelas.

エリスイラス

齒齦息肉 丹毒

原因 膿腫連鎖球菌ノ損傷部ヨリ侵入スルニ因ル

診候 卒然寒戦ヲ發シ體温暴騰シ而テ四十度内外ニ達シ頭痛、倦怠、食慾不振、悪心、嘔吐等ヲ發シ重症ニハ謔語而シテ皮膚創傷部ノ近圍ニ紅斑灼熱疼痛、腫脹往々水疱ヲ形成スルコトアリ該斑ハ益々蔓延ス其早キハ一日二十仙迷ノ外ニ蔓延ス經過六日乃至十日重症ハ合併症ニ由テ死ス

豫後 概ネ良ナルモ諸種ノ危険症ヲ續發スル虞アルヲ以テ注意ス可シ

療法 其状態ニ注意シ靜臥ヲ命ズ其中度ニ於テハ冷卷法又高度ニハ氷卷法ヲ行フ温卷法ハ病勢減退後始メテ之ヲ行フ其他酸性飲料ヲ投シ必要ナル場合ニハ又下劑ヲ用ユ或ハ油劑若クハ脂肪ノ塗布ヲ行フ虚脱ニハ濃厚咖啡煎、葡萄酒、樟腦、麝香等ヲ與フ或ハ五十倍乃至三十倍ノ石炭酸溶液ヲ各六「センチメートル」ノ距離ニ限界スル健康皮膚部ニ皮下注射スルコト有リ又ウエルフレル氏ハ病毒ノ蔓延ヲ防カンカ爲メ患部近圍ノ健康ナル皮膚ニ一拵幅許ノ絆創膏ヲ輪形ニ貼シテ其効アリト云フクラスケ氏ハ局部ノ亂刺及ヒ五%石炭酸ノ壓定巾ヲ使用セリ又其ノ他近年血清療法及ビ「デシンヘクトール」ヲ稱揚スルモノアリ

- イヒチカール 各一〇〇〇
- ワセリン 右塗擦料一日二乃至四回
- イヒチカール 各五〇〇
- エーテル 一〇〇〇
- コロザウム 右塗布料
- イオチカール 各八〇〇〇
- 澱粉 二〇〇
- 蛋白 四〇〇〇
- 餛水 右塗布料(ウンナ氏劑)
- レソルチン 一〇〇〇
- 豚脂 三〇〇〇
- 右爲軟膏一日四回塗擦料
- レソルチン 五〇〇
- 酒精 一〇〇〇
- グリセリン

- 餛水 各二五〇〇
- 石炭酸 右一日五回塗布料(頭髮部丹毒) 一〇〇二
- 餛水 右調和皮下注射料 一〇〇〇
- 麥角越 二〇〇
- グリセリン 八〇〇
- 右調和皮下注射料(二乃至四箇) 五〇〇〇
- チゲノール(純) 右塗布料
- ガケール 各一〇〇〇
- エーテル精 二〇〇〇
- コロザウム 右塗布料
- 次醋酸鉛液 一〇〇〇
- 餛水 二〇〇〇
- 右用法料
- 石炭酸 一〇〇

丹毒

酒精	一〇〇	白糖	二〇〇
テレピン油	二〇〇	右研和散五包ニ分子毎日三包	
グリセリン	五〇〇	樟腦	〇・二
右調和塗布料(毎二時一回)		白糖	二〇〇
遊走性丹毒或ハ體力衰弱ノ者ニハ左方		右研和散五包ニ分子毎三時一包	
硫規	一〇〇		

紅斑 Erythema. エリテマ

原因 放射熱或ハ尿汗等分解物ノ刺戟、中毒、創傷、火傷、凍傷、小兒熱、腸蟲、齒牙發生、痘瘡、又タ流行性ニ發スルコトアリ

診候 皮膚表面ノ充血斑ニノ多クハ腹部、内股、手足ノ背面部等ニ發ス指壓ニ依テ退消スル灼熱ノ感アリ間々發熱スルコトアリ

療法 單純或ハ複合ノ撒布藥ノミヲ用ユルヲ常トス冷卷法及ヒ塗布ハ唯往々之ヲ用ユルコトアルノミ而シテ當時若シ熱候アル者ニ逢ヘバ「キニーネ」ヲ處スベシ

アロー氏液 三〇〇・〇 鉛醋 五〇〇
 右用法料 二〇〇・〇 韶水

三〇〇

右電法料(上皮缺損ノ者ニ用ユ)	右細研撒布料
石炭酸 〇・五	酸化亞鉛 五〇〇
再韶酒精 一〇〇・〇	澱粉 三〇〇・〇
右調和塗布料 三〇〇・〇	右調和撒布料
明礬末 三〇〇・〇	其他濕疹症ノ條下ニ掲グル者ヲ宜トス

顔面神經麻痺 Facialislahmung. フェチアリス レームング

原因 感冒、痲質斯、外傷、耳下腺、耳、顳顬骨、腦及延髓ノ疾病、急性傳染病(實扶的里、腸壑扶斯、痘瘡等)慢性傳染病(微毒、癩病、結核)及鉛中毒

診候 多クハ顔面偏側ノ麻痺ニシテ患側ノ額上ニ皺ヲ認メズ又タ皺ヲ形成スルコト不能、閉眼不全(兔眼)、鼻唇溝消失シ口角下斜、口唇ヲ尖起シテ笛聲ヲ發スルコト能ハザル等其主徵ナリ其他咀嚼談話ニ多少ノ障害ヲ伴フコトアリ味覺ヲ害スルコトアリ反射的運動廢絶ス(末梢性顔面神經麻痺)○中樞性ノモノハ以上又末梢神經麻痺ノ如ク前額枝ヲ侵カスコトナキヲ以テ前額及眼ノ閉鎖ニ變化ナク又タ反射的運動ヲ存ス病原處在部ト其症候ヲ列記セバ

紅斑 顔面神經麻痺

三〇一

- (1) 全顔面筋麻痺……………病原乳嚙孔ノ下方
- (2) (1)ノ症候及唾液減少味覺障害……………鼓索ノ起始ノ上方
- (3) (2)ノ症候及聽覺過敏症……………鐘骨神經ノ起始ノ上方
- (4) (3)ノ症候及口蓋弓麻痺……………小膝狀神經節及淺大岩様部神經ノ起始
- (5) (4)ノ症候アルモ味覺ノ變ナシ……………小膝狀神經ノ上方
- (6) 患側顔面神經麻痺及他側肢節麻痺……………ウァロル氏橋及延髓
- (7) 同時ニ動眼神經ヲ侵ス……………大脳脚足
- (8) 他側ノ顔面ニ於ケル口部顔面神經ノ麻痺症……………内囊或ハ前中

中央回轉

豫後 原因ニヨリ、異ナリ電氣ノ反應常態ニアルトキハ二三週ニシテ治ス(輕症)局部的變性反應ヲ呈スルトキハ四乃至六週(中等症)完全的變性反應ヲ呈スルトキハ半年ノ後治ニ向フ(重症)然レトモ原因ヲ除クコト能ハザルモノハ不治

療法 原因微毒ニ在ル者ニハ驅微療法、殊ニサルバルサン注射、又腫瘍或ハ膿腫等ノ壓迫ニ在ル者ニハ其ノ切除又癩麻質斯性ノ者ニハ發汗劑

ノ内服或ハ皮膚ノ刺戟或ハ乳頭突起部ノ放蛭或ハ按摩等ヲ用キ後ハ電氣療法其効ヲ奏スベシ即チ華良臺氏電氣ヲ用キテ顔面筋ヲ各個ニ刺戟シ瓦爾華尼氏電氣ヲ用キテ其積極導子ヲ病側ノ乳頭突起部其消極導子ヲ健康側ノ同各部ニ通スルヲ宜トス

- 沃剝 二・〇〇 アスピリン 三・〇〇
- 苦丁 三・〇〇 右六包ニ分チ一日三回ニ日分服
- 鹽水 二〇〇・〇 (同上)
- 撒曹 右一日六回ニ日分服(微毒性) 〇・〇五
- 右六包ニ作リ一日三回ニ包宛ニ 一〇・〇〇
- 日分「オブラート」ニ包ミ用ユ 右調和毎日ブラワツツ氏注射器
- (癩麻質斯性) 半乃至一筒皮下注射料
- (陳舊症)

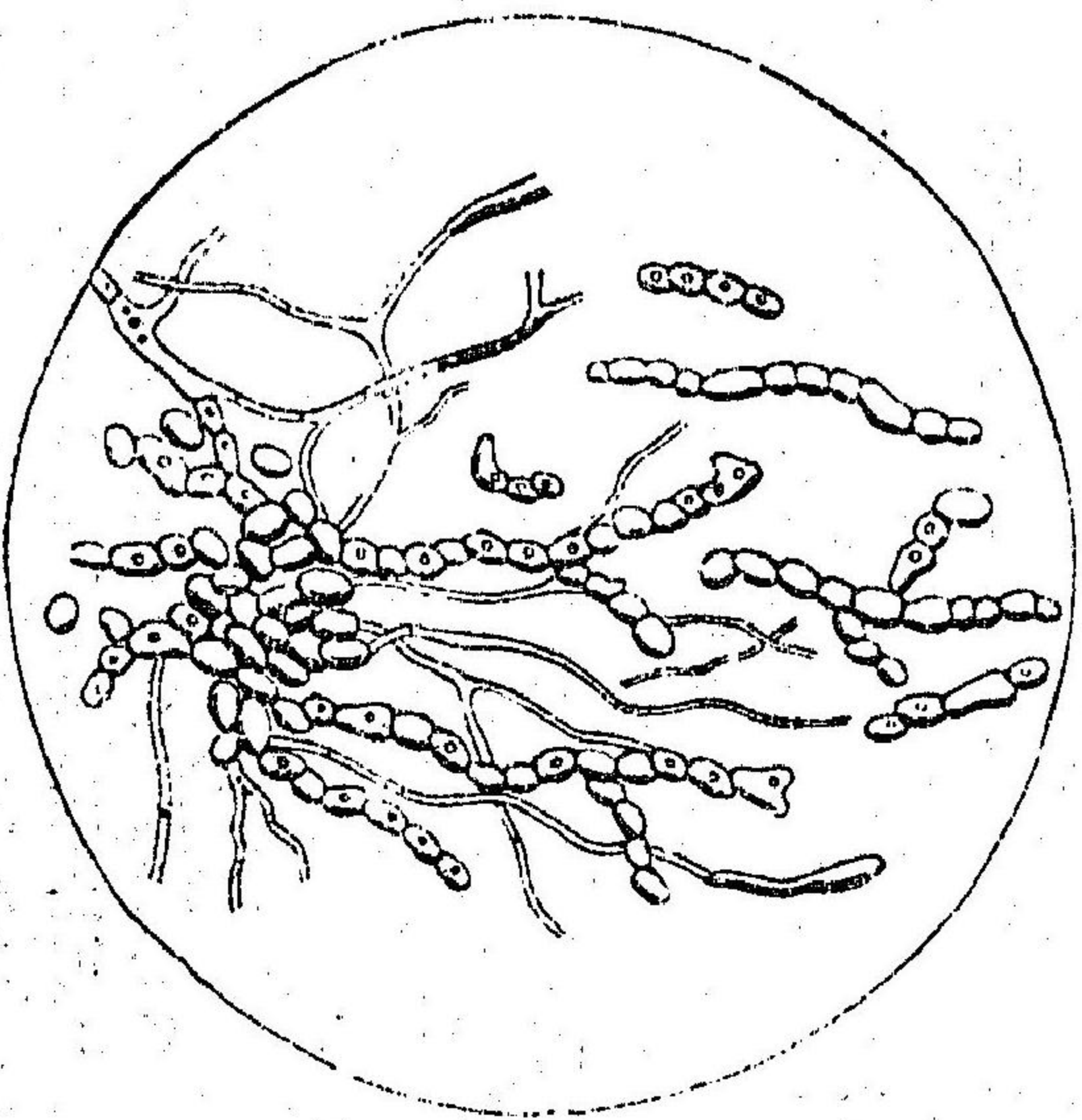
黃癬 Favus. ファーヴス

原因 シエーンライン氏「アヒョリオン」ト稱スル寄生菌ノ傳染ナリ

診候 専ラ頭髮部ニ生ジ毛濼周圍ニ硫黃色ノ小體ヲ形成シ其形圓板ノ如クニシテ中央陷凹ス而シテ毛髮ハ折レ易ク又々拔ケ易クシテ光澤ナシ

久シク持續スルトキハ禿頭ヲ生ズ○黄色ノ小體ニ一〇%カリ鹼汁ヲ加ヘテ鏡檢スレバ「アヒョリオン」ヲ發見ス

第 二 十 六 圖



シエーンライン
氏アヒョリオン
(黄癬ノ原因)四
百倍

豫後 治癒難ク且ツ再發ノ虞アリ

療法 先ヅ毛ヲ短ク切り油(肝油)ヲ黄癬ニ注ギテ反覆濕潤シ後「ピンセ

ツト」ニテ拔毛シ石鹼或ハ石鹼精ヲ用キテ洗滌シ「タール」或ハ「サリチ

ール」酸石炭酸「レゾルチン」溶液或ハ石油合劑ノ塗擦ヲ行フベシ

綠石鹼 五〇〇

右洗滌用 各二〇〇
カリ石鹼精 一〇〇〇
右洗滌用 一〇〇〇

昇汞 〇・一乃至〇・二
酒精 一〇〇〇

右フランネル布片ニテ塗擦ス
サリチール酸 五〇

グリセリン 各五〇〇
酒精 各五〇〇

右調和其中ニ壓抵巾ヲ浸シテ之
ヲ黄癬癩ノ除去シタル部ニ貼用
石炭酸(或ハ「サリチール」酸)二〇〇
グリセリン 各五〇〇

黄癬

酒精 各二〇〇
餾水 一〇〇〇

右調和塗布料 一〇〇〇
ベタナフトール 一〇〇〇

ワセリン 二〇〇〇
右外用 二〇〇〇

カシヌム油 各五〇〇
綠石鹼 一〇〇〇

酒精 各五〇〇
右外用 一〇〇〇

イヒチオール 五〇
サリチール酸 三〇

グリセリン 各五〇〇
酒精 各五〇〇

右外用
又石炭酸二十倍ノ者或ハカザノーム油
ヲ塗擦シテ効アリ

チモール 〇・五

クロロフォルム 五・〇

カレーフ油 一五・〇

右調和塗布料

石油 一〇〇・〇

ペルーパーサム 一〇〇・〇

右調和塗擦料

昇汞 〇・二

ブランダール酒 一〇〇・〇

右調和洗滌料或ハ電法料

毛髮存セザル部ノ黃癬ニハ石鹼ヲ用キ

テ之ヲ洗滌シタル後先ヅ油次デ「ター
ル」軟膏ヲ貼スルヲ宜トス

クリサロビン 五・〇

サリチール酸 二・五

コロゲウム 三〇・〇

右外用

レゾルチン 五・〇

ワセリン 一〇〇・〇

右外用

爪甲ノ黃癬ニハ左方

昇汞 一・〇

彈力コロゲウム 二〇・〇

右塗布料(爪甲ニ)

肛門腫裂 肛門裂傷

Fissura ani. フヒフウラ、アニー

原因 痔疾及ビ婦人ノ骨盤内充血ニ由テ粘膜弛緩トナリ硬便通利誘因ヲ
ナス

診候 肛門括約筋ノ部分ニ於テ粘膜ノ皸裂潰瘍アリ便通ノ際劇痛ヲ發シ
神經憂鬱

療法 先ツ下劑或ハ浣腸劑ヲ與ヘテ便通ヲ整ヘ便意ヲ催フシタルトキハ
靜カニ十%コカイン水ヲ浸シタル綿花ヲ肛門ニ挿入シテ便通時ノ疼痛
ヲ防キ便通後阿片坐藥等ヲ用キ疼痛ノ甚タシキモノニハ臭剝鹽莫比ヲ
内服セシム坐浴及ヒ温罨法モ大ニ効アリ〇以上ノ方ニテ無効ナルトキ
ハ「コカイン」液ヲ塗布シテ麻醉ヲ行ヒ棒硝酸銀ニテ潰瘍面ヲ輕觸シ二
三日ヲ隔テ二三次之レヲ行フヘシ〇右ノ諸方ヲ用キルコト貳週以上ナ
ルモ奏効ナキ片ハ手術的療法ヲ用ユ即チ局處若クハ全身麻醉ヲ施シ肛
門鏡ヲ以テ患部ヲ露出シ刀若クハ烙白金ノ刀狀ナルモノヲ用キテ縱切
開ヲ粘膜ニ行フ其切開ノ兩端ハ健康ノ粘膜ニ達スベシ(淺切開法)而シ
テ「ヨードフォルムガーゼ」ヲ充塞ス三四日後蓖麻子油及灌腸ヲ以テ便
通ヲナサシム大多數ハ此法ニテ治ス此法奏効ナキトキハ深切開法ヲ行
ヒ粘膜及括約筋ヲ切離「ヨードフォルムガーゼ」ヲ充塞シゴム管ヲ挿入
シテ放屁ニ便ス第四日ニ蓖麻子油ヲ與ヘテ便通ヲ整ヘ坐浴ヲ命ス爾後
毎日坐浴ヲ行ヒ「ヨードフォルムガーゼ」ヲ創面ニ貼ス〇淺切開法ニ代

肛門腫裂

フルニ麻醉中ニ兩示指ヲ肛門ニ入レ強度ニ括約筋ヲ延長シテ一週間其不全麻痺ヲ生ゼシメ術後ノ疼痛ニハ「モルチ」ヲ處スルノ方法アリ

人工カル、ス泉鹽

三〇・〇

阿片

〇・〇二

右毎朝空腹時一茶匙ヲ二碗ノ湯ニ溶解シ温キ中ニ内服スベシ

カ、オ脂

二・〇

硫苦

二〇〇・〇

鹽酸コカイン

〇・〇五

鹽水

二〇〇・〇

カ、オ脂

一・〇

右一日六回二日分服

三〇〇・〇

右坐藥トナシ肛門ニ挿入ス

二・〇

オレーフ油

三〇〇・〇

右坐藥トナシ肛門ニ挿入ス

二・〇

右温メテ一回ノ浣腸料トス

一・〇

右爲軟膏外用

二・〇

鹽酸コカイン

三・〇

硝酸銀

二・〇

ワゼリン

三〇・〇

ワゼリン

二〇・〇

右外用

右爲軟膏外用

痔瘻

或ハ直腸瘻

Fistula ani.

フヒスツラ、アニー

原因

肛門周圍ノ創傷、膿瘍、直腸炎、腸潰瘍、特ニ腸結核、直腸周圍

炎等ナリ

診候 肛門周圍ノ皮膚ニ瘻孔ヲ認メ膿ヲ排出ス消息子ヲ送入スルニ或ハ直腸内ニ達シ(全痔瘻)或ハ直腸ニ至ラズ(不全外痔瘻)又直腸ヨリシテ瘻管ヲ發生シ外皮ニ穿通セザルモノアリ(不全内痔瘻)

瘻管ヲ發生シ外皮ニ穿通セザルモノアリ(不全内痔瘻)

瘻管ヲ發生シ外皮ニ穿通セザルモノアリ(不全内痔瘻)

瘻管ヲ發生シ外皮ニ穿通セザルモノアリ(不全内痔瘻)

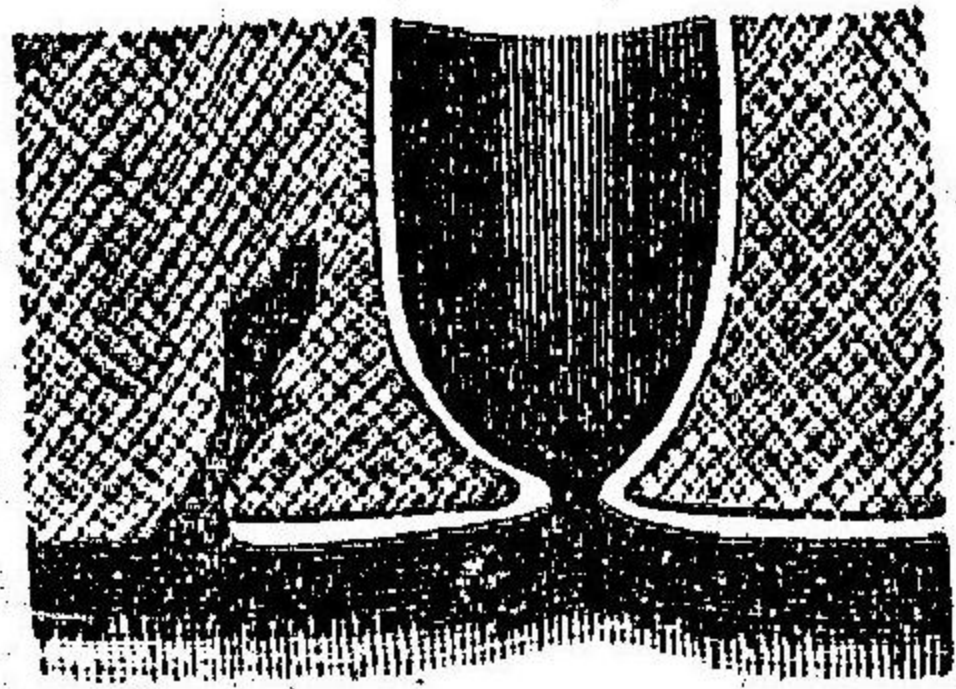
瘻管ヲ發生シ外皮ニ穿通セザルモノアリ(不全内痔瘻)

不全外痔瘻

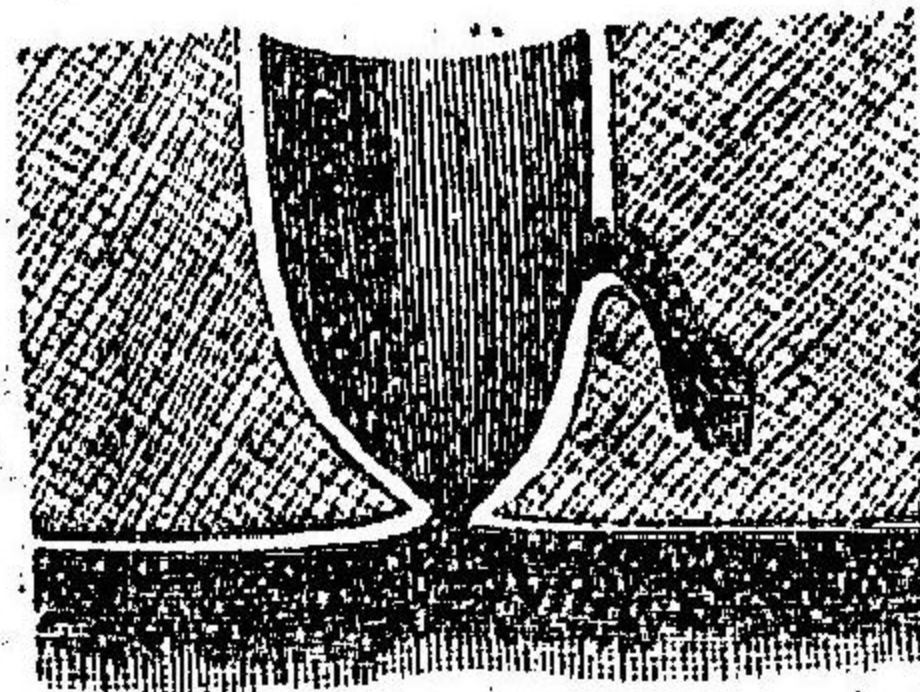
不全内痔瘻

全痔瘻

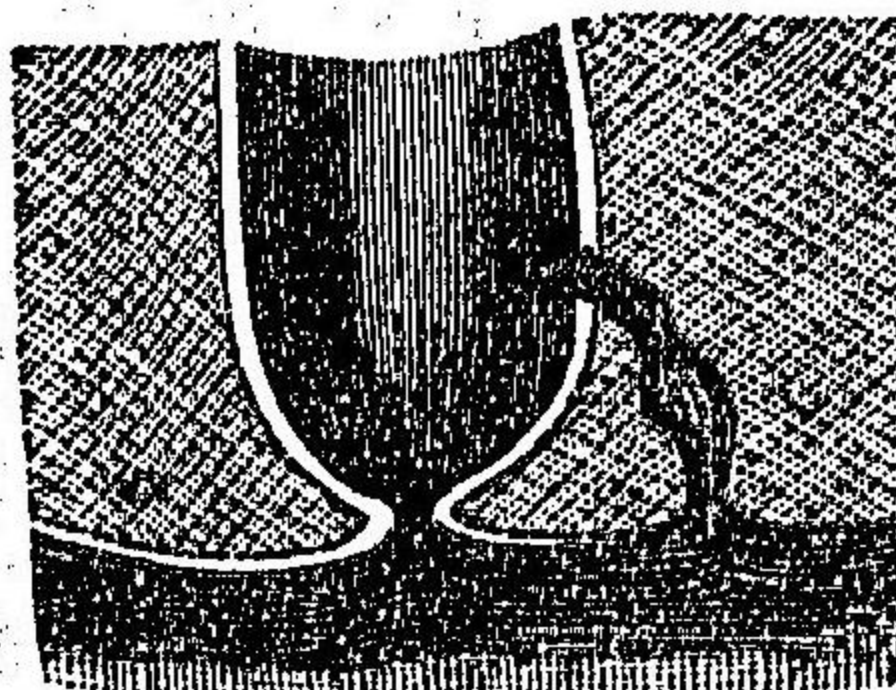
圖七十二第



圖八十二第



圖九十二第



痔瘻

三〇九

ニテ瘻管全部ヲ切開シ銳匙ニテ瘻管ノ面ヲ爬除シ「ヨードフォルムガ
ーゼ」ヲ充填シ而シテ結核性ナルトキハ患部ノ切除若クハ燒灼ヲ施シ
防腐ヲ嚴守ス可シ肉芽發生ヲ促スニハ硝酸銀桿ノ腐蝕法ヲ用ユ
不全痔瘻ナルトキハ消息子ニテ先ヅ組織ヲ破リ全痔瘻ニ變化セシメテ
後全痔瘻ト同様ノ處置ヲナス可シ不全内痔瘻ナルトキハジモン氏鏡ヲ
送入シ其瘻孔ヲ露出セシメンガ爲メ先ヅ括約筋ノ皮下延長術或ハ後方
括約筋切開術ヲ要スルコトアリ

白帶下、腔膿漏、腔加答兒 Fluor albus,

Blenorhoea vagina, Catarrhus vagina.

フルタル、ナルツス、ブレノレ、ア、ウ、ア、ギ、ナ、カ、タル、ス、ウ、ア、ギ、ナ

原因 淋毒傳染不潔ナル異物例之腐敗シタル「タンボン」不良ナル「ベッサ
リエン」又手淫及手淫ノ目的ニテ挿入シタル異物、子宮内膜炎ノ帶下、
膀胱腫瘍ノ淋瀝尿、又悪性腫瘍ノ分解物、又蟻蟲、腺病、萎黃病、過
房、感冒

診候 腔粘膜ノ炎症充血、壓感、疼痛ヲ初メトシ惡寒發熱尿意頻數、交
接、脱糞ノ障害ニシテ次テ白色粘液若クハ膿性ノ分泌物ノ增多ヲ來シ

二三週日ヲ經過スレバ慢性症ニ移行シ多量ノ帶下及之ニ因スル續發症
トス又貧血、食慾不振、便秘等アリ交接時不快ノ感ヲナスヲ以テ之レ
ヲ避ケ從テ受孕ヲ障害セラル

療法 急性ニハ冷卷法或ハ冷水注入法ヲ行ヒ熱候アルトキハ兼テ酸性飲
料ヲ與フ可シ凡テ安息靜止ヲ專ラニスルコト肝要ナリ○慢性症ニハ其
原因或ハ近傍器官疾患蔓延ノ有無ヲ搜索シ且其特發ナルヤ將タ續發ナ
ルヤニ注意シ而シテ局處療法ニハ注入法ヲ主トシテ又成シ得ベキ場合
ニハ腐蝕ヲ行フ可シ
小兒ニハ洗滌或ハ浴湯ニ由テ陰部ヲ清潔ニシ局處收斂藥或ハ「ヨード
フォルム」坐藥或ハ綿花填入法ヲ施シ而シテ全身療法ニハ肝油キニ
子等ヲ處シテ効アリ

鉛水	一〇〇・〇	粗製明礬	一〇〇・〇
右一食匙ヲ半「リーテル」ノ水ニ		餾水	五〇〇・〇
加フ(注入用)		右注入料	
クロールカリウム	五・〇	硫酸亞鉛	各五・〇
餾水	五〇〇・〇	餾水	
右注入料		右注入料	

白帶下 腔膿漏 腔加答兒

石炭酸 五〇〇
 右注入料 五〇〇
 クレオリン 二・五
 右注入料 五〇〇
 リゾール 二〇〇
 右注入料 五〇〇
 フホルマリン 二五〇
 右一食匙ヲ一〇〇〇〇ノ水ニ
 加ヘ注入料トス
 サリチール酸 五〇〇
 右注入料 五〇〇
 クロール石灰 五〇〇
 右注入料 五〇〇

過マンガン酸カリウム 二〇〇
 右注入料 五〇〇
 患婦自己ヲシテ洗滌法ヲ行ハシムルコ
 ト醫士ノ濃厚ナル藥液ヲ用キテ之ヲ注
 入スルニ比ブレバ其効力甚ダ少ナシ故
 ニ可成醫士其勞ヲ取ル可シ其法膾鏡ヲ
 用キテ子宮ノ患部ヲ露ハシ先ツ綿ヲ以
 テ患部ニ附着セル分泌液ヲ拭去シ而後
 ニ三分間濃厚ナル藥液ヲ注入シ次ニ絲
 ニ擊キタル綿花栓塞ヲ送入ス可シ但シ
 該栓塞ハ一二時間ノ後患婦ヲシテ自ラ
 此ヲ除去セシムルナリ
 昇汞 二〇〇
 右注入料(醫師用) 二〇〇
 硫酸銅 一〇〇

右注入料(醫師用) 一〇〇
 病期尙水初發ニシテ特ニ其原因傳染ニ
 在ル者ニハ左方ヲ宜トス
 結晶硝酸銀 一〇〇
 右注入料 一〇〇
 腔部ニ潰瘍ヲ生シタル者ニハ左方
 結晶硝酸銀 一〇〇
 右潰瘍面塗布料 二〇〇
 ヨード丁 各五〇〇
 五倍子丁 各五〇〇
 純ヨード 四〇〇
 右調和用法同上
 タンニン酸 二〇〇
 右調和用法同上
 グリセリン 二〇〇

クローム酸 各五〇
 右腐蝕藥用法同上(但シ硝子桿
 ナ用キテ患部ニ滴ス可シ)
 ヨードフォルム 一〇〇
 グリセリン 一〇〇
 薄荷油 二滴
 右調和用法同上
 腔ノ栓塞ハ綿花ヲ用キテ之ヲ作り而シ
 テ左ノ藥物ヲ含飽セシムベシ
 ヨードカリウム 一〇〇
 ヨード 一〇〇
 グリセリン 三〇〇
 右調和栓塞飽充用
 タンニン酸 一〇〇
 グリセリン 三〇〇
 右調和同上
 イヒチオール 二・五

白帶下 腔膿漏 腔加答兒

グリセリン 五〇・〇
 右同上
 粗製明礬 一・〇乃至三・〇
 カ、オ脂 各適宜
 緩和軟膏 右調和坐藥(即チ腫球)十個ニ作
 リ毎日一二個腔内へ挿入スベシ
 硫酸亞鉛 一・〇
 カ、オ脂 各適宜
 緩和軟膏 右調和坐藥(即チ腫球)十個ニ作
 リ毎日一二個腔内ニ挿入ス
 子宮ノ周圍ニ疼痛ヲ存スルトキハ左方
 鹽莢 〇・一

カ、オ脂 各適宜
 緩和軟膏 右調和腫球十個ニ作り毎日一二
 個腔内ニ挿入ス
 子宮加答兒ニハ出血性或ハ無出血性擴
 張法(ラミナリア)ヲ施シ又綿花栓塞ノ
 清拭法ヲ行ヒ或ハホーツエマン氏「カ
 テーテル」ヲ用キテ制腐液收斂藥ノ注
 入法ヲ試ム可シ其藥液ニハ五十倍ノ石
 炭酸液二百倍「クレチリン」水、十倍ノ
 硫酸銅水其他明礬水、硫酸亞鉛水、過マ
 ンガン酸カリウム水、タンニン酸液、ヨ
 ード丁幾等

瘡瘍 Furunkel. フルンケル

原因 皮膚ノ不潔ニ當リ毛竅孔ヨリ醜膿菌ノ深く侵入スルニ因ル顔、頸、
 項、四肢、臀部等ニ多シ

診候 皮膚焮赤、起腫、疼痛シテ圓錐形ニ隆起ス其頂ニ膿栓頭ヲ見ルベシ
豫後 良但シ顔面瘡瘍ハ危險ナルコトアリ速カニ切開ヲ勉ムベシ

療法 初期ノ者ニハ三〇%石炭酸水ノ巻法或ハ石炭酸水銀硬膏、「ムル」ヲ
 貼シ適應ノ時期ニ當リテハ之ヲ切開ノ膿栓ヲ排出シ或ハ温器布ヲ貼シ
 テ破潰セシム可シ〇屢々再發スルトキハ飲食ノ攝生ニ注意シ住居ヲ清
 潔ニシ氣流ヲ善良ナラシメ又必要アル際ニハ下劑ヲ投ス可シ〇但シ其
 顔面ニアルモノハ速カニ切開ヲ要ス劇痛ニハ左方ヲ處ス〇外聽道ノ
 「フルンケル」ニハ綿花ニ石炭酸「グリセリン」或ハブロー氏液ヲ浸シタ
 ルモノヲ挿入スベシ輕症ニハ濕卷法劇症ニハ温卷法及切開〇近年ビー
 ル氏ノ吸引療法ヲ賞用ス

鹽莢 〇〇・五 石鹼硬膏 六〇・〇
 白糖 二・〇 ヘブラ氏軟膏 三〇・〇
 右研和散五包ニ分チ毎夕一二包 右調和布片ニ攤シテ貼用ス
 サリチール酸 八・〇

泌乳過多 Galactorrhoea. ガラクトヘア

原因 授乳經久過度其他一種不明ノ原因ヨリ來ルコト有リ

瘡瘍 泌乳過多

診候 離乳後ノ持續性稀乳汁分泌過多ニシテ終ニ衰弱、食慾缺損、神身
 違和、弱視、卒倒、精神異常等ノ諸症ヲ來タスコト有リ
療法 飲食ヲ節シ下劑ヲ投ジ又乳部ニ反覆シテ冷水洗滌ヲ行ヒ非常ニ充
 滿シタル乳房ハ提帶ヲ以テ之ヲ保護シ且ツ脂肪或ハ軟脂ヲ乳房面ニ塗
 布シ或ハ温器法ヲ施シ又吸乳器ヲ應用スルコトアリ

肺壞疽

Gangraena pulmonum.

ガングレナ、
ブルモスーム

原因 嚔下肺炎、腐敗性氣管枝炎、クロフ性肺炎（殊ニ衰弱者或ハ酒客
 ノ）、肺栓塞或ハ外傷等ニ由テ肺部動脈血行ノ遮斷肺膿瘍等ナリ
診候 急激ノ衰弱、窒扶斯様ノ諸現症、呼氣及咯痰ノ惡臭、咯痰中肺組
 織ノ混在、肺ノ濁音部新空洞ノ發生等
豫後 概テ不良ナリ、體格強壯ナルモノハ良ナルコトアリ
療法 本病ハ主トシテ患者ノ脫力ヲ防ギ腐敗ヲ抑止スルニアリ病室ハ大
 ニシテ空氣ノ流通佳良ナラザル可カラズ惡臭ヲ減ズル爲ニ熱湯ヲ盛レ
 ル皿中ニ「テレピン」油又ハ「クレオソート」ヲ投ジテ之ヲ蒸發セシム
 可シ患者ハ安靜ニ横臥セシムルヲ要ス外科手術ヲ行フコトヲ得ルモノ
 ハ之レヲ施スベシ

キナ皮

二〇〇〇

右ブランデー酒 一八〇〇中ニ

六時間浸出シ濾過シタル後其液

ニベスツセア氏神經強壯丁幾

二〇〇ト桂皮水、橙皮舍各二〇〇

〇ヲ加ヘ毎二時間一食匙

略痰ノ臭氣ヲ除クカ爲メニ左方

再留テレピン油 五〇〇

右吸入料

石炭酸 一〇〇

再留酒精 各一五〇

グリセリン 各一五〇

右調和吸入料

ミルトール 〇・一五

胃痙

Gastralgie.

ガストラルギ

胃痛條下ヲ見ヨ

右膠囊ニ包ミ毎二時一二粒宛

テレピン油

一〇〇〇

右一日三回十滴宛牛乳ニ和シテ

用ユ

鉛糖

〇〇三〇〇五

白糖

〇〇五

右混和一日三回乃至四回服用

薄荷腦

一・五

右膠囊ニ入レ十個ヲ製ス毎日二

乃至四囊

略痰器ハ過マンガン酸カリウム、クロ

ール石灰五十倍クレオリン水ニテ消毒

スベシ

肺壞疽 胃痙

胃下垂症

Gastroptose.

ガストロプトーゼ

原因 肝結腸韌帶ノ弛緩、腹部弛緩、コルセット、腹壓下降等ニヨリ起リ、細狭胸廓ノ者ニ甚ダ多シ

診候 漸次消化障碍ヲ發シ、心窩重膨滿ノ感アリ、多ク胃アトニーヲ伴フ、患者食物ノ不消化ヲ恐レテ節食シ大ニ營養ヲ害セラル、之ニ次デ頭痛、眩暈、鬱憂、不眠等ノ神經衰弱様症候ヲ呈ス、他覺的ニ胃ノ膨滿法ヲ施セバ心窩ノ上部陷凹シ、下部膨隆シ、胃ノ下界ト共ニ小彎モ亦下降セルヲ見ル、本病ニハ他ノ臟器、腎、肝、脾、結腸等ノ下垂ヲ伴フ

療法 滋養ニ富メル消化シ易キ食物ヲ與ヘ、飲料ヲ節減シ、食後ノ運動ヲ禁ズ、胃部ニ感傳電氣ヲ通ジ、ツツシーヲ試ミ又腹帶ヲ施スベシ、藥劑トシテハ「レゾルチン」「クレオソート」ノ如キ防腐劑、健胃劑ヲ與フ

撒酸苳鉛
普木髓越

〇・三
〇・〇三—〇・〇五

レゾルチン

〇・三

普木髓越

右爲一包一日三回

〇・〇五

乳糖
宛

〇・三
右膠囊ニ包ミ每食後一乃至二個

齒齦炎

Gingivitis.

ギンギウチチス

原因 口内病、壞血病、水銀中毒等
診候 齦肉ノ腫起、疼痛、粘液及唾液ノ分泌増加放臭等
療法 口内ノ攝生ニ注意シ齒刷或ハ布片ヲ用テ齒齦ヲ清潔ニナシ又含嗽水ヲ用テ屢々洗滌ス可シ

硼砂
澱微蜜

各五・〇

薄荷油
茴香油

各〇・五

右調和塗布料

鹽剝

五・〇

右一茶匙ヲ一盞ノ水ニ和シ含嗽料

右調和含嗽料

阿仙藥丁

二〇〇・〇

五倍子丁
阿片丁

各一〇・〇
一・〇

芳香水
稀酒精

各五・〇
一〇〇・〇

右調和齒齦塗布料
其他ノ含嗽水劑ニ於テハ口峽炎、亞布答、水銀中毒性口内炎等ノ條下ヲ見ヨ

胃下垂病 齒齦炎

三一九

綠内障 Glaukom. グラウコーム

原因 原發性ハ高齡、遠視、血行障害、散瞳藥點眼、營養不良、衰弱、血管アテロム變性、三叉神經痛、遺傳等續發性ハ鞏膜炎、漿液性虹彩毛樣體炎、虹彩前後癒着、水晶體ノ外傷、眼内腫瘍、網膜出血、脈絡膜炎等ヨリ來ルコトアリ

診候 急性炎症性綠内障ノ症候經過

前驅期(七十五%ハ本期ヲ有ス)ハ數月數年來大抵二三時間ヲ以テ消散スル發作ヲ有ス飽食、精神感動、足部冷却、睡眠不足等ノ後ニ起リ發作ト間歇時トヲ有ス、發作ハ通常數時間ニシテ睡眠後消失スルヲ常トス發作ノ症候ハ(一)燈火ノ周圍ニ虹霓(外方ニ赤色)ヲ觀而シテ虹霓ト燈火ノ間ニハ常ニ暗黒ノ輪ヲ存シ虹霓ノ色必ズ燦然タリ(二)萬物朦朧トシテ霧中ニ在ルガ如シ(三)毛樣神經(四)眼球硬固(五)瞳孔散大及反應遲鈍其色綠色(六)前房水及角膜輕度ノ濁濁等

發生期ハ前驅症ニ續キテ暴起シ頭痛顔面痛劇甚、嘔吐、發熱、食氣不振等ヲ發シ視力俄カニ減少ス而シテ眼瞼潮紅腫脹、眼球結膜充血浮腫、

角膜ノ濁濁及知覺鈍麻、前房淺ク且前房水濁濁、虹彩變色、瞳孔散大不動不正其色綠、眼球硬固如石、眼底ヲ檢シ得ル(濁濁未ダ輕クシテ)際ニハ靜脈ノ怒張迂迴、脈搏出血(出血性綠内障)乳頭充血ヲ認ム然レドモ第一回綠内障發作ニハ乳頭陷凹ヲ發セス○第一回綠内障發作後兩三日乃至一週ニシテ炎症消失シ視力殆ンド舊ニ復スルモ是レ全治ニ非ズシテ發作ハ爾來反覆シテ乳頭陷凹シ漸次視力減少視野狹少トナリ遂ニ全ク失明シ完全綠内障トナル○極メテ稀ニハ一回ノ發作一二時ニシテ全ク失明ニ陥ルモノアリ(電擊性綠内障)

慢性炎症性綠内障ハ諸症急性ノ如キモ炎症著シカラズシテ其度輕ク數月ニシテ完全綠内障トナル單性綠内障ハ眼ノ外貌、角膜鞏膜瞳孔等變化少ク又前驅症及炎症發作ナシ只乳頭ハ陷凹シテ消耗テ呈シ視力漸次減少、視野規定狹縮(多クハ鼻側ヨリス)ヲ呈シ歲月ヲ經テ失明ス、○眼壓亢進ハ微弱ナリ○續發性綠内障ハ原發性眼病ニ綠内障ノ症候ヲ發ス豫後 治療セザレバ早晚必ズ失明スト雖モ速カニ治療ヲ加フレバ概テ良但シ出血性、電擊性及其他ニ於テ失明ヲ免レザルコトアリ

療法 診斷確實ナル者ニ於テハ直ニ「エゼリン」或ハ「ピロカルピン」ヲ點

齒齦炎 綠内障

眼シ速カニ虹彩切除術或ハ鞏膜切開術等ヲ施シ假令綠内障ノ疑ヲ存スル時ト雖モ「アトロピン、コカイン」等凡テ瞳孔ヲ散大スル藥劑ハ之ヲ嚴禁ス可シ

撒酸エゼリン	〇・〇二乃至〇・〇五	サリチール酸エゼリン	〇・〇五
鹽水	一〇・〇	鹽莫	〇・一
右調和毎日二回點眼料		鹽水	一〇・〇
鹽酸ピロカルピン	〇・二	右調和毎日二回點眼料	
鹽水	一〇・〇	チオニン	〇・五
右調和毎日二回點眼料		鹽水	一〇・〇
綠内障性疼痛ノ強劇ナル者ニハ		右點眼料	

舌炎 Glossitis. タロシチス

原因 水銀中毒、温熱的、器械的、化學的ノ刺戟其他窒扶斯、猩紅熱、丹毒、痘瘡等

診候 舌全部若クハ半部ノ腫大、口外脫出邊緣ノ潰瘍、膿腫、劇痛、流涎、咀嚼及嚥下困難、頸腺顎下腺ノ腫脹、發熱、下痢等ナリ

療法 頸及顎下ノ周圍ニ氷巻法ヲ行ヒ又氷片ヲ含マシム〇其重症ニハ刀

ヲ以テ舌背ニ深キ縱切ヲ行フ〇窒息ノ危險アルトキニハ氣管切開術ヲ施ス〇膿腫ハ可及的早ク之ヲ切開ス其他含嗽劑及ビ下劑等

鹽剝	五・〇	薄荷油	一滴
鹽水	二〇〇・〇	鹽水	二〇〇・〇
右含嗽料		右含嗽料	
	五・〇		

膝關節炎 Gonitis. ゴニチス

原因 外傷、癩癘質斯、結核、淋毒等ナリ

診候 腫起、疼痛、波動、屈伸不隨、強直、畸形等其主タルモノトス

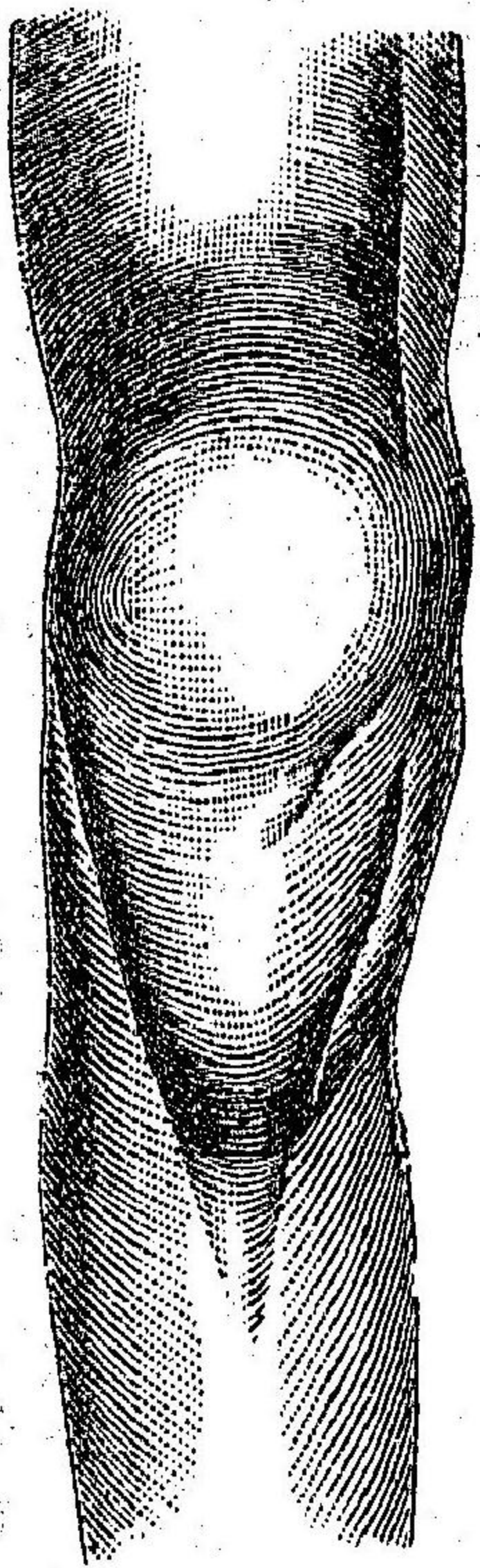
療法 漿液性膝關節炎ハ概テ良、化膿性膝關節炎及結核性膝關節炎ハ療法其時期ヲ失シ或ハ其治方宜シキヲ得サレバ不良

急性ナル者ハ靜臥セシメテ患肢ヲ地平位ニ置キ氷巻法ヲ行フ可シ而シテ疼痛ノ緩解セル後ニハ有窓固定繃帶(大轉子ヨリ足ノ上方)若クハ「フランチル」ノ壓抵繃帶ヲ施スベシ〇慢性滑液膜炎ニ在テハヨードカリウム、ヨード軟膏ノ貼用若クハ穿刺術ヲ行ヒ或ハ按摩ヲ施ス可シ結核性ニハ可及的速カニ殺菌ヨードフォルム、グリセリンヲ關節

健康膝關節ノ外形



多量ノ滲出液ヲ含メルモノノ外形



圖一十三第 圖十三第

内ニ注入スベシ其用量ハ年齢ニ從ヒ毎二週乃至四週二〇乃至一〇〇ナリトス〇諸法無効ナルトキハ關節切除術、切斷術ヲ施ス(殊ニ大人ニ)

ヨード丁
五倍子丁
右調和塗布料
イヒチカール
ワセリン
ラノリン

各一〇〇

五〇

各二五〇

右爲軟膏外用

ヨード

沃剝

單軟膏

右爲軟膏外用

〇・五

五〇

五〇〇

吐血

Haematemesis.

ヘマテシス

原因 胃潰瘍、胃癌、或ハ月經閉止、心肺肝等ノ疾病ニ關スル胃粘膜炎、或ハ腐蝕藥ノ嚙下等ナリ
診候 胃部ノ壓重、疼痛、痞滿、嘔吐及ビ吐血ニシテ其色黒シ中ニ食物ノ残渣ヲ含ムヲ常トス便中血液ヲ混ズレバ診斷愈々正確、此血液ハ酸性

胃出血

吐血

- (1) 血液嘔吐ニヨリ排泄セラレ
- (2) 豫テ胃病或ハ肝臟病ノ既往症アリ出血前ニ嘔氣及上腹ノ壓感ヲ起ス
- (3) 胃又ハ肝臟病ノ徵アリ且門脈鬱血ニ因スル症狀アリ
- (4) 血液暗色ヲ呈シ往々殆ト黒色ヲ呈ス空氣ヲ含マズ凝固シテ塊團ヲナス
- (5) 性ノ反應酸アリ
- (6) 往々食物ノ成分ヲ混ズ
- (7) 胃出血ハ俄然トシテ發シ其持續短ク出血後初メテノ便ハ往々テール様ニ着色ス

肺出血

- (1) 血液咳嗽ニヨリ排泄セラレ
- (2) 患者肺臟又ハ心臟病ノ既往症アリ出血ニ先チテ胸内ヨリ温液ノ上昇スルヲ覺ユルコトアリ
- (3) 肺若クハ心臟病ノ徵アリ
- (4) 血液鮮紅色ニシテ泡沫ヲ含ミ凝固セズ

- (5) アルカリ性ノ反應アリ
- (6) 往々粘液及膿ヲ混ズ
- (7) 肺出血ハ久シク持續シテ徐々ニ消失ス

療法

原病ニ注意シ而シテ安靜ニ地平位ノ仰臥ヲナサシメ可乃的運動ヲ戒メ又始メ二十四時間ハ凡テ飲食ヲ禁ジ此時間ヲ經テ始メテ牛乳ヲ煮沸シテ後冷却氷水ノ如クナレル者ヲ食匙ニテ少量宛與ヘ數日後ニ他ノ流動性滋養食ヲ取ラシム、氷水或ハ氷片ヲ嚙飲セシメ兼テ胃部ニ氷罨法ヲ行フテ効アリ○失神ニハ顔面ノ冷水灌漑ヲ行ヒ或ハ醋酸エーテル若クハ「エーテル」ノ塗擦或ハ「エーテル」樟腦精ノ(三倍ノ者)皮下注射ヲ行フ○脈搏強實ナルハ「モルヒネ」ノ皮下注射ニ由テ嘔吐ヲ鎮靜スベシ○口ヨリ滋養物ヲ取ラシムルコト能ハザル者ニハ滋養灌腸ヲ施スベシ

鉛糖	二・〇	食鹽	一〇〇・〇
鹽莫	〇・一	餾水	〇・六
白糖	二・〇	右十五分間煮殺菌シテ後其温液ヲ腹部皮下ニ注入ス	
白膠	一・〇乃至二・〇	二%ゲラチン食鹽水	一八〇・〇
		右研和散十包ニ分チ毎二時一包	

吐血

メンタ水 一〇〇〇
 單舎 二〇〇〇
 右一日三回二日分服
 麥角越 各一〇〇〇
 芳香硫酸 右調和十乃至三十滴ヲ一酒盞ノ
 水ニ加ヘテ頻々飲用
 過クロール鐵液 一〇〇〇
 右一回毎五滴糖水ニテ用ユ
 其他エルゴチン〇〇三乃至〇〇五或
 ハ〇〇一ノ皮下注射ヲ行フテ効アリ
 急激ノ失血ニ由テ虚脱ニ陥ラントスル
 者ハ温食鹽溶液ノ注入ヲ行フ
 食鹽 四〇〇

血尿

Haematurie. (イトウリー)

原因 腎臓出血 (打撲、創傷、楔狀硬塞、腎臓炎、猩紅熱、空扶斯、痘

炭酸ナトリウム 五〇〇
 餾水 右調和攝氏三十九度ニ温メ靜脈
 内或ハ皮下注入料但シ空氣ノ竄
 入セザル様法意スベシ
 小兒ノ吐血ニハ左ノ内服藥ヲ處ス
 明礬 〇・五
 單舎 一〇〇〇
 餾水 右調和毎五分時一茶匙
 過クロール鐵液 一〇〇
 橙皮舎 一五〇
 餾水 右調和毎半時一小兒匙
 五〇〇

瘡、血友病、壞血病、癩腫、結核、腎臓結石) 膀胱出血 (膀胱粘膜炎、
 損傷膀胱結石、膀胱ノ癩腫結核莖膏テレビン油等ノ刺戟性藥品ノ濫
 用出血性體質ニ發スル諸病) 尿道出血 (外傷、劇甚ナル淋毒性尿道炎炎
 等)

療法 原因ヲ明ニスルコト肝要ナリ而シテ出血ノ尿道、膀胱、腎臓等其何
 レヨリ來レルヤヲ檢ス可シ凡テ安息靜臥ヲ守ラシメ飲食ヲ節シ冷卷法
 ヲ施シ又淋病ニハ其注射ヲ止ム〇白膠ノ内服及注入モ亦々効アリ (吐
 血ノ條ヲ参照)

膀胱出血ニハ左ノ處方ヲ處ス可シ
 麥角浸 (六〇)二〇〇〇
 右一日六回二日分服
 過クロール鐵液 二〇〇
 桂皮水 二〇〇〇
 桂皮舎 二〇〇〇
 右調和毎二時一食匙
 麥角越 一〇〇
 白糖 二〇〇
 右研和散五包ニ分チ毎三時一包
 麥角越 一〇〇
 阿片末 〇・一
 白糖 二〇〇
 右研和散五包ニ分チ毎三時一包
 水製麥角越 各五〇
 餾水 右調和濾過シテ其液ヲ皮下注射

血尿

ニ用ユ(一日三回毎三分一筒)
 ヒドラステス流動越 各三〇・〇
 マラセン酒 一五・〇
 桂皮舎 右二乃至五時毎ニ一乃至二茶匙
 赤色キナ煎 (二〇・〇)一〇〇・〇
 蘇越木 一・〇

桂皮舎 二〇・〇
 右調和毎二時一食匙
 腎出血ニハ左方ヲ處ス
 麥角越 各〇・五
 タンニン酸 二・〇
 白糖 右研和散五包ニ分子毎三時一包

血友病

Haemophilie.

ヘモフィリー

原因 本病ハ遺傳病ニシテ、通常本病患者ヨリ健康ナル娘ヲ介シテ男性ノ孫ニ遺傳スルコト多シ

診候 多クハ幼時ニ於テ發病ス、幽微ノ外因ニヨリテ出血ヲ來ス即チ損傷、手術或ハ全ク輕微ナル手術例ヘバ拔齒、種痘等ニヨリ致死的大出血ヲ來スコトアリ、又屢バ甚ダシキ衄血、子宮出血、血尿、關節、結膜出血等ヲ來ス

豫後 不良

療法 損傷ヲ避ケ、外科的手術ヲ禁ジ、身體ノ強壯ヲ計ル、出血ニ際シ

テハ傷口ヲ壓迫シ、「ゲラチン」ノ内服又ハ皮下注射、虚脱ニハ樟腦油及生理的食鹽水ノ皮下注射ヲ施ス

咯血

Haemoptoe.

ヘモプトエ

原因 概チ肺結核、其他肺壞疽、肺チストマ、肺腫瘍、急性氣管枝加答

兒、肺炎、肺ノ鬱血、肺出血性硬塞等ナリ

診候 出血ハ咳嗽ニ伴フ胸内温液涌湧ノ感ヲ前驅シ其血液ハ鮮紅色ニシテ泡沫ヲ含ミ「アルカリ」性ナリ但シ出血性硬塞即チ楔狀出血ニ在テハ咳嗽ニ呼吸困難ヲ伴ヒ煤色痰ヲ血中ニ混ズ且熱候ナシ其血液多クハ黒塊ヲナスモノナリ

療法 患者ヲシテ地平位ノ仰臥ニ於テ安息靜止セシムルコト殊ニ緊要ナリ故ニ談話モ尙ホ之ヲ禁シ胸部ニ氷罨法或ハライテル氏冷却器ヲ置キ氷片或ハ「アイスクリーム」等ヲ與ヘ温食物ヲ禁ジ適宜ノ攝生ヲ命シ酒色ヲ戒メ興奮ヲ慎マシメ而シテ新鮮空氣中ニ滋養物ヲ與フ〇打診ヲ施スベカラズ聽診スル際モ深呼吸ヲ命ズルハ不可ナリ

麥角浸 (八・〇)二〇〇・〇 右毎二時一食匙宛(振盪スベシ)
 桂皮丁 五・〇 鹽莫 〇・〇五

血友病 咯血

明礬末 各二・〇
 白糖 右研和散五包ニ分子毎二時一包
 白膠 一・〇乃至二・五
 食鹽 〇・六
 餾水 一〇〇・〇
 右十五分間煮沸殺菌シテ後其温液ヲ腹部皮下ニ注入ス
 二%ゲラチン食鹽水 一八〇・〇
 メンタ水 一〇〇・〇
 單舎 二〇〇・〇
 右一日三回二日分服
 阿片 〇・一
 鉛糖 〇・二
 白糖 二〇〇
 右研和散十包ニ分子毎二時一包
 鹽莫 〇・一
 杏仁水 一〇〇・〇

右咳嗽發作時十乃至十五滴ヲ一盞ノ水ニ和シ用ユ
 鹽酸ヘロイン 〇・〇一
 杏仁水 一〇〇・〇
 右咳嗽發作時十乃至十五滴水ニテ用ユ
 鹽莫 〇・〇五
 タンニン酸 各二・〇
 白糖 右研和散五包ニ分子毎二時一包
 ストロファンツス丁 各一〇・〇
 杏仁水 各一〇・〇
 右毎日二回二十滴(心悸亢進ニ)ガギタリス葉末 〇・〇二
 鹽莫 〇・〇五
 明礬末 各二・〇
 白糖 右研和散五包ニ分子毎二時一包

(脈搏頻數ナルトキ)

麥角越 各一・五
 タンニン酸 〇・〇五
 水製阿片越 適宜
 甘草越 右丸二十粒ニ作り毎三時一粒
 過クロール鐵液 一・〇
 阿片丁 十滴
 桂皮舎 二〇〇・〇
 餾水 一〇〇・〇
 右調和毎半時一食匙
 過クロール鐵液 一・〇
 餾水 二〇〇・〇
 右調和吸入料
 麥角越 一・〇
 餾水 一〇〇・〇
 右調和皮下注射料
 麥角越 一・〇

グリセリン 右調和皮下注射料 一〇〇・〇
 鹽莫 〇・〇一
 硫酸アトロピン 〇・〇〇五
 餾水 一〇〇・〇
 右半筒乃至一筒皮下注射
 咯血連續止マザル者ニハ
 テレピン油 八滴
 右膠囊ニ入レ毎三時二囊
 テレピン油 各五・〇
 扁桃油 各二〇・〇
 アラビヤゴム漿 二〇〇・〇
 單舎 各二〇・〇
 餾水 右調和毎時二食匙

咯血

痔核 Haemorrhoiden. (モロイデ)

原因 肛門及直腸内靜脈ノ還流ヲ妨グル諸件即チ常習便秘、直腸加答兒、子宮、卵巢、膀胱、攝護腺腫瘍、子宮轉位、妊娠、肺、肝、心諸病ニ因スル血行障礙等

診候 痔核ハ痔靜脈叢ノ過度ノ發育及擴張ニシテ内痔核(粘膜下、上痔靜脈叢ニ發ス)外痔核(皮下靜脈叢ニ發ス)ノ別アリ

内痔核ハモルガニー氏柱下縁ノ部ニ生シ結節狀ヲ呈ス其色暗青赤色ヲ常トスルモ亦タ毛細血管ノ擴張ニ因リテ紅色ニシテ肉芽狀ナルコトアリ内括約筋上ニ移動ス初期ニ在リテハ肛門内ニ不快ノ閉塞ノ感、便通時ノ微痛アルノミナルモ後ニハ便通時ニ於ケル出血痔核ノ脫出直腸加答兒ヲ發ス脫出痔核若シ括約筋痙攣ノ爲メニ箝頓スレバ則チ豌豆大乃至榛實大或ハ輪狀ノ赤紫色ノ隆起ヲ露出シテ疼痛、裏急後重、尿閉、嘔吐、發熱等ノ諸症ヲ呈ス還納不能ナルトキハ一週間ニシテ痔核壞疽トナリテ脫落シ潰瘍ニ變シテ遂ニ治ス然レドモ大出血、膿瘍形成、瘻管ヲ惹起スルコトアリ甚タシキハ膿毒症ヲ發スルコトアリ内痔核ノ脫出セ

ルモノ若クハ脫出セシメ得ルモノハ明カニ之レヲ視ルベシト雖トモ其然ラザルモノニ在リテハ肛門鏡ヲ以テ之レヲ診スベシ

外痔核ハ肛門皮下ノ結節ニシテ豌豆大乃至榛實大ニシテ青色ヲ呈ス腹壓ヲ加フレハ膨大シ指壓ヲ加フレバ縮小ス平時瘙痒症、灼熱ヲ覺ユルノミニシテ殆ンド出血スルコトナシ然レドモ一タビ炎症ヲ生スレバ腫脹、疼痛、搏動及異物ノ感、裏急後重ヲ惹起ス此ノ痔核發作ハ約一週持續シテ消散ス其轉歸ノ佳良ナラザルモノハ瘻ヲ生シ或ハ潰瘍ヲ形成ス

療法 下劑ヲ用キテ便通ヲ整然且ツ容易ナラシムルコトニ注意シ而シテ飲酒及ビ身體ノ勞働ヲ禁シ唯整然タル一定ノ散歩ヲナサシムベシ○脫痔ハ可及的之ヲ復位スルヲ宜トス○炎症狀ヲ發シタルモノニハ氷囊ヲ敷カシメ又直腸出血ニハ安臥ヲ命ジテ氷巻法ヲ行ヒ或ハ坐藥冷浴等ヲ施シテ効アリ○近時ハ直腸内温湯注射ヲ有効ナルモノトシテ賞用ス又タ温罨法及醫布ヲ用キテ良効ヲ奏スルアリ○輕度ノ痔核ヲ除去スルニハ「コカイン」液ヲ塗布シ結節周圍ニ「ワセリン」ヲ塗リ「ブラワッツ」注射器ヲ以テ石炭酸グリセリン(二倍乃至三倍)ヲ痔核ニ注入シ内容

痔核

ノ凝固ヲ待チテ後ニ針ヲ抜キ凡テ其周圍ノ粘膜ヲ腐蝕セザル様注意ス
 可シ石炭酸グリセリン量ハ痔核ノ大小ニ從ヒ二乃至五滴ヲ用キ若シ一
 回ニテ治セザルトキハ二三週ノ後ニ注射ヲ行フモ通常一回ノ注射ヲ以
 テ足ルモノトス而シテ注射後ハ流動性食物ヲ與ヘ阿片ハ之レヲ用キス
 却テ灌腸ヲ行フ○通常二三日下劑ヲ與ヘテ手術ヲ準備シ局處麻醉或ハ
 全身麻醉中ジモン氏鏡ニテ結節ヲ露出セシメ痔核鉗子ヲ以テ核ヲ撮ミ
 ランゲンベツク氏翼狀鉗子ヲ以テ之ヲ鉗シ後燒灼器ニテ徐々ニ結節ヲ
 炭化ス可シ而シテ「ヨードフォルムガーゼ」ヲ貼シ丁字帶ヲ施シ一週ノ
 後蓖麻子油ノ下劑ヲ與ヘ或ハ灌腸シ二週間就褥安靜ヲ命ズ○切除法ハ
 肛門ヲ鉗ニ開キ皮膚ト粘膜トノ界ニ四個ノ把握鉗子ヲ置キ次ニ肛門ヲ
 周截シ痔核ヲ有スル粘膜ハ瘤ノ終末迄鉗ニ剝離シテ之レヲ切除シ次ニ
 止血シ次ニ連續縫合ヲ以テ外皮ニ接合ス

- 複方大黃散 〇・〇五 白糖 三〇・〇
- 重曹 右每夕一乃至二茶匙 〇・〇五 右每夕一茶匙宛水ニテ用ユ
- 大黃末 一〇・〇 結製硫黃 各一〇・〇
- 茴香油 五・〇 重酒石酸カリウム 各一〇・〇
- 三滴 薑根舍利別 一五・〇

- 橙皮舍 一五・〇
- 右爲砥劑一茶匙宛
- 沈降硫黃 各一五・〇
- 假製マアチシア
- 純精酒石 二〇・〇
- 茴香油糖 右一日一回乃至三回一茶匙宛
- 硫酸鐵 各二・〇
- 蘆薈末 適宜
- 葛蒲越 右調和丸二十粒ニ作り朝夕二粒
- 明礬 各一〇・〇
- タンニン酸 適宜
- カ、オ脂 右調和坐藥十個ニ作り肛門挿入
- (出血ノ際)
- 阿片越 一〇・二
- ラノリン 一六・〇
- ワセリン 四・〇
- 右調和軟膏ニ作り貼用
- 十倍オルトホルム軟膏 二〇・〇
- 右外用(鎮痛)
- イチヒオール 〇・一
- ヨードフォルム 〇・三
- カ、オ脂 二・〇
- 右爲坐藥與三個一日一個
- 黃荊越 〇・五
- ヨードフォルム 各〇・一
- 醋酸鉛 一〇・〇
- ワセリン 右爲軟膏外用
- オルトフォルム 〇・二
- カ、オ脂 二・〇
- 右爲坐藥與三個一日一乃至三個
- 鹽莫 〇・〇一
- カ、オ脂 二・〇

右爲坐藥與三個一日一個
 甘朮 〇・二
 ペラドンナ越 各〇・〇二
 阿片越 二〇・〇
 單軟膏 右爲軟膏(坐浴後塗擦ス)
 荳蔻越 〇・〇一
 カ、オ脂 二・〇
 右爲坐藥與三個一日一個
 タンノホルム 〇・二
 荳蔻越 〇・〇一
 カ、オ脂 二・〇
 右爲坐藥與四個毎日二回一個宛
 蔘角越 一・〇
 鹽水 一〇〇・〇
 右調和電法料(脫出痔核ニ用キ
 テ効アリ)
 クリサロピン 〇・八

ヨードフォルム(或ハアイロール) 〇・三
 荳蔻越 〇・六
 フゼリン 二五・〇
 右調和軟膏ニ作り先ツ五十倍ノ
 石炭酸水ヲ用キ痔核ヲ洗滌拭乾
 ノ後布片ヲ用キテ塗擦ス(注意)
 沃剝 二・〇
 ヨード 〇・二
 グリセリン 三五・〇
 右棉花ニ浸シ患部ニ貼用ス毎二
 時乃至三時ニ交換スベシ
 鹽酸コカイン 〇・三乃至〇・五
 ラノリン 各〇・〇五
 フゼリン 右軟膏ニ作り先ツ石鹼ヲ以テ患
 部ヲ擦拭シタル後塗布ス

カイカインハ
 薄荷腦
 オレフ油

一・〇
 〇・二
 二・〇

ラノリン 右爲軟膏外用
 其他牛乳療法カル、ス泉鹽等

一〇・〇

夜盲症

(網膜不敏症)

Hemeralopie

ハンラロニー

原因 眼底ニ變狀ナクシテ來ルモノハ營養不良(監獄貧院等ニ於テ多シ)
 強烈ナル光線ニ基クモノアリ、分曉前後ニ發スルモノアリ夏期幼者ニ
 發スルコト多シ

診候 黄昏ニ至レバ視力忽チ減ジ殆ンド盲人ノ如シ然レトモ一タビ燈光
 ニ對スレバ又俄ニ視力増加ス眼底ヲ檢スルニ著明ノ變化ヲ認メズ

豫後 概チ良但シ角膜軟化症ヲ續發スレバ不良

療法 肝油、最モ効アリ其他アンチピリン、キニーチ、鐵劑、沃剝ノ内
 服又タ食餌的療法トシテ鵝肝、牛肝、鰵、鱈等ヲ與ヘテ効アリ

偏頭痛

Hemikranie

ヘミクラニ

Migräne

ミグレン

原因 遺傳、神經衰弱、過勞、月經異常、貧血、萎黃病、ヒステリー、悲
 哀、憤怒、麻拉里亞、儂麻質斯、便秘鼻扁桃腺ノ疾患等ニシテ女子ニ

夜盲症 偏頭痛

三三九

多シ

診候 不快、眩暈、耳鳴、眼火閃發、惡心、欠伸等ヲ前驅症トシテ偏側頭痛(左側ヲ多シトス)ヲ發シ音響光線ニ對スル知覺過敏、惡心嘔吐ヲ發ス而シテ瞳孔縮小、患側頭部ノ潮紅及ヒ温度上昇、顛顫動脈ノ怒張スルモノト(脈管痙攣性偏頭痛)又ハ瞳孔散大、患側頭部ノ蒼白色トナリ其顛顫動脈ノ硬索狀ニ隆起スルモノ(脈管痙攣性偏頭痛)トノ二種アリ

豫後 生命上ノ豫後ハ良ナルモ根治シ難シ但シ高齡及月經閉止期ニ治スルヲアリ

療法 血液及ヒ消化器ニ關スル諸變常ヲ除キ精神ノ興奮ヲ避ケ殊ニ發作中ハ可及的安息靜養ヲ命シ其室ヲ暗クシ頭部ニ熱キ嚢布ヲ貼シ偏頭痛桿(ノントール)ヲ以テ額ヲ摩擦スベシ○藥劑ニハ「ザリチール」酸劑、キニーチ、カフエイン、臭剝等ノ内用其他感傳電氣或ハ刺戟性脚湯或ハ「ケルン」水ノ頭部洗滌或ハ「エーテル」頭部點滴及按摩法等ヲ用キテ効アリ○劇痛ニハ「モルヒチ」ノ皮下注射ヲ行フ本病ハ頑固ニシテ種々ノ藥劑ヲ試ムルモ効ナク患者ヲ絶望セシムルヲアリ反射性偏頭痛ノ場合ニハ鼻粘膜ノ燒灼扁桃線ノ切除ニヨリ治スルコトアリ

ワリドール	二〇〇	バスタ、グアラナ	〇・八
撒曹	一〇	白糖	〇・五
右爲一包與三包發作時一包	一〇	右同上	〇・一
サリピリン	一〇	カフエイン	〇・一
右爲一包與三包發作時一包	一〇	乳糖	〇・三
ザロール	一〇	右爲一包與三包一日三回一包宛	〇・五
右同上	一〇	鹽規	二〇
ザロフェン	一〇	白糖	二〇
右同上	一〇	右三包ニ分子發作十五分前ニ用	二〇
アスピリン	一〇	臭素酸カフエイン	一〇
右同上	一〇	白糖	二〇
ロイマン	〇・三乃至〇・六	右研和散十包ニ分子朝夕每一包	一〇
右塗擦料	〇・三乃至〇・六	枸橼酸カフエイン	一〇
ピラミドン	一〇	フエナセチン	二〇
右同上	一〇	白糖	一〇
ミグレン	一〇	右研和散十包ニ分子澱粉囊ニ包	一〇
右同上	一〇	ミ每二乃至三時一包	一〇

偏頭痛

プロウムカリウム 五・〇
 單舎 二〇・〇
 餾水 一八〇・〇
 右調和一日三回毎二食匙
 アンチピリン 五・〇
 右散五包ニ分チ發作ノ始メニ當
 リ一時間ヲ隔テ一乃至三包
 ザロフェン 〇・五乃至一・〇
 右爲一包與三包一日三回分服
 ラクトフェニン 〇・五乃至一・〇
 右爲一包同上
 アンチネルヅキン 各〇・五
 白糖 右爲一包與十包毎二時一包
 疼痛ノ初期ニハ撒曹一・〇ヲ用キ疼痛
 止ムニ至ルマテ毎一時一・〇ヲ服用ス
 但シ耳鳴ヲ發スレバ之ヲ止ム又一茶匙
 ノ食鹽ヲ用ユルコトアリ

撒曹 各一〇・〇
 薄荷油糖 右爲一包與三包發作時一包
 薄荷腦 一・〇
 オレーフ油 〇・五
 ラノリン 八・五
 右爲軟膏額及顳額部ニ塗擦ス
 顔面蒼白ニシテ脈少ナル者ニハ
 亞硝酸アミール 五・〇
 右一乃至五滴ヲ布片ニ滴下吸入
 ニトログリセリン 〇・五
 餾水 五〇・〇
 右先ツ一二滴ヲ用キ三分ノ後更
 ニ二三滴ヲ用ユ

歌兒尼亞

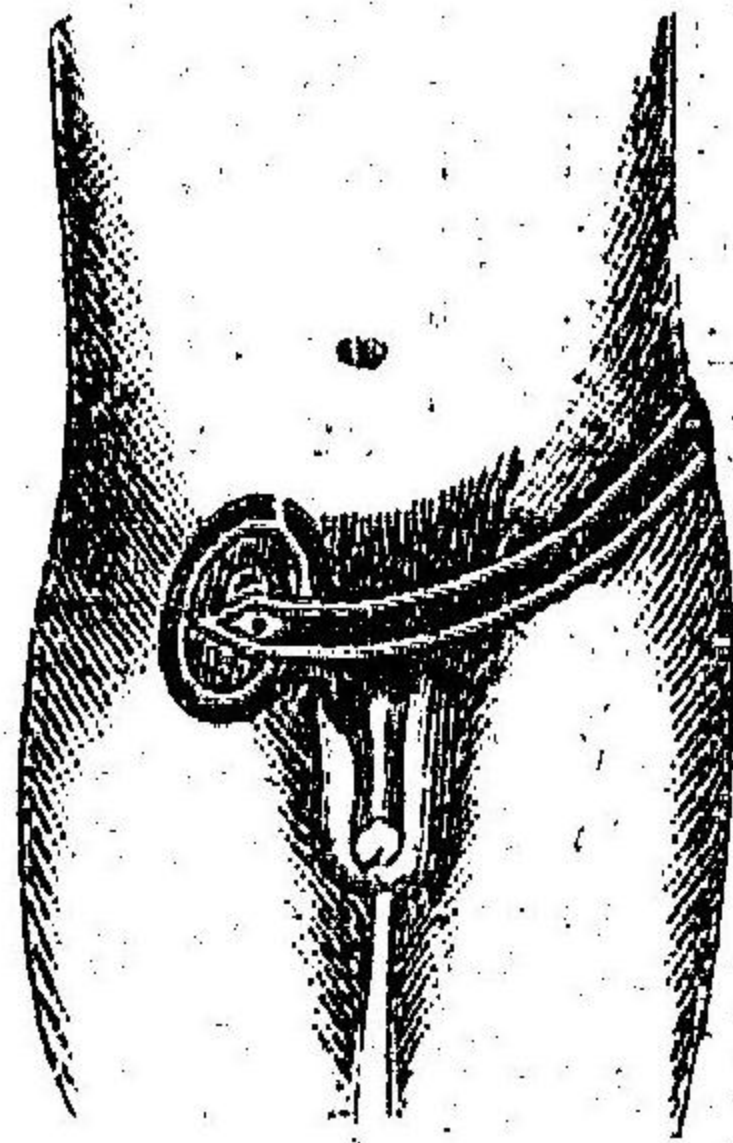
Hernia ヘルニア

原因 先天性「ヘルニア」ハ先天性發育不全ニ基シ後天性「ヘルニア」ハ腹
 腔内壓ヲ増加スルノ諸件即チ重物扛擧、劇甚ナル咳嗽、號叫努責等ニ
 因ス男子ハ婦人ヨリ多キコト四倍ナリ而シテ鼠蹊「ヘルニア」ハ八十%
 股「ヘルニア」ハ十%臍「ヘルニア」ハ五%ヲ算スル比例ナリ（陸軍省醫
 務局年報ニ曰ク明治廿年ヨリ廿二年ニ至ル三年間ノ徵兵適齡者ニ就キ
 テ算スルニ百四十四人中一人「ヘルニア」患者アル比例ナリ）

診候 還納性「ヘルニア」ニ在テハ起立、歩行、咳嗽等ノ際腹腔ヨリ一定
 ノ部（臍ヘルニア腹壁ヘルニア外鼠蹊ヘルニア内蹊鼠ヘルニア股ヘル
 ニア閉鎖ヘルニア坐骨ヘルニア會陰ヘルニアノ別アリ）ニ腫瘍ノ如キ
 モノ現出シ、（打診音ハ通常鼓音而シテ患者靜臥スル片ハ腹内ニ還納ス
 其際指頭ヲ共ニ送ル片ハ「ヘルニア」門ヲ觸知ス該門大ナルトキハ指頭
 ヲ腹内ニ達セシムルヲ得ベシ）不還納性「ヘルニア」ハ「ヘルニア」嚢ト
 内容トノ癒着シタルトキ或ハ嚢内網膜肥厚シタル片或ハ盲腸若クハS
 字狀部ノ其附屬腸間膜ト共ニ「ヘルニア」嚢内ニ入りテ移動シ難キトキ

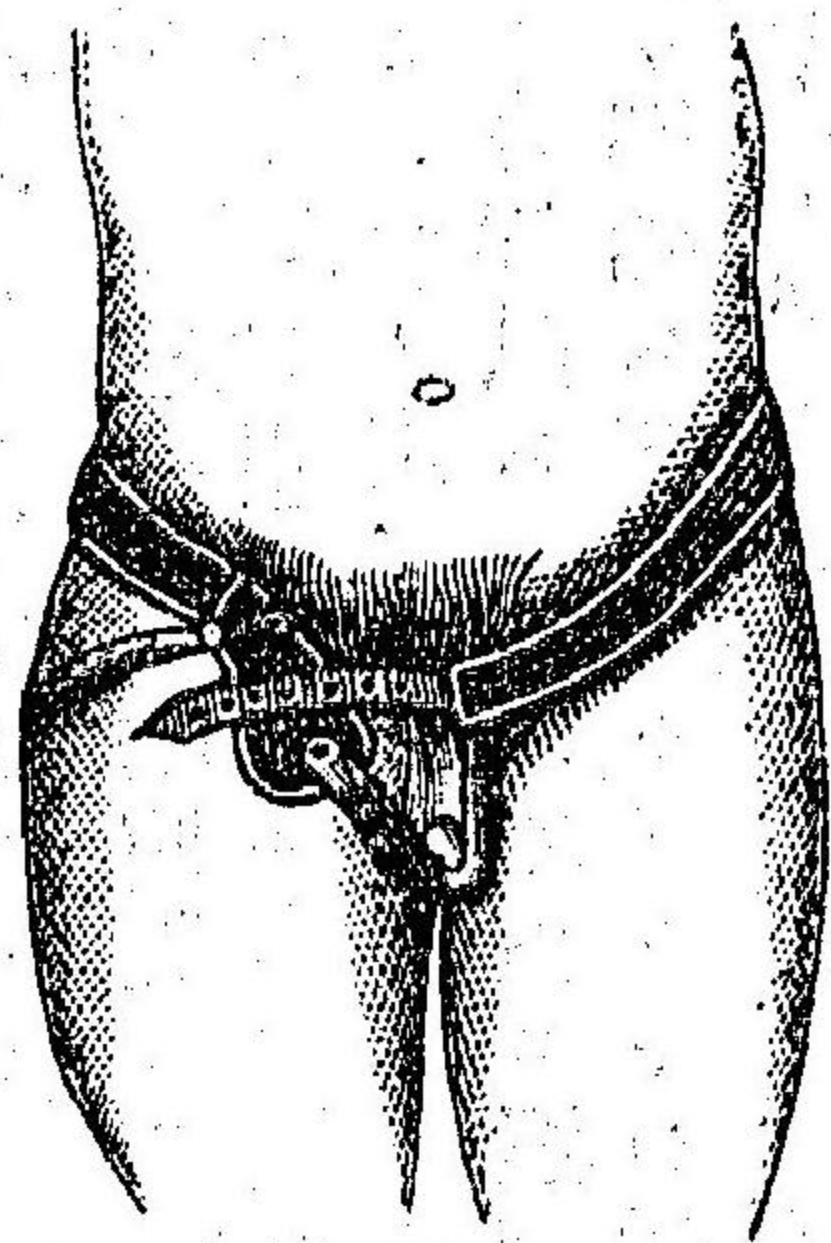
「獨逸」ヘルニア「帶」ニテ鼠蹊
「ヘルニア」ヲ固定シタル圖

圖二十三第



「英吉利」ヘルニア「帶」ニテ鼠蹊
「ヘルニア」ヲ固定シタル圖

圖三十三第



或ハ「ヘルニア」門及頸部大ナルトキ或ハ嵌頓シタルトキニ生ズルモノニシテ腫瘍狀ノモノ腹腔内ニ退却スルコトナシ○嵌頓「ヘルニア」ニ在テハ「ヘルニア」不還納性トナリ疼痛ヲ發シ皮膚モ亦潮紅腫脹シ便秘嘔吐、吐糞、發熱、脈搏甚ダ頻數等、若シ自然ニ還納シ或ハ糞瘻ヲ生ジテ自ラ治シ若クハ手術ニ由テ還納シ得タル場合ヲ除クトキハ卒然心臟麻痺ニ由テ死シ或ハ腸壞疽ヲ起シテ腐敗性腹膜炎ヲ發シテ死ス豫後 還納性ハ良、不還納性ハ嵌頓ヲ發スル虞多シ嵌頓「ヘルニア」ハ不

良ニシテ死亡數二十四%

療法

還納性「ヘルニア」ニ在テハ「ヘルニア」ヲ完全ニ還納シタル後直チニ「ヘルニア」帶ヲ用ユベシ其「ヘルニア」帶ニシテ固定シ克ハザル者ニハ根治手術ヲ施スベシ不還納性「ヘルニア」ニシテ小ナル者ニハ凹窩壓定子ヲ有スル「ヘルニア」帶ヲ施シ或ハ根治手術ヲ用キ大ナル者ニハ常ニ根治手術ヲ用ユ○嵌頓「ヘルニア」ニ在テハ先ツ還納法ヲ施ス（但壞疽ノ兆ナキハ）即チ患者ヲ平臥セシメ骨盤ヲ高クセシメ股及膝關節ヲ屈シ（坐骨「ヘルニア」ニハ下肢伸展閉鎖「ヘルニア」ニハ下肢屈曲外轉）腹壓ヲ減ジ先ツ「ヘルニア」ノ根帶ヲ撮リ輕ク之ヲ索引移動シテ「ヘルニア」門ヨリ疎解ヲ試ミ次ニ雙手ノ指ニテ平等ナル壓ヲ「ヘルニア」根帶ニ加ヘ嵌頓腸管内ノ内容ヲ腹腔内ニ壓送スベシ若シ瓦斯退却シテ「ヘルニア」縮少スレバ還納法其効ヲ奏ス○以上ノ方法ヲ取ルニ種々アリ即チ施術前ニ全身温浴或ハ氈布或ハ氷嚢、或ハ「エーテル」滴下（陰囊、陰莖若クハ陰唇ニ先ツ油ヲ塗り次ニ每十五分間ヅ、ヲ隔テ反覆シテ四十五分乃至三時間ノ後ニ至レバ還納容易ナリ）是ナリ○若シ以上ノ定式還納無効ナルトキハ「クロ、フオルム」麻醉ヲ行ヒ再ビ定式還

納法ヲ行フ而シテ尙ホ無効ナルトキハ遂ニ「ヘルニア」切開術ヲ行フベシ○嵌頓已ニ久シキヲ經タルモノハ壞疽ノ虞アルヲ以テ直チニ「ヘルニア」切開法ヲ用ユ

水疱疹 Herpes. ヘルペス

原因 肺炎、間歇熱等ノ熱性病、帶狀疱疹ハ神經節ノ疾病等
診候 口圍、鼻邊、唇緣、龜頭包皮、小陰唇等ノ粘膜或ハ皮膚ノ軟弱ニシテ知覺過敏ナル部ニ痒痒及灼熱ノ感ヲ前驅シテ發スル水疱疹○皮膚神經ノ分布區ニ應ジテ群生シ神經痛ヲ伴ヒ概テ偏側ニ生ズ
療法 其自然良能ニ任セ唯水疱ノ存在スル間ハ澱粉ヲ撒布シ已ニ痂皮ヲ結ヘル者ニハ脂肪ヲ塗布シ以テ之レヲ軟化セシメ且ツ適當ノ保護繃帶ヲ施ス

- 酸化亞鉛 各五・〇
- 澱粉 右外用
- 右研和撒布用 發熱性虹彩狀疱疹ニハ左方
- 硼酸 鹽規 一・〇
- ラノリン 二・〇 白糖 二・〇
- 二・〇〇 右調和散五包ニ分チ每三時一包

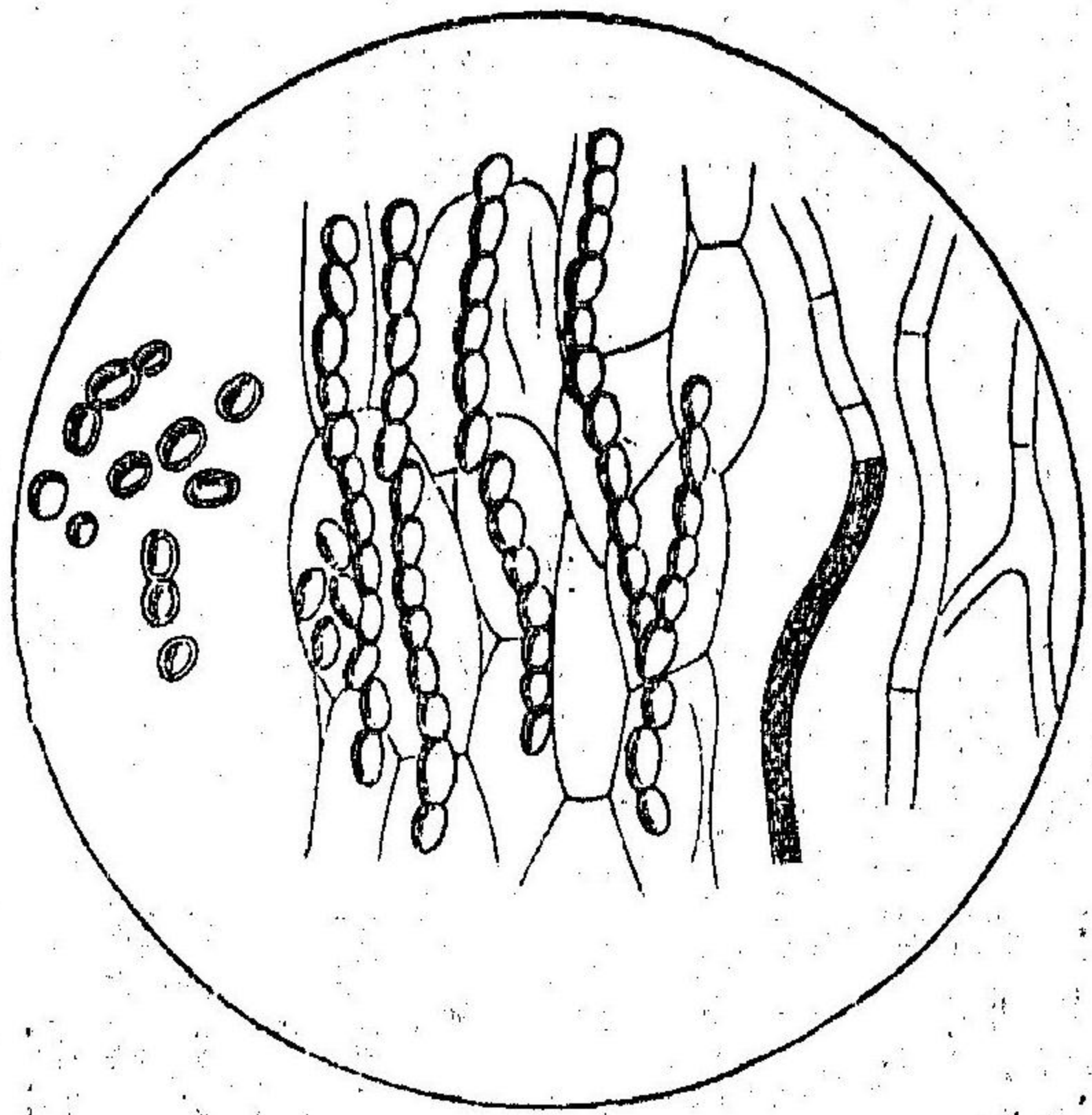
- 口内ニ發スル虹彩狀疱疹ニハ左ノ處方
- クロール酸カリウム 二・〇
- 覆盆子會 一五・〇
- 餾水 二〇〇・〇
- 右調和含嗽料
- ラタニア丁 二〇・〇
- 右塗布料
- 帶狀疱疹ノ疼痛ニハ「モルヒネ」ノ皮下注射或ハ左方ヲ處ス可シ
- アンチピリン 〇・五
- 右爲一包與六包一日三回一包宛
- 荳蔻 五・〇
- ワセリン 三〇・〇
- 右調和軟膏ニ作ル
- 十倍オルトホルム軟膏 一〇・〇
- 右外用

寄生性匍行疹 Herpes tonsurans ヘルペス、トンスラリス

原因 「トリヒョヒートン、トンスラリス」ト名ヅクル寄生植物ニ因ス
診候 表皮ノ剝脫ヲ伴フ赤色疹ニシテ周圍ニ蔓延シ其蒼痕白色ニ變ス多クハ毛髮ノ有ル所ニ發生シテ其毛髮ヲ荒蕪ス
療法 其蔓延尙ホ輕微ナル者ニハ塗擦石鹼軟膏撒布藥等ノ外用ニテ足レリト雖モ廣大ナル者ニハ先ヅ石鹼浴ヲ行ヒ而後石炭酸溶液或ハ「サリチール」酸液ヲ塗擦次テ更ニ澱粉ヲ撒布ス○頭皮木症ニハ白癬ニ對スル處方ヲ以テス

水疱疹 寄生性匍行疹

第三十四圖



トリヒョヒートン

トンプランス

(寄生性匭行疹ノ

原因)四百倍

エピカリン	二〇〇	硫黄	一〇〇
無水アルコホル	二〇〇	ベルガモツト油	二〇〇
右一日一回患部洗滌後塗布		豚脂	二〇〇
十%ナフトール酒精	二〇〇	右爲軟膏外用	
右外用		ルスクス油	一〇〇
五乃至十%サリチール酸酒精	二〇〇	カリ石鹼	二五〇
右外用		硫黄乳	一〇〇
サリチール酸	一〇〇	ラヘンデル精	五〇〇
精製硫黄	三〇〇	ベルーバルサム	一五〇
綠石鹼	各五〇	ナフトール	五〇
ルスクス油	二〇〇	右混和塗擦用	
豚脂	各五〇	カリ石鹼精	五〇
右爲軟膏外用		右塗擦用	
サリチール酸	五〇	石炭酸	各二〇
ルスクス油	二五〇	ラヘンデル精	一〇〇
綠石鹼	一五〇	ブランデー酒	一〇〇
右爲石鹼膏外用		右調和塗擦料	
		サリチール酸	一〇〇

寄生性匭行疹

三四九

ラヘンデル精 各二・〇
 プランデー酒 一〇〇・〇
 右調和塗擦料
 アントラロビン 一〇〇・〇
 オレノフ油 三〇〇・〇
 ラノリン 二〇〇・〇
 右外用
 アントラゾール 五〇・〇
 ワゼリン 五〇・〇
 右外用
 ナフトール 一〇〇・〇
 プランデー酒 一〇〇・〇
 右調和毎日二回塗布但二三日間
 持長
 苛性カリ 二・〇
 石炭酸 一・〇
 ラノリン 九〇〇・〇
 カハオ脂 三〇〇・〇

右調和軟膏ニ作ル
 クリサロビン 五・〇
 ラノリン 二五・〇
 豚脂 一〇〇・〇
 右刷子ヲ以テ擦入ス(顔面ニハ
 用ユベカラズ)
 クリサロビン 二・〇
 トラウマチチン 二五・〇
 右塗布料(顔面ニハ禁ズ)
 綠石鹼 一〇〇・〇
 ナフトール 二・〇
 ラヘンデル精 一〇〇・〇
 右調和二三日間毎夕塗擦
 ガリサール 三・五
 ワゼリン 各三〇・〇
 ラノリン
 右外用
 皮膚炎ヲ呈スルニ至テハ左方ヲ用ユ

酸化亜鉛 五〇・〇
 ワゼリン 五〇・〇
 右調和軟膏ニ作ル
 白降汞 五〇・〇
 ラノリン 四〇〇・〇

ワゼリン 一〇〇・〇
 右調和軟膏ニ作ル
 ウキルキンソン氏軟膏ピロガル、ス軟
 膏ヲ用ヒ就中軀幹ニ發スル斑狀截髮疱
 疹ニ用キテ効有リ

眼瞼麥粒腫

Hordeolum. ホルデテールム

原因 春季發動期ニ多シ

診候 睫毛脂腺ノ化膿性炎ニシテ睫毛ノ近傍ニ發生ス麥粒狀黃色ノ尖端
ニ露ハレ周圍腫起潮紅シテ疼痛アリ

療法 温罌法ヲ行ヒ而シテ時期ノ適應シタルモノハ切開シ或ハ膿點上ノ
睫毛ヲ拔去テ排膿スベシ○屢々再發スルモノハ其炎症ヲ呈セザル時間
ニ於テ毎夕左ノ軟膏ヲ外用ニ供シ結膜ニ收斂劑ノ點眼必要ナリ

混性酸化汞 〇・一
 ラノリン 五〇・〇
 ガリセリン 適宜
 右爲軟膏塗布料
 黃降汞 〇・二
 ワゼリン 五〇・〇
 右調和軟膏ニ作ル
 白降汞 〇・二

眼瞼麥粒腫

ワセリン 五・〇
 右爲軟膏外用
 赤降永 〇・二
 緩和軟膏 五・〇
 右調和軟膏ニ作ル
 硫黃乳 一〇・〇
 フランデー酒 五〇・〇
 ラヘンデル精 一〇・〇

グリセリン 一・〇
 右調和硝子桿頭ヲ用キテ毎夕眼
 瞼ニ塗布ス
 收斂薬法ハ再發ヲ防グノ効アリ
 タンニン酸 一・〇
 餾水 一〇〇・〇
 右毎三四日巻法料トナス

角膜翳 Hornhauttrübung.

ホルンハウト
トリウフング

原因 角膜炎、角膜潰瘍、角膜營養障碍、外傷、鉛製劑ノ誤用經久刺戟等ナリトス
診候 脂肪變性、結締織新生、石灰鹽類ノ沈着等ニ由ル角膜ノ溷濁ナリ其白色不透明ナルヲ白斑 (Leucoma ロイコーマ)、稍ヤ灰白色ヲ帶ビ半透明ナルヲ斑翳 (Macula マクラ)、殆ンド透明ナルヲ薄翳 (Narbe) ヲベクラ) ト云フ又白斑ニ虹彩ノ癒着スルモノヲ癒着性白斑ト云フ其位置及性状ニ依リテ視力障害アリ

療法 膿厚ナルモノハ除去シ難シ適當ノ部ニ虹彩切除ヲ行フベシ淺在性角膜翳ニハ温罨法及左方ヲ處スベシ

甘汞 五・〇
 右撒布料密閉シテ黑色瓶ニ貯フ
 用法ハ毛筆ヲ用キテ角膜ニ撒布シ其量小雲片狀ヲ呈スルヲ度トス

アルモノニハ黃降永軟膏ヲ點入シ五分間ツ、眼瞼上ヨリ按摩法ヲ行ヒ又一日二三回毎三十分時間ノ温罨法ヲ行フモ可ナリ

黃降永 〇・一乃至〇・五
 ワセリン 一〇・〇
 右結膜囊ニ點入ス(黃降永軟膏)
 沃刺 〇・一
 重曹 〇・二五
 餾水 一五・〇

不治症ニハ入墨法ヲ行ヒ然ル後チ可成細狹ナル方式ニテ假瞳孔ヲ作ルベシ
 ゴオニン 〇・一—〇・五—一・〇
 ワセリン 一〇・〇
 右爲軟膏一日二回點眼後眼瞼上ヨリ按摩スベシ
 ヨゴピン 一・〇
 餾水 一〇・〇

右點眼料
 角膜翳ニ尙ホ透明トナルベキ望

右毎同一筒結膜下注射

陰囊水腫 Hydrocele. ハイデンセル

原因 急性陰囊水腫(急性莖膜炎)ハ外傷、淋毒性副睪丸炎及睪丸炎ニ續

角膜翳 陰囊水腫

發ス○慢性陰囊水腫(慢性莢膜水腫)ハ外傷、睪丸炎及ビ副睪丸炎ニ續

發シ或ハ先天性ニ發シ或ハ急性ヨリ轉ズ

診候 急性炎ニ於テハ潮紅、腫脹、疼痛ヲ發シ發熱ヲ伴フ○慢性症ハ陰囊ノ彈力性腫瘍性腫脹ヲ呈シ概テ光線ヲ透射ス

豫後 良

療法 急性症ニ於テハ安靜、水巻法又ハ温巻法ヲ施シ提辜帶ヲ以テ固定ス可シ又イヒチオール軟膏ヲ塗布シテ効アリ○慢性陰囊水腫ニアリテハ根治的手術ヲ用ユベシ

水頭症 (腦水腫) Hydrocephalus.

ヒドロツェファルス

原因 先天性及後天性ノ別アリ又唯腦室内ニミ水ノ蓄積スル者アリ

(腦室水頭症)硬腦膜ト腦髓トノ間ニ水液ヲ含ムモノアリ(腦膜水頭症) 佝僂病或ハ微毒ノ遺傳或ハ父母ノ暴酒等ニ因ス後天性ノモノハ多ク一年ノ頃發ス腦膜及腦室内膜ノ炎症

診候 先天性ニハ頭部總門及骨縫ノ開大、腦室ノ蓄水擴張等ニシテ後天性ニハ其他單純腦膜炎ノ徵候或ハ額大面小、痴鈍、健忘、搖擗等ノ諸症アリ其急性ニ來ル者ハ卒倒、麻痺、聾音等ノ卒中樣諸現症ヲ呈シ

慢性ニ來ル者ハ嗜眠、失語、五感鈍麻及譫語等ノ諸徵候ナリ

豫後 不良

療法 急性症ニハ腦膜炎或ハ腦充血ニ於ケルガ如ク水巻法、冷水灌漑法、刺戟灌腸等ヲ行フ腰椎部穿刺ハ一時的ナルモ腦ノ壓迫ヲ緩解ス

第三十五圖



水頭症

即チ之ヲ施ス部位ハ第三ト第四ノ腰椎ノ椎弓間ニ施ス者アリ針ハ普通ノ皮下注射ニ用ユルモノヨリ少シク大ナルモノヲ用ヒ刺スヲ大抵ニ仙迷ニシテ漏出セシムル液ハ三・五—一〇〇立方仙迷トス○小兒ノ慢性腦水腫ニハ佝僂病及ヒ腺病ノ治則ヲ要スルガ故ニ適當ノ滋養ヲ與ヘ市外ノ空氣ヲ呼吸セシメ良性ノ母乳、鐵、肝油等

ヨードフォルム

一〇〇乃至二〇〇

ハ毎日數回

コロサウム

一〇〇〇

右調和塗布料(前額、額顳及頭部)

含糖炭酸鐵
白糖

五〇〇
二〇〇

水頭症

三五五

右研和散十包ニ分チ朝夕每一包
 ヨードナトリウム(或ハ沃剉)三・〇
 單舎 一五・〇
 鹽水 一〇〇・〇

右調和毎時一小兒匙
 甘汞 一・〇
 白糖 五・〇
 右十包ニ分チ毎日三乃至四包

腦充血 Hyperaemia cerebri. ヒパミアチエレソリー

原因 實性虛性ノ別有リ實性充血即積血ハ心季亢盛、腦及軟腦膜ノ炎症、營養障礙或ハ卒中質ノ血族、暴酒、精神過勞、便秘、胃病、經閉、側枝血行障礙等ニ來リ虛性充血即鬱血ハ、肺氣腫、肺癆、強劇ノ咳嗽、咽喉狹窄、心瓣膜病、脂肪心、心臟麻痺、腦脈管交感神經麻痺等ナリ

診候 要スルニ積血ニ在テハ前頭及顔面灼熱潮紅、耳鳴、結膜充血、瞳孔縮小、眼火閃發、頸動脈及顳動脈ノ搏動、脈搏疾速確實、頭痛、譫語、搐搦、痙攣其他腦卒中様ノ諸徵候ニシテ鬱血ニ在テハ頭痛、耳鳴、眼火閃發等ノ諸症ナレトモ結膜充血顔面潮紅等ナク皮膚冷蒼ナルヲ常トス

豫後 良ナルモ急性發作中ニ死スルコト無キニ非ラズ又慢性ハ原因ニ依テ異ナリ

療法 原因療法ヲ主トシ酒、茶、珈琲ヲ禁ジ房事ヲ慎マシメ便通ヲ整ヘ

凡テ心身ノ過勞ヲ禁ズベシ而シテ重キ發作アルトキニハ頭部ヲ高ク安臥セシメ其病室ヲ暗クシ是ニ於テ瀉血或ハ頭部及心臟部ノ氷巻法ヲ行ヒ四肢ヲ温包シ峻下劑ヲ投ジ或ハ灌腸ヲ施ス

甘汞 各〇・五
 乳糖 各〇・五
 水蛭 五條
 右顯顯或ハ耳後ニ貼用スベシ
 芥子末 一〇〇・〇
 右三乃至四食匙ヲ脚湯ニ加ヘテ

芥子末 等分
 微温湯
 右粥様トシテ布片ニ攤シ薄キ綿紗ニテ腓腸部ニ貼ス五分乃至十五分間ノ後灼熱ヲ感スルニ至リテ之レヲ除去ス

結膜充血 Hyperaemia conjunctivae. ヒパレミア コンジエンクチャーウエ

原因 塵埃、風煙結膜囊内異物、強光線ノ刺戟、屈折異常、不適當ノ眼鏡、眼ノ過勞等

診候 結膜血管充血、羞明異物、乾燥ノ感及頭痛ヲ訴ヘ久シク執務ヲ持續スルコト不能(結膜性眼精疲勞)流淚ヲ常トス但シ眼球結膜ヲ侵スニ

腦充血 結膜充血 三五七

至レバ分泌物多量ナリ

療法 原因ヲ除去センコトヲ要ス

- 一%コカイン水 一〇〇〇
- 右點眼料
- 一%コカイン水 各五〇
- 〇・六%明礬水 各五〇
- 右一日三回點眼料
- 皓礬 〇〇五
- 茴香水 各五〇
- 餽水 各五〇
- 皓礬 一日一乃至三回點眼スベシ 〇・二五

- 阿片丁 十滴
- 餽水 二〇〇
- 右同上
- 〇・二五%硝酸銀水 一〇〇
- 右黑色瓶ニ貯ヘ一日一回點眼ス
- ベシ
- 昇汞 〇〇〇三
- ワゼリン 一〇〇〇
- 右點眼料

妊婦嘔吐 (惡阻)

Hyperemesis gravidarum.

ヒスレメージスグラウキダーム

原因

妊婦ノ神經質、虛弱、萎黃病患者ニ來リ或ハ子宮收縮ニ關スル胃交感神經ノ反射的刺戟ヨリ來ル

療法

輕症ナル者ニハ「アルカリ」性礦泉(セルテル水等)ヲ飲用セシメ便

通ヲ利シ勉メテ身體ノ運動ヲナサシム可シ○其稍々重症ニシテ營養ノ不良ナル者ニハ氷片、コンニヤック酒シヤンパン酒等ヲ與フ可シ○其重症ニシテ毫モ食物ヲ取ルコト能ハザル者ニ在テハ滋養灌腸ヲ行ハザル可ラス○頑固ナル症ニハ子宮腫部ニ十倍ノ硝酸銀液ヲ塗布ス可シ、成ルベク入院治療ヲ行フヲヨシトス、自宅ニアリテハ患者憂愁、心配ノ爲治癒シ難シ、生理的食鹽水ノ皮下注入又ハ注腸ハ方今東西共ニ大ニ賞用セラル、其法皮下注入ニアリテハ毎日一回又ハ二回約一千瓦内外ヲ應用シ

注腸ハ突然高位灌腸ノ如キ方法ニテ初メニ三百瓦ヲ注入シ(胃洗滌ノ如ク)之ヲ除去シ更ニ少シク大量ヲ注入シ又之ヲ出シテ遂ニ成ルベク大量ヲ送リテ止ム○諸法皆効ナク患者衰弱ニ陥キラントスルトキハ最後ノ療法トシテ人工流産及早産ヲ促スニアルノミ、サレド其手術ニ適スル時期ノ撰定ハ甚ダ難事ナリ

- 蓷酸セリウム 〇〇三
- 半夏浸 乾薑 (一四〇) 一八〇〇
- 乳糖 〇・五 單舍 二〇〇
- 右分三包一日三回一包宛

妊婦嘔吐

右一日六回二日分
薄荷腦 一・〇
右爲三包一日三回一包宛
クロロフォルム 十滴
餾水 一〇〇・〇
右調和嘔吐後十乃至二十滴
鹽莫 〇・二
氷醋酸 適宜ヲ加ヘテ溶解シ更ニ
クロロフォルム 五・〇
純アルコホル 一五・〇ヲ加ヘ
右調和五滴糖水ニ和ス
鹽酸コカイン 〇・三
白糖 三・〇
右十包ニ分チ一日二乃至三回一
包
沃丁 十滴
餾水 一五〇・〇
右毎二時一食匙砂糖水ニ和シテ

用ユ
オレキシソ 〇・三
右爲一包與六包一日三回一包宛
レゾルチン 二・〇
單舎 二〇〇・〇
餾水 一八〇・〇
右毎二時二食匙
クレオソート 二十滴
醋酸 四十滴
硫莫 〇・〇六
餾水 六〇・〇
右一日數回一茶匙ヲ水ニテ用ユ
薄荷腦 一・〇
酒精 二〇〇・〇
餾水 一五〇・〇
右調和毎時一食匙

多汗症

Hyperidrosis.

ヒペリドロシス

原因 交感神經ノ疾患ニ係ル皮膚血管神經ノ變常ナリ

診候 身體中殊ニ手足腋窩及ビ臀部等ニ於テ異臭ノ粘汗ヲ多量ニ分泌ス

療法 澱粉ヲ皮膚ニ撒布シ可及的之ヲ乾燥セシメ陰部及腋窩ニハ先ヅ綿

花ヲ挿入シテ軋潤ヲ防グ可シ〇足汗ニハ輕キ靴ヲ擇ビ其内ニ澱粉末ヲ

撒布スベシ又屢々冷水洗滌、鞣酸浴、昇汞浴、櫛皮煎浴等ヲ用キテ効

アリ

ベタナフトール 一〇〇・〇

ケルン水 一五・〇

酒精 一七五・〇

右洗滌料(手ノ多汗症、カボツ

氏)

タンニン酸 一・五

レゾルチン 一・〇

酒精 五〇〇・〇

右塗布料一日數回(手ノ多汗症)

サリチール酸 一・〇乃至二・五

澱粉 五〇・〇

硅酸マグネシウム 五〇・〇

右混和撒布料

四十%フォルマリン 二〇・〇

右足趾、塗布料(表皮剝離アルト

キハ禁ズ)

クローム酸 三・〇乃至五・〇

アルコホル

多汗症

餾水 各五〇・〇
 右調和足蹠及ヒ趾間ノ皮膚ニ塗
 布八乃至十四日毎ニ反覆ス（皮
 膚ニ表皮剝離アルトキハ禁ズ）
 ツメノール 一〇・〇
 グリセリン 各四五・〇
 餾水 各四五・〇
 右塗布料 一〇・〇
 タンノホルム 一〇・〇
 右撒布料 一〇・〇
 ヘブラ氏軟膏 一〇・〇
 右毎夕貼用但シ晝間ハ撒布藥
 ナフトール 五・〇
 酒精 一〇〇・〇
 グリセリン 一〇・〇
 右調和毎日一二回蹠面ニ塗布シ
 テ更ニ其上ニ澱粉ヲ撒布ス
 澱粉 五〇・〇

ナフトール 一・〇
 右混和撒布藥 一・〇
 硼酸末 五・〇
 フゼリン 二五・〇
 右調和軟膏ニ作ル 二五・〇
 醋酸礬土 二〇〇・〇
 餾水 二〇〇・〇
 右調和洗滌料 二五〇・〇
 タンニン 五・〇
 酒精 二五〇・〇
 右洗滌料 二五〇・〇
 イヒチオール 各五・〇
 テレピンテ油 一〇・〇
 亞鉛華軟膏 一〇・〇
 右塗擦料（塗擦前先ツ樟腦丁幾
 ナ以テ塗擦シ置クテ要ス）

比斯的利 Hysteria. ヒステリア

原因 多數ハ遺傳的ナリ即チ精神病、神經病ノ患者、罪人、奇人等ノ子
 孫ニ發ス其他外傷、月經異常、萎黃病。貧血、喜怒哀樂等精神ノ感動、
 生殖器病ノ反射的作用、鉛、アルコホル、煙草、水銀ノ中毒等基因ニ
 シテ婦人ニ多シ然レドモ亦男子ニモ之ヲ發スルコト有リ
診候 些細ノ誘因ニ來ル悲憤哀憂等精神感動ノ變化不定〇五官ノ障害例
 令ハ視野縮小、色盲、弱視、黑内障、耳鳴、難聽、聾、嗅味兩神ノ變
 常〇知覺ノ障害皮膚知覺亡失ヲ全身ニ或ハ半側ニ或ハ一定部ニ發ス而
 シテ一側ノ亡失部ニ金屬板ヲ貼シテ之レヲ他側ニ移轉セシメ得ルコト
 尠ナカラズ之レヲ移轉法 Transfert 稱ス、皮膚知覺過敏モ亦タ諸部ニ
 現ハル、コトアリ特ニ卵巢部ニ發スルコト最モ屢々ナリ卵巢痛ト云フ
 其他諸種ノ神經痛〇運動ノ障害ハ麻痺痙攣及攣縮ノ三種ニシテ麻痺ハ
 或ハ偏癱或ハ截癱或ハ單癱ナリ痙攣ハ間代性及強直性筋痙攣トシテ發
 現ス攣縮ハ上肢ノ屈筋下肢ノ伸筋咬筋等ニ生ズ又癩癩樣發作其他惡
 心、嘔吐、吞酸、嘈雜、ヒステリー壓上等ノ諸症

豫後 生命上良、全治甚ダ難シ

療法 諸般ノ月經異常、萎黃病或ハ貧血症等凡テ其原因療法ヲ第一トシ
而シテ子宮及ビ卵巢ノ状態ニ注意シ腸管ノ機能ヲ整フ可シ○藥劑ニハ
纈草プロームカリウム特效藥ナリト雖モ發作時ニノミ之ヲ投ズ可ク麻
醉劑ハ可成之ヲ避クルニ如カズ○風氣ノ爲ニ發スル呼吸困難ニハ沸騰
散又ハホフマン氏鎮痛液ヲ投ジ腦貧血ニハ興奮劑ヲ處ス可シ○其他適
當ノ職業ヲ執リ且ツ新鮮ノ空氣中ニ運動セシメ時ニ或ハ按摩或ハブレ
ーフエール、ミツル氏ノ「ヒステリー」療法（即チ嚴ニ褥中ニ在テ飽食
安息ニ兼ヌル全身按摩ヲ以テスル者）ヲ施ス可シ○神經的療法ニハ冷
水浴法、礦泉浴、冷水浴ヲ行ヒ其他鎮痙藥ノ内服又ハ適應時ノ電氣療
法、磁石療法、等ヲ試ム可シ

- 臭剝 六・〇
- 龍膽丁 二・〇
- 阿魏 二〇〇・〇
- 右二日分服
- 纈草浸 (一〇〇・〇) 一八〇・〇
- 臭剝 八・〇
- 單舍 二〇・〇
- 右一日六回二日分服
- 阿魏丁 各一〇・〇
- 纈草丁 十滴
- 薄荷油 右毎日三回二十滴宛

- コロシント丁 五・〇
- 阿魏丁 一〇・〇
- 右朝夕十四乃至二十滴砂糖水ニテ用ユ
- 重曹 一〇・〇
- 酒石酸 九・〇
- 白糖 一九・〇
- 薄荷油糖 三〇・〇
- 右一乃至二茶匙(惡心)
- 醋酸鐵丁 二・〇
- 海狸丁 十滴
- 杏仁水 五・〇
- 右調和朝夕每五滴
- 乳酸鐵 各五・〇
- 大黃末 適宜
- 龍膽越 右調和丸六十粒ニ作り一日三回
- 每二乃至三粒

- 纈草丁 五・〇
- ヒステリー鎮靜水 二五・〇
- 右調和毎日三回一茶匙
- 枸橼酸キニー子 五・〇
- 泥菖越 適宜
- 右爲丸十粒毎日三乃至十丸
- 纈草浸 (一〇〇・〇) 一〇〇・〇
- 阿魏 二・〇
- 右調和一日三回每一茶匙
- 纈草浸 二・〇
- 海狸丁 五〇・〇
- 右調和一日四回每一茶匙
- 臭剝
- プロームナトリウム
- プロームアンモニウム 各三〇・〇
- 纈草浸 (五〇・〇) 五〇〇・〇
- 右一日一回乃至三回茶ニ混シ一食匙ヲ用ユ

海狸丁 各二〇〇
 纈草丁 五〇〇
 阿魏丁 一〇〇
 サフラン阿片丁 一〇〇
 右調和一日三回十滴
 ヒステリー性癲癇發作ニハ左方ヲ處ス
 ロート越 一〇〇
 鹽化亞鉛 五〇〇
 ゴム末及ゴム漿 適宜
 右百丸ニ作り毎日一乃至三丸
 硫酸ズホイツン 〇〇〇四
 餛水 二〇〇〇
 右發作時ニ於テ半筒乃至一筒注
 射
 抱水クロラール 二〇〇乃至三〇〇
 鹽莫 〇〇〇一乃至〇〇〇二
 白糖 二〇〇
 右研和散ニナシ頓服

ヒステリー性不眠ニハ左方ヲ與フ
 ブルフオナール 〇〇五乃至一〇〇
 右爲一包就眼前三十分湯ニテ用
 ユ
 パラアルデヒード 二〇〇乃至三〇〇
 橙皮舎 一〇〇〇
 右調和頓服
 抱水アミーレン 二〇〇〇
 右二茶匙ヲ一盞ノ麥酒ニ混和シ
 テ用ユ
 ズムナール 一〇〇〇
 覆盆子舎 二〇〇〇
 餛水 四五〇〇
 右毎夕一食匙
 トリオナール 五〇〇
 右分五包就眼前一乃至二包

魚鱗癬

Ichthyosis.

イヒチオーデス

原因 遺傳ノ他未詳

診候 眞皮炎ヲ伴ハザル表皮層鱗屑狀變化ニシテ四肢ノ背面殊ニ膝蓋
或ハ肘關節部ニ甚シキモノナリ患部疼痛或ハ癢痒等ノ感ナシ

豫後 生命上全ク良ナルモ全治シ難シ

療法 局處療法トシテ微温浴及脂肪、油類、肝油、藥用石鹼ノ塗擦等尙
ホ乾燥ノ條下ヲ參照スベシ内服ニハ肝油、ヨード劑(沃鐵舎)等

- | | | | |
|---------|-------|----------------|------|
| 炭酸ナトリウム | 三〇〇〇〇 | ワゼリン | 二〇〇〇 |
| 右浴湯ニ加フ | | ラノリン | 三〇〇〇 |
| メタナフトール | 二・五 | 右塗擦料 | |
| ワゼリン | 二〇〇〇 | 肥厚セル皮膚ノ剝脱セル部ニハ | |
| ラノリン | 三〇〇〇 | ラノリン | 四〇〇〇 |
| 右塗擦料 | | オレーフ油 | 一〇〇〇 |
| ワゼリン | 二〇〇〇 | 右外用 | |
| ラノリン | 三〇〇〇 | | |

加答兒性黃疸

Icters catarrhalis.

イクテリス
カタラーリス

魚鱗癬 加答兒性黃疸

三六七

原因 胃及十二指腸加答兒ノ波及ニ由テ輸膽管ノ加答兒性粘膜炎腫脹或ハ閉塞或ハ壓迫(加答兒性黃疸、又タ肝性黃疸)ニ因ス○飲食ノ不攝生、感冒、インフルエンザ、腸窒扶斯等

診候 結膜、皮膚及粘膜炎ノ黃色、脈搏遲徐(五十)頭痛、倦怠、神經抑鬱、舌苔黃色、食氣不振、皮膚瘙癢、膽囊及肝臟ノ腫大、壓痛等ニシテ尿ハ暗褐色ニシテ振盪スレバ黃色ノ泡沫ヲ生ジ又クメリン氏ノ膽汁色素反應ヲ呈ス大便ハ灰白色ニシテ惡臭甚ダシ

豫後 良、通常二乃至四週ニシテ治ス

療法 其原因及ヒ其諸症候ニ對スル療法ヲ要スルガ故ニ或ハ胃及十二指腸加答兒ニ對スル所置ヲ行ヒ(該條下ヲ見ヨ)又發熱ニハ靜臥及ビ飲食ノ攝生(脂肪ヲ禁ズ)ヲ命ジ肝部ノ疼痛ニハ該部ニ温罨法其他下劑及ビ利尿劑ヲ與フ○皮膚瘙癢ニハ温浴時ニ効ヲ奏スルコトアリ○ベルツ氏ハ「カル、ス」泉鹽ノ内服及毎日一回多量ノ冷水灌腸ヲ賞用ス

- 硫酸 二〇〇〇
- 人工カル、ス泉鹽 四〇〇〇
- 苦丁 三〇〇〇
- 人工カル、ス泉鹽 三〇〇〇
- 鹽水 二〇〇〇
- 右一日三回二分服 一五〇〇

- 撒曹 右爲一包與五包一包ヲ四〇〇
- 微温湯ニ溶シ毎朝空腹時頓服
- 硫黃 各一・五
- 重曹 右爲一包與十包一日一乃至二包
- 水ニテ用ユ
- 撒曹 五・〇
- 薄荷水 一五・〇
- 鹽水 二〇〇〇
- 右一日三回二分服
- 重曹 各五・〇
- 白糖 右研和散ニナシ毎二時一刀尖
- 便秘ニハカル、ス泉苦水等ヲ投シ其効ヲ見ザレバ左方ヲ處スベシ
- 大黃浸(五・〇乃至八・〇)二〇〇〇
- 薄荷油糖 三・〇

加答兒性黃疸

- 重曹 右每二時一食匙 一〇〇〇
- タマリンド煎(二〇〇〇)一五〇〇
- 酒石酸 二〇〇
- マンナ舍 二〇〇
- 右調和每一食匙
- 重曹 各一〇〇
- 大黃根末 右每食後一刀尖宛 〇〇二
- 蓄木鼈越 二〇〇
- 大黃末 三〇〇
- 白糖 右散十包ニ分チ毎日三包 〇〇二
- ボトフヒルム 〇〇一
- ヒヨス越 五〇〇
- 茴香油糖 右散十包ニ分チ毎日二包 五〇〇
- 皮膚瘙癢ニハ醋洗滌温浴或ハ左方

薄荷腦(或ハサリチール酸) 二・〇
酒精 五〇・〇

右外用

小兒ノ黃疸ニハ安臥靜息ヲ命ジ食禁ヲ嚴ニシテ脂肪ニ富メルモノ即チ乳汁、鰵卵、脂肪多キ肉類ヲ禁ジ專ラ麩麩、馬

鈴薯ノ類、菓物ヲ與フ而シテ便通ヲ利スルガ爲メ左方ヲ處ス 五〇・〇
水製大黃丁 右一日三乃至四食匙
又列氏十二度ヨリ始メ十八度ニ至ル迄ノ水半乃至一リール半ノ腸洗滌

吐糞病

Ileus. イレウス

原因 嵌頓ヘルニア、腸疊積、腸管壓迫、異物阻塞、宿便堆積、腸管轉捩、直腸狹窄等

診候 頑固ノ便秘、放屁缺如、劇性腹痛、嘔氣鼓脹、嘔氣、吐糞、發熱、淺息等ナリ○閉鎖小腸内ニアルトキハ尿中ノ「インヂカン」増加ス大腸ニアルルハ變化ナシ

療法 可及的原因療法ヲ施ス可キモノナルカ故ニ硬糞或ハ異物ノ如キハ之ヲ除クベシト雖モ糞便ノ堆積ニ依ル者ニ非ザル以上ハ峻下劑ヲ與フルコトナク凡テ阿片ヲ用キテ腸ノ蠕動機ヲ鎮靜ス可シ又「アトロピン」ノ皮下注射(〇・〇〇一乃至〇・〇〇二)ヲ用ユ○開腹術ヲ施シテ其障害

ヲ除キ或ハ腸吻合術或ハ人工肛門ヲ造ル等手術ヲ要スルモノ甚ダ多シ
水製阿片越 〇・三
白糖 二・〇

餾水

右溶液ニ一升ノ水ヲ加ヘテ其全量ヲ腸内ニ注入ス 五〇〇・〇

疼痛及嘔吐ノ劇甚ナルモノニハ「モルヒ子」ノ皮下注射又ヘガル氏腸洗滌ヲ施ス其法即チ一升乃至二升ノ水或ハ十倍ノ食鹽液ヲ腸内ニ注入ス或ハ左方

常時若シ障礙物小腸ニアルトキハ胃ノ洗滌法ヲ行フテ其功ヲ奏スルコトアリ然レトモ以上ノ諸法ニシテ其効ヲ奏セザルトキハ直チニ外科的手術ヲ施スベシ 一五〇・〇

傳染性膿疱疹

Impetigo contagiosa.

イムペチゴ、コンタギナーツ

原因 黄色及白色醜膿葡萄狀菌等ニ因ル小兒ニ多シ

診候 専ラ先ヅ顔面手ニ水疱疹ヲ生ジ破レテ黃痂ヲ結ブ

療法 原因ヲ除去シ脂肪或ハ油劑ニ因テ痂皮ヲ軟化シ而シテ軟膏ヲ用ユ

硼酸軟膏

一〇・〇

單軟膏

三〇・〇

右外用

次硝葎

三・〇

白降汞

二・〇

吐糞病 傳染性膿疱疹

ワゼリン
ラノリン
右爲軟膏

各一五〇

〇・五

昇華硫黃
ベルガモット油
ワゼリン
右爲軟膏外用

一二〇〇
十二滴
五〇〇〇

陰痿

Impotenz

イムポテンツ

原因 陰莖ノ器質變性或ハ情慾缺亡、恐懼憤怒羞恥等ノ精神感動、房事過度、手淫、慢性淋、膀胱加答兒、脊髓癆、糖尿病、臭剝或ハ忽布腺ノ中毒等ナリ

診候 男子ノ交接不能或ハ射精不能或ハ精液内ニ精蟲ノ不在
療法 先ヅ其原因器質的疾患或ハ精神的機能ニ在ルヤ否ヤニ注意シ而シテ其精神的機能並ニ手淫ニ因スルモノナルトキハ自己ノ神識ヲ亢奮セシメ又電氣療法或ハ水治法ヲ行ヒ或ハ鐵劑療法ヲ施ス可シ若シ慢性淋病ナルトキハ攝護腺部ノ腐蝕或ハ尿道注射等其局處療法ヲ施ス可シ尙ホ遺精、尿道膿漏及ビ膀胱加答兒ノ條下ヲ見ヨ其他冷却消息子療法ナル方法アリ先ヅ「カテーテル」ヲ尿道ニ挿入シ之ヲ用キテ以テ始メニハ列氏十四乃至十六度ノ水ヲ通ジ次テ九乃至十度迄ノ冷水ヲ通ズルコト

其間五分乃至三十分時ヲ度トスルナリ○又攝護腺部ニ左ノ坐藥ヲ挿入シテ良効ヲ奏スルコトアリ(ヂツテル氏ボルト、ルメイードヲ用キテ挿入ス)近時スペルミン或ハヨヒンピンノ注射ヲ賞用スルモノアリ

タンニン酸

〇・五

餽水

一〇〇〇〇

カ、ガ脂

適宜

右一日六回二日分服

右長サ二仙迷ノ坐藥五個ニ作り

プロームカンフル

〇・二

始メハ毎日半個後ニハ一個挿入

乳糖

一・〇

ヨヒンピン錠(スビーゲル)

右三包トナシ一日三回一包宛

右一日三回一個宛

機酸亞鉛

〇・六

スベルミンエッセンツ

善木髓越

二・〇

右毎日三回三十滴宛食前半時間

泥葛越

適宜

臭剝

六・〇

龍膽丁

二・〇

流行性感胃

Influenza.

インフルエンザ

原因 千八百九十二年フワイフェル氏ノ發見シタル流行性感胃バチルレン

陰痿 流行性感胃

診候 卒然惡寒或ハ寒戰發熱シ劇甚ノ頭痛、身體倦怠、食思缺乏、結膜
鼻咽喉頭及氣管枝加答兒ヲ伴フ（氣管枝炎性インフルエンザ）又嘔
吐或ハ吐瀉、食慾缺乏、腹痛等ヲ發スルコトアリ（胃腸炎性インフルエ
ンザ）又劇甚ナル頭痛、眩暈、重聽、脊痛、薦骨痛、眼痛、四肢痛ヲ
訴フルコトアリ（神經性インフルエンザ）子宮出血ヲ發スルコトアリ又
屢々肺炎、肋膜炎、心内膜炎、中耳炎、皮膚疹等ヲ併發ス○續發症ト
シテ最モ多キハ肺結核、神經衰弱及神經痛

豫後 流行時ニヨリテ良或ハ不良老人及ビ肺、心臟ノ疾病アルハ豫後不
良ニ傾キ肺炎ヲ發スルトキハ豫後疑三日乃至數週

療法 臥褥ヲ命ジ咽喉頭ノ炎アルトキハ頸ニブリースニツツ氏卷法並
ニ含嗽ヲ命ジ其他氣管枝炎ニハ其對症療法ヲ施ス（氣管枝炎ヲ參照）

- サリピリン ○・五乃至一・〇
- 右爲一包與六包一日二乃至三回
- 一包宛（小兒ニハ〇・一乃至〇・
- 四）
- アンチピリン ○・五
- 右爲一包與六包一日三回一包
- フエナセチン 各〇・二五
- 白糖
- 右爲一包與十包每日二包
- ピラミドン ○・三
- 右爲一包與五包一日三回一包宛
- ラクトフェニン ○・五

肋間神經痛

Intercostal-neuralgie.

インテールコスタール
ノイラルギー

原因 感冒、外傷、貧血、ヒステリー、惡液質、癩麻質斯、微毒、中毒、
麻拉里亞、脊椎病、脊髓病、帶狀疱疹、肋骨疾患、婦人生殖器病等
診候 發作性ニ起ル大底第五以下第八肋間ノ神經痛ナリ（左側ニ多シ）深

肋間神經痛

三七五

- アスピリン 右爲一包與六包一日三回一包宛
- 一・〇
- 右爲一包與六包一日三回一包宛
- イントホルム錠 ○・五
- 右毎日三回食後一―二個
- ザロール 一・〇
- 右爲一包與六包一日三回一包宛
- ザロフェン ○・五
- 右爲一包與六包一日三回一包宛
- ロイマザン 二・〇
- 右塗擦料
- 甘乘 ○・三乃至〇・五
- 乳糖 ○・五
- 鹽規 右爲一包與六包一日三回一包宛
- （嘔吐若クハ吐瀉ニ用ユ）
- 二・〇
- 衰弱ヲ發シタルトキハ
- 安息香酸曹達カフエイン ○・一
- 留水 一・〇
- 右一日二乃至四回半筒乃至一筒
- 皮下注射
- 樟腦 一・〇
- ガレノフ油 九・〇
- 右一日數回一筒乃至二筒皮下注
- 射